

中華人民共和国中国人民銀行

日本国独立行政法人国際協力機構

中華人民共和国

西部開発金融制度改革調査

最終報告書

(セクター調査対象地域編)

2006年2月

株式会社 コーエイ総合研究所
オーバーシーズ・プロジェクト・マネージメント・コンサルタンツ株式会社

為替レート
(2004年平均値)
100円 = 7.6552元

はしがき

この報告書は、①政策提言編、②現状分析編、③セクター調査対象地域編、④テクニカルレポート編の4編から構成されている。これらのほかに、要約版を作成した。なお、この報告書の日本語版と中文翻訳版の構成および内容は同一である。

「政策提言編」は、本調査の作業結果を総括し政策提言を提示したものであり、いわば本編に相当するものである。同編では、調査の概要を示したうえで、①西部開発の戦略と展望、②重点セクターの開発課題と資金供給システムの改革、③業態別金融制度改革と金融リスク管理、④金融を補完する関連諸制度の改革について記述し、最後に、⑤西部開発金融制度改革のアクション・プランを掲げている。

「現状分析編」は、政策提言作成の基礎となった現状分析の結果をとりまとめたものである。同編では、①西部開発の現状と課題、②西部開発をめぐる金融の現状、③重点セクターの現状と課題、④西部開発金融制度改革の主要課題、⑤日本および諸外国における政策金融等の経験について、記述している。

「セクター調査対象地域編」は、本調査の重点4セクターに関し、各対象地域で実施した現地調査の結果をとりまとめたものである（産業再生：重慶市および参考としての遼寧省瀋陽市、貧困対策：甘肅省定西地区、農業振興：貴州省、産業インフラ整備：陝西省榆林地区）。あわせて、調査対象地域で実施したアンケート調査の分析結果を収録した。

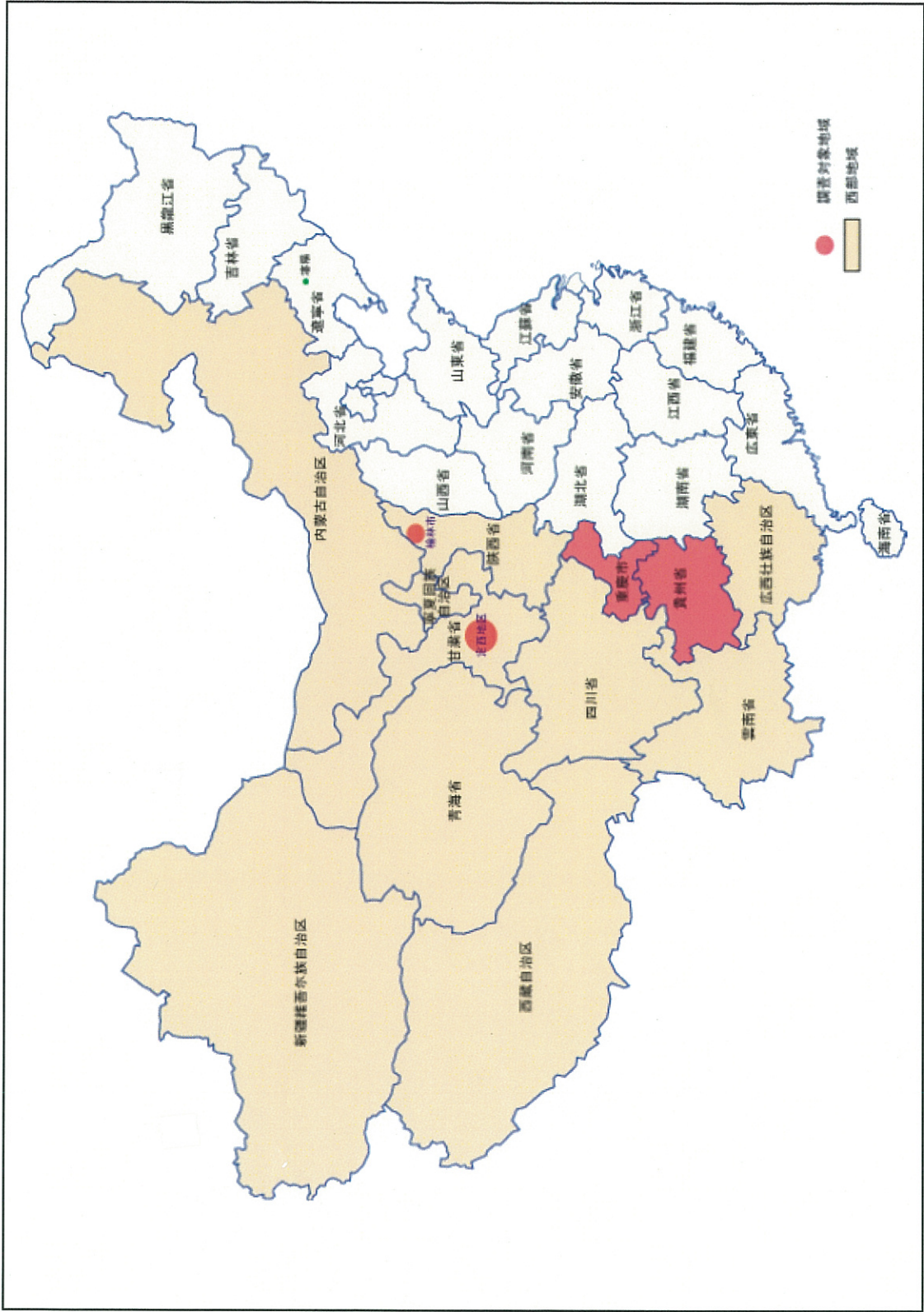
「テクニカルレポート編」は、経済推計に用いたマクロ/多地域経済モデルの構造、予測手法等を取りまとめるとともに、部門別資金需要の推計手法について略述したものである。

なお、「要約版」は、「政策提言編」の構成に沿って作成されている。また、参考までに、「要約版」の冒頭に「提言のポイント」を掲げておいた。

この報告書の諸編が、幅広く参照され活用されることを期待する。

2006年2月

中国西部開発金融制度改革調査団
団長 長瀬 要石



调查对象位置图

中華人民共和国西部開発金融制度改革調査

最終報告書（セクター調査対象地域編）

目次

第1部	調査対象地域セクター調査	
第1章	産業再生：重慶市	1-1
1.1	重慶市の産業構造と産業再生の現状と課題	1-1
1.1.1	重慶市の産業構造の特徴	1-1
1.1.2	重慶市の産業構造調整・産業振興に係る方針と課題	1-2
1.1.3	重慶市の国有企業改革の現状と重点課題	1-4
1.2	重慶市の産業資金需給の現状と課題	1-6
1.2.1	産業資金需給の現状と課題	1-6
1.2.2	重慶市の産業金融制度改革の方向性	1-11
1.3	重慶市の産業金融制度改革のためのアクションプラン	1-13
1.3.1	日本や各国の経験に基づく重慶市産業金融制度改革への示唆	1-13
1.3.2	重慶市産業金融制度改革のアクションプラン	1-14
1.4	参考：瀋陽市	1-17
1.4.1	瀋陽市の産業構造の特徴	1-17
1.4.2	瀋陽市の産業構造調整・産業再生に係る現状と課題	1-18
1.4.3	瀋陽市の産業資金需給の現状と課題	1-21
第2章	貧困削減とマイクロファイナンス：甘粛省定西地区	2-1
2.1	定西地区における貧困の状況	2-1
2.1.1	定西地区の概要	2-1
2.1.2	定西地区の貧困削減対策	2-2
2.2	定西地区での信貸扶貧資金とマイクロファイナンスの実施状況	2-5
2.3	定西地区における貧困削減のための財政と金融の利用の構図	2-8
第3章	農業振興：貴州省	3-1
3.1	貴州省の農業と農業・農村金融の現状	3-1
3.1.1	農業・農村の現状	3-1
3.1.2	農業・農村金融の現状	3-3
3.2	貴州省の農業・農村金融の課題と対応策	3-5
3.2.1	農業振興の課題と対応策	3-5
3.2.2	農業・農村金融の発展へ向けての対応策	3-5

第4章	産業インフラ整備：陝西省榆林地区	4-1
4.1	産業インフラ整備の現状と課題	4-1
4.1.1	陝西省の現状と課題	4-1
4.1.2	榆林地区の現状と課題	4-2
4.2	資金調達の現状と課題	4-4
4.2.1	金融機関の現状と課題：運輸・エネルギーインフラ産業への融資	4-4
4.2.2	榆林でのエネルギー/化学産業への融資	4-5
4.3	開発金融面での対応策	4-5
第2部	調査対象地域におけるアンケート調査	
第5章	国有企業アンケート調査結果の分析	5-1
5.1	調査の実施概要	5-1
5.1.1	調査目的	5-1
5.1.2	調査項目	5-1
5.1.3	調査手法と回収状況	5-1
5.2	調査結果	5-2
5.2.1	重慶市の回答企業の特徴	5-2
5.2.2	瀋陽市の回答企業の特徴	5-2
5.2.3	国有企業の財務・融資の現状と課題	5-3
5.3	結 論	5-8
第6章	マイクロファイナンス・アンケート調査結果の分析	6-1
6.1	調査目的	6-1
6.2	調査手法	6-1
6.3	調査結果	6-3
6.3.1	出費の状況	6-3
6.3.2	借入れの状況	6-3
6.3.3	預金の状況	6-8
6.4	調査結果からみる傾向	6-9
第7章	農業振興アンケート調査結果の分析	7-1
7.1	調査目的	7-1
7.2	調査手法	7-1
7.3	調査結果	7-1
7.3.1	農家の基本状況	7-1
7.3.2	龍頭企業の基本状況	7-3
7.3.3	投資と資金調達の状況	7-3

図表目次

図 1-1	重慶市の経済成長と産業構造の変化	1-1
図 1-2	重慶市の主要製造業セクター（2003年）	1-2
図 1-3	重慶市の産業別固定資産投資（シェア：2004年）	1-7
図 1-4	重慶市の目的別固定資産投資（金額とシェア：2004年）	1-7
図 1-5	重慶市金融機関の預金・貸付残高（億元）	1-9
Box 1-1	重慶市における国家開発銀行による産業金融の現状	1-9
Box 1-2	中国工商銀行重慶市分行による産業金融の現状	1-10
Box 1-3	重慶市国有企業の資金調達事例：長安自動車と重慶鋼鉄	1-11
図 1-6	重慶市国有企業の財務構造改善	1-12
図 1-7	重慶市の長期的産業発展における主体別対応策（プラン）	1-16
Box 1-4	瀋陽市の国有企業事例 1：瀋陽電動機株式会社	1-20
Box 1-5	瀋陽市の国有企業事例 2：金杯自動車グループ	1-20
Box 1-6	瀋陽市の国有企業事例 3：瀋陽工作機械株式会社	1-21
図 2-1	省別農村 1人あたり年純収入(2004年)	2-1
図 2-2	甘粛省と定西地区	2-2
図 2-3	定西地区の地域内総生産額(2002年)	2-2
図 2-4	定西地区の品目別耕地利用割合(2002年)	2-3
図 2-5	定西市の貧困削減戦略の発展	2-4
図 2-6	定西地区県別地域内総生産額と 1人あたり地域内総生産額 (2002年)	2-5
図 2-7	定西地区農村信用社貸付状況（2004年末）	2-6
図 2-8	定西市のリボルビング・ファンドの使用事例	2-8
図 2-9	定西地区での貧困削減に向けての財政と金融の投入	2-8
図 3-1	貴州省の主要農作物の作付・栽培面積（2003年）	3-2
図 3-2	貴州省の農村信用社の預金・貸付残高の推移	3-3
図 3-3	三農問題の課題と対応策	3-5
図 6-1	サンプル世帯の年純収入所得の分布	6-2
図 6-2	世帯の年純収入区分による出費の割合	6-3
図 6-3	世帯の年純収入区分による借入れ実現性の傾向	6-3
図 6-4	世帯の年純収入区分による借入れ先	6-4
図 6-5	世帯の年純収入区分による 1回あたり平均借入金額	6-4
図 6-6	世帯の年純収入区分による資金使途の需要	6-5
図 6-7	借入れ時の問題点	6-5
図 6-8	借入れ先別の実際借入期間と希望借入期間の比較	6-6
図 6-9	借入れ先別の実際借入金額と希望借入金額の比較	6-6
図 6-10	借入れ先別の実際支払い金利と希望金利の比較	6-7
図 6-11	世帯の年純収入区分による借入れ満足度	6-7

図 6-12	生活または事業が改善されなかった理由	6-8
図 6-13	世帯の年純収入と金融機関からの借入れの有無による預金状況	6-8
図 6-14	預金額の分布	6-9
表 1-1	重慶市の国有企業（鈹工業セクター）の位置付けの推移	1-4
表 1-2	重慶市と西部地域における国有企業の位置付け（2002年データ）	1-5
表 1-3	重慶市の固定資産投資の主要資金源（シェア：2004年）	1-8
表 1-4	重慶市の金融機関	1-12
表 1-5	瀋陽市の産業構造（2003年）	1-17
表 3-1	貴州省の概略（2003年）	3-1
表 3-2	期待される農業振興資金	3-6
表 5-1	回答企業の分布	5-2
表 5-2	重慶市国有企業の投資資金源（計画）	5-6
表 5-3	国有企業の資金調達（銀行融資）に係る主要な問題点	5-7
表 5-4	国有企業の発展を制約する主要な問題点	5-8
表 6-1	サンプル村及びサンプル世帯数（甘肅省定西地区）	6-1
表 6-2	サンプル村及びサンプル世帯数（貴州省）	6-2
表 7-1	世帯主の特性	7-2
表 7-2	農家の主な特徴	7-2
表 7-3	主要生産物	7-2
表 7-4	2004年の収入情況（元）	7-3
表 7-5	経営状況	7-3
表 7-6	2002～2004年の投資情況（元）	7-3
表 7-7	農家の今後の投資予定分野と額（元）	7-4
表 7-8	2002～2004年の投資情況	7-4
表 7-9	サンプル企業将来の投資情況	7-5

略 語

ABS	Asset Backed Securities
ADB	Asian Development Bank
ADSL	Asymmetric Digital Subscriber Line
ALM	Asset Liability Management
ASEAN	Association of Southeast Asian Nations
ATM	Automatic Teller Machine
BAAC	Bank for Agriculture and Agricultural Cooperatives
BAC	Bank Assisted Cooperative
BAS	Business Advisory Service
BDC	Business Development Bank of Canada
BDPME	Banque du developpement des PME
BOC	Bank of China
BOT	Build-Operation-Transfer
B-SO-T	Build-Subsidized Operate-Transfer
CBO	Collateralized Bond Obligation
CCC	Commodity Credit Corporation
CDA	Cooperative Development Authority
CDAG	Cooperative Development Assistance Group
CDC	Caisse des Depots et Consignations
CDC	Community Development Corporation
CDM	Clean Development Mechanism
CDO	Collateralized Debt Obligation
CEO	Chief Financial Officer
CEPME	Credit d'Equipement des Petites et Moyennes Entreprises SA
CES	Constant Elasticity of Substitution
CFO	Chief Financial Officer
CGAP	Consulting Group to Assist the Poor
CGE	Computable General Equilibrium
CICETE	China International Center for Economic and Technical Exchanges
CLO	Collateralized Loan Obligation
CMBS	Commercial Mortgage Backed Securities
CMO	Collateralized Mortgage Obligation
CNC	China Network Communications Group Corporation
CNOOC	China National Offshore Oil Corporation
CNPC	China National Petroleum Corporation
CRA	Community Reinvestment Act
CRCT	China Railway Container Transport Co. Ltd.
CRFSC	China Railway Foreign Service Company

DAC	Development Assistance Committee
DCF	Discount Cash Flow
DIP	Debtor in Possession
EBRD	European Bank for Reconstruction and Development
ECGD	Export Credit Guarantee Department
EIB	European Investment Bank
EIF	European Investment Fund
ETC	Electronic Toll Collection System
EU	European Union
FmHA	Farmers Home Administration
GDP	Gross Domestic Product
GE	Grant Element
GIC	Government of Singapore Investment Corporate
GITIC	Guangdong International Trust and Investment Corporation
GMS	Greater Mekong Subregion
GRDP	Gross Regional Domestic Product
GTAP	Global Trade Analysis Project
HSBC	Hong Kong and Shanghai Bank Corporation
IBH	Investitions Bank Hessen AG
IBRD	International Bank for Reconstruction and Development
ICOR	Incremental Capital Output Ratio
IFC	International Finance Corporation
IMF	International Monetary Fund
IPO	Initial Public Offering
IT	Information Technology
JA	Japan Agricultural Cooperatives
JAPIC	Japan Project-Industry Council
JBIC	Japan Bank for International Cooperation
JECC	Japan Electronic Computer Co., Ltd.
JICA	Japan International Cooperation Agency
KfW	Kreditanstalt fur Wiederaufbau
KRI	KRI International Corp.
M&A	Merger and Acquisition
M/M	Minute of Meeting
MBO	Management Buyout
MBS	Mortgage Backed Securities
MF	Microfinance
MIS	Management Information System
MTN	Medium Term Note
NASD	National Association of Securities Dealers

NGO	Non Governmental Organization
NIEs	Newly Industrializing Economies
NOC	National Oil Company
NPO	Non-Profit Organization
ODA	Official Development Assistance
OECD	Organisation for Economic Co-operation and Development
OJT	On the Job Training
OPMAC	Overseas Project management Consultant, Ltd
PF	Project Finance
PFI	Private Finance initiative
PPP	Public Private Partnership
PWLB	Public Works Loan Board
QDII	Qualified Domestic Institutional Investor
QFII	Qualified Foreign Institutional Investors
REA	Rural Electric Administration
REIT	Real Estate Investment Trust
ROA	Return on Assets
ROE	Return on Equity
RTB	Rural Telephone Bank
S/W	Scope of Work
SAARC	South Asian Association for Regional Cooperation
SASAC	State-Owned Assets Supervision and Administration Commission
SB-O-T	Subsidize Build-Operate-Transfer
SCE	Standard Coal Equivalent
SEC	U.S. Securities and Exchange Commission
SOFARIS	Societe Francaise de Garantie des Financements des PME
SPC	Secretariat of the Pacific Community
SPV	Special Purpose Vehicle
TFP	Total Factor Productivity
TOT	Transfer-Operate-Transfer
UNCITRAI	United Nations Commission on International Trade Law
UNDP	United Nations Development Programme
VFM	Value for Money
WAIPA	World Association of Investment Promotion Agencies
WB	World Bank
WTO	World Trade Organization

第 1 部 調査対象地域セクター調査

第1章 産業再生：重慶市

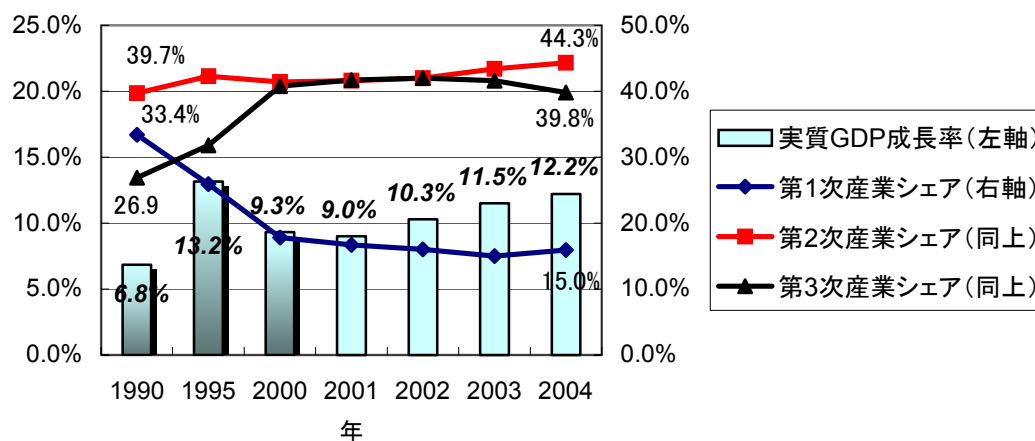
1.1 重慶市の産業構造と産業再生の現状と課題

1.1.1 重慶市の産業構造の特徴

1997年に全国で4番目の直轄市となった重慶は、人口3,100万人を擁する西部地域の中核都市である。都市人口は約1千万人で、上海、北京に次ぐ中国3番目の規模である。古くから重工業基盤が形成されていたことに加え1964年以降の三線建設が加わり、中国最大級の重工業地帯を形成している。それだけに、重工業・大企業中心の国有企業の改革を始めとする産業再生に係る課題は多い¹。

重慶市のGDPは、第1次産業シェアが低下して第3次産業シェアが上昇するなかで、第2次産業シェアが微増となっており、鉱工業セクターは同市の産業構造において依然、重要な位置を占めている。西部大開発に関連した基礎インフラ投資を始めとする積極的な財政投入によるマクロ需要創出の結果、2001年以降も相対的に高い成長を続けている(図1-1参照)。特に、基本建設投資を始めとする全社会固定資産投資が大幅に増加している。このようななかで、都市インフラ整備や不動産開発に係る第3次産業が経済成長を牽引しており、同産業シェアが急速に伸びているものの、先進国における「産業構造のサービス化」とは若干、異なる様相を呈している。

図1-1 重慶市の経済成長と産業構造の変化



(注)実質GDP成長率の1990、1995、2000年の各数値は前5年の年率平均。

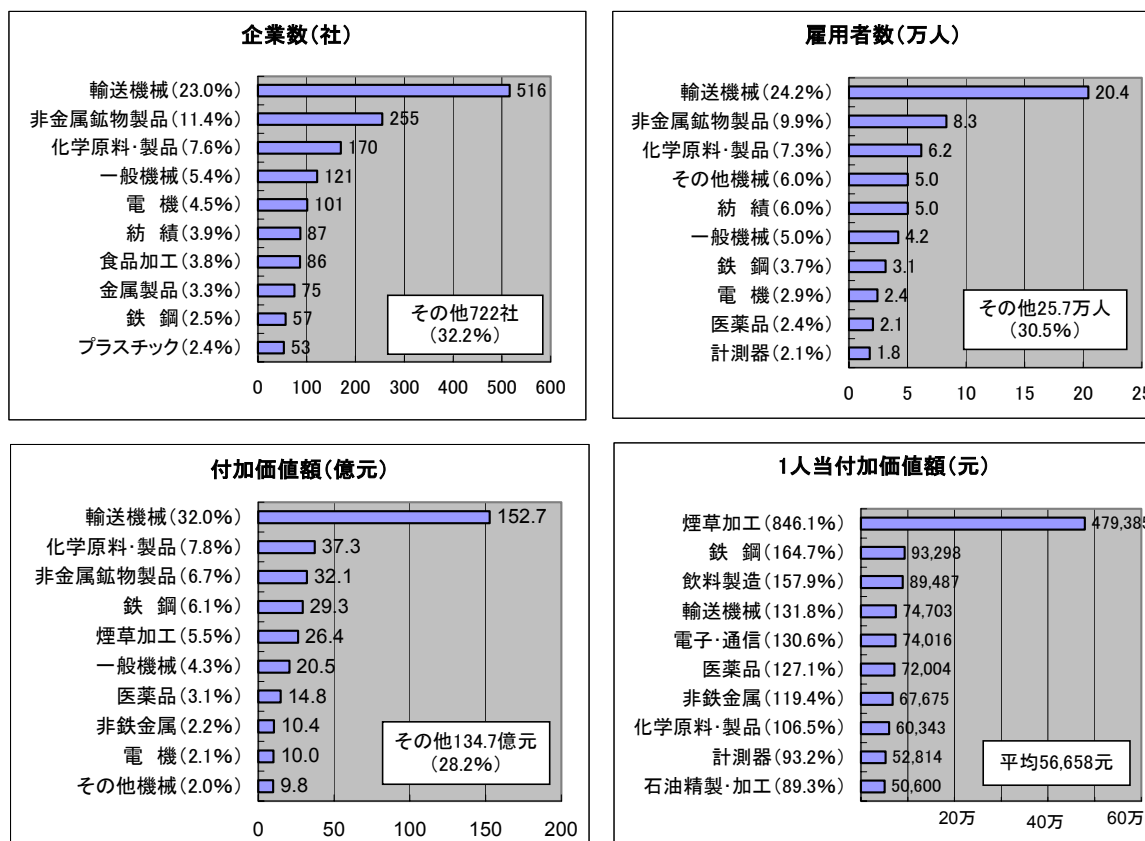
出所：重慶統計年鑑各年版に基づき調査団作成

重慶市では、輸送機械(自動車・二輪車産業)、金属、化学が「三大支柱産業」である。特に、輸送機械は企業数、雇用者数、付加価値額のすべてにおいて重慶最大の産業シェアを有している(図1-2)。また、独占部門である煙草加工を除くと、鉄鋼、

¹ 重慶市の主要経済指標の推移については章末の付属資料を参照。

飲料製造、輸送機械、電子・通信、医薬品、非鉄金属、化学原料・製品の各セクターが製造業の平均以上の1人当たり付加価値額を有し、重点セクターの位置を占めている。

図 1-2 重慶市の主要製造業セクター (2003年)



(注) 産業セクター名横の () 内数字はシェア、ただし1人当付加価値額については平均に対する比率
出所：重慶統計年鑑 2004 年版に基づき調査団作成

1.1.2 重慶市の産業構造調整・産業振興に係る方針と課題

これまでの重慶市の産業構造調整の特徴として、(1) GDP や全社会固定資産投資に占める非国有企業部門シェアの上昇と重工業・大企業中心の国有企業セクターの相対的な地位の低下、(2) 全社会固定資産投資における第2次産業から第3次産業へのシフト²、があげられる。すなわち、重慶市では住宅・都市建設等への財政投入の集中を呼び水とした民間セクターや不動産業等の第3次産業の発展と、それに伴う産業構造の多様化が進み始めており、今後もこの傾向が続くと考えられる。

² 全社会固定資産投資における第2次、第3次産業のシェアは8五期にそれぞれ49%、50%だったが、9五期には27%、72%となった [重慶統計年鑑 2001 「九五时期我市国民经济和社会发展回顾」]。

また、二輪車、自動車、同部品産業を始めとする機械産業の集積は重慶市の大きな強みであり、今後も輸送機械³を中心に、食品、化学、医薬等、第10五計画（2001～2005年）において四大支柱産業とされている重点産業の一層の充実・競争力強化が課題となる。すでに、伝統的な工業地域の外で新たな工業開発区の大規模な整備が進み、輸送機械を始めとする重点産業分野の外資・民間資本による産業発展が進展しつつある。西部大開発政策を踏まえて、重慶市は「西部大開発50条政策」を実施しており、内資企業、外資企業の双方に対して2001年から2010年まで企業所得税を33%から15%に軽減することにより、積極的な外資導入と産業振興を図ろうとしている。

一方、伝統的な重工業分野では、素材型製造業を中心に全般的に停滞傾向にあると見られる。今後の市場経済下での競争環境を考慮すると、重工業・大企業中心の国有企業セクターでは、素材型製造業と加工組立型製造業との間にその潜在力と発展度合いにおいて二極化の様相が見られ、今後もその傾向が強まると考えられる。すなわち、鉱物資源に恵まれてはいるものの、内陸部に位置し大型輸送船による物流が不可能な重慶市では素材型（バルク型）製造業の比較優位条件が少なく、金属、化学等の装置型製造業においては、西部地域の域内需要を対象とした事業展開が基本となる。一方、自動車を始めとする加工組立型の機械工業分野においては、外資を含む新規投資の蓄積によって一定レベルの競争優位条件を備えつつあり、西部地域の域内需要だけでなく、中・東部地域の需要にも期待を寄せることができる。

中長期的に西部地域の中枢産業都市としての発展が期待される重慶市では、成都市や昆明市との連携強化による長江上流地域ベルト地帯の形成・強化が産業構造調整における最重要課題である。今後、港湾・鉄道・物流インフラの一層の整備による「西部地域のゲートウェイ」としての機能を強化するとともに、既存の重工業企業の経営構造改善と環境・公害対策の高度化、資源・エネルギー利用効率の大幅な向上を図り、外資を含めた民間投資を加速するための魅力的な産業立地基盤を早急に整備する必要がある。特に、重慶市では重工業セクターのエネルギー消費量が多く⁴、中国全体の電力不足を背景に、大きな問題となっている。国有工業企業の生産効率・コスト競争力向上の観点からも、省資源・省エネルギーは重要な課題であり、省資源・省エネルギー投資を通じた生産コスト低減・生産効率向上を図ることが、国有企業改革の実践上、重要である。

また、人口の80%を占める農村人口の所得向上とこれを誘発する軽工業発展も産業構造調整に係る重要課題である。重慶市の軽工業シェアは減少傾向にあるが、重工業が農村地帯の経済・雇用に直接好影響を及ぼすことが困難なことから、農産物を原料とする軽工業を発展させるために、マクロ政策上、軽工業発展による産業構造

³ 2002年の輸送機械工業の総生産額は467億7600万元（前年比+24.6%）、オートバイ生産は323万4千台で全国生産の30%（第1位）を占め、四輪者生産台数は33万1千台（前年比+35.7%）である。日本の本田、ヤマハ、鈴木、いすゞ等のメーカーに続き、米国フォード社が2001年に合弁事業（国有企業である長安汽車との合弁）による乗用車生産を開始している。

⁴ 新聞報道では重慶市電力消費の約2/3を鉱工業セクターが占めている[重慶夕刊2004年8月16日]。

調整に資金投入を振り向けるべきだとの意見もある〔重慶統計年鑑 2001 「九五期間我市 GDP 持续稳定增长，综合财力不断增强」〕。第 10 五計画では、食品原材料加工と加工食品分野の強化を図ることにより、2010 年までに食品工業を 5 大支柱産業の一つにすることが計画されている〔華竜網 2004 年 8 月 16 日〕。

さらに、一部の大中型企業以外に収益力の強い企業が多くないことも、鋳工業セクターにおける構造的問題である。2003 年上半期の鋳工業セクターの経常利益合計は 110 億 700 万元（前年比+28.8%）であるが、上位 16 企業⁵の合計額がその 66%を占めている〔華竜網 2004 年 8 月 2 日〕。したがって、大中型国有企業の株式会社化・グループ化に伴う再編の過程で、旧国有を含めた中小企業の再編・強化、有望企業の競争力強化等を通じた産業連関とサプライ・チェーンの強化を図ることが必要である。

1.1.3 重慶市の国有企業改革の現状と重点課題

2004 年末の重慶市の鋳工業国有企業数は 529 社で、約 43 万人の雇用を擁している（表 1-1）。国有企業改革の流れの中で、各指標に占める国有企業のシェアは、年々低下傾向にあるが、国有企業は雇用と付加価値額のうえで依然、大きな比重を占めている。そのなかで、1 企業当り付加価値額と 1 雇用者当り付加価値額が大幅に増加しており、労働者削減、生産効率向上、企業集約化等による一連の国有企業改革の成果がでてきている。また、資本金における国有比率は 2004 年には 40.3%にまで減少しており、資本構造の多様化が進展しつつある⁶。一方、重工業分野では、依然、国有セクターの占有率が高く、大企業分野での国有セクター占有率も企業数、雇用者数、付加価値額、総資産、負債合計のいずれにおいても 90%以上で、「重工業・大企業」中心という重慶の国有セクターの特徴は健在である⁷。債務株式化や資産負債率の改善を通じた国有企業の財務構造改革が進められているものの、一定規模以上の非国有企業に比べて経常利益率が高い一方で ROA は低く、国有企業の経営効率は依然、相対的に低い。

表 1-1 重慶市の国有企業（鋳工業セクター）の位置付けの推移

年	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004
企業数（社）	1,054	976	931	726	633	573	529
シェア（%）	52.7%	49.4%	45.6%	35.3%	30.6%	25.5%	20.1%
雇用者数（万人）	90	75	63	53	49	44	43
シェア（%）	77.5%	74.6%	69.6%	63.4%	59.3%	51.9%	47.8%
1 企業当雇用者数（人）	856	768	679	735	769	763	813
付加価値額（億元）	152	176	199	-	236	285	338
シェア（%）	72.6%	73.3%	69.2%	-	59.5%	59.6%	58.5%
1 企業当付加価値額（万元）	1,444	1,807	2,137	-	3,734	4,970	6,380
1 雇用者当付加価値額（元）	16,877	23,535	31,461	-	48,575	65,103	78,437
国家資本比率（%）	59.5%	50.6%	53.2%	47.1%	43.6%	34.8%	40.3%

（注）シェアは鋳工業企業全体に対する国有企業部門のシェア

出所：重慶統計年鑑各年版に基づき調査団作成

⁵ 上位 16 企業は长安汽车股份、长安福特、重庆烟草、重钢股份、长安铃木、电力公司、长安汽车集团、珞璜电厂、庆铃集团、黔江卷烟、川维厂、扬子江乙酰、重庆啤酒、太极集团、力帆实业、西南铝业。

⁶ ただし、実際には従業員やグループ会社が国有企業の株式保有をしているケースが多いと見られ、資本市場で交換性のある資本が増加しているとは考えられない。

⁷ これらの重慶市国有企業基礎データ（一部、加工済み）については章末の付属資料を参照。

一方、重慶市、西部地域と全国とを比較すると、重慶市と西部地域では相対的に国有企業への依存度が高い(表 1-2)。特に、重慶市では国有企業当り総生産額が全国平均に比べて高い一方、国有企業当り付加価値額は低くなっており、大規模国有企業の集積があるなかで、付加価値率が相対的に低い。また、西部地域全体では、四川省を除き、国有企業当り総生産額と国有企業当り付加価値額がいずれも全国平均に比べて小さく、経営効率の高い一定規模以上の国有企業の集積が小さい。

表 1-2 重慶市と西部地域における国有企業の位置付け(2002年データ)

	全 国	重慶市	西部地域計 (参考)			
			貴州省	甘肅省	四川省	
国有企業数(社)	41,125	633	10,172	1,191	748	1,324
全国シェア(%)	100.0%	1.5%	24.7%	2.9%	1.8%	3.2%
鉱工業企業数に対するシェア(%)	22.7%	30.7%	43.2%	57.6%	23.3%	27.0%
(参考) 鉱工業企業数(社)	181,557	2,060	23,521	2,067	3,204	4,908
総生産額(億元)	45,179	743	8,290	588	740	1,467
全国シェア(%)	100.0%	1.6%	18.3%	1.3%	1.6%	3.2%
鉱工業セクター総生産額に対するシェア(%)	40.8%	60.5%	62.7%	73.6%	71.5%	53.6%
国有企業当り総生産額(万元/社)	10,986	11,737	8,150	4,933	9,895	11,078
(参考) 鉱工業企業当り総生産額(万元/社)	6,101	5,963	5,624	3,860	3,232	5,577
付加価値額(億元)	15,935	236	3,218	218	251	562
GDPに対するシェア(%)	15.2%	12.0%	16.0%	18.4%	21.6%	11.5%
全国シェア(%)	100.0%	1.5%	20.2%	1.4%	1.6%	3.5%
鉱工業セクター付加価値額に対するシェア(%)	48.4%	59.5%	72.0%	80.3%	73.6%	57.5%
国有企業当り付加価値額(万元/社)	3,875	3,734	3,164	1,828	3,350	4,246
(参考) 鉱工業企業当り付加価値額(万元/社)	1,815	1,929	1,901	1,312	1,063	1,992

出所：中国統計年鑑、重慶統計年鑑各年版に基づき調査団作成

現在、重慶市では重慶市国有資産監督管理委員会(国資委)が設立され、国有企業の管理・組織改革に対する監督・管理体制を強化している。重慶市国資委が管掌する重点国有企業は34社あり、2003年にはこれらの企業の国有資本価値は増加したとされる。また、国資委は、国有企業改革に伴う一時帰休者・失業の定義を明確化し、保障制度の整備、起業の際の優遇策整備を進めている。このように、重慶市の国有企業改革においては、中央政府の方針に基づき、近代的企業制度の導入・深化、株式会社組織への改編・整理、債務株式化の導入、不良企業の政策的破産と市場からの退場、リストラ労働者に対する保障・優遇策の整備等が進められている。これまでの国有企業改革には一定の成果が見られるが、近代的企業制度の初歩的な導入や赤字経営からの脱却と利益率の向上というフローの財務面での成果が中心で、抜本的な国有企業改革はまだ道半ばであると考えられる。

以上の考察を踏まえて、将来の産業構造調整のあるべき姿を念頭に置いた今後の重慶市の産業再生(国有企業改革)に係る課題を整理すると、次のようになる。

(1) 重点産業の育成・強化

機械産業を始めとする重点産業をより競争力のある経済効率性の高い産業に発展させるとともに、食品、医薬等の軽工業、ハイテク分野等、次代の重点産業育成に取り組む必要がある。重慶市のマクロレベルでの短期・中期・長期に分けた数量的な開

発目標、成長目標を設定した上で、これらの重点産業の構造調整と成長促進を図るための具体的な優遇策や官民の資金供給メカニズムを検討し、規制緩和や企業経営の透明性向上、資本市場、社会保障制度等の各種の制度整備を進めて、外資・民間資本の積極的な導入を図る。特に、重点国有企業における管理・組織面の改革を一層進めて、新規株式や社債の発行等による資金調達が多様化を実現できる内部環境の整備を図る必要がある。同時に、近代的企業制度の浸透を一段と進めて、経営力・財務力の強化を図るとともに、今後の国内外の競争条件激化のなかで、これまでの主力製品分野の競争優位性を十分に検討した上で、利益を生まない設備資産の整理（廃却）と収益力のある製品分野への集中を高めることが重要である。したがって、重点国有企業における財務・資産構造の改善と事業分野の再編を実現するための制度上の環境整備や具体的な資金供給メカニズムの検討を行うとともに、最終的には、これら重点国有企業の段階的民営化を実現するための制度設計が必要となる。

(2) 競争劣位産業・環境汚染産業の整理・再編と環境・エネルギー対策

従来の重点産業といえども、競争力がなくエネルギーの多消費と環境汚染（負荷）を引き起こしている国有重工業企業の設備については、閉鎖・廃却（資本ストック調整）を積極的に進める。また、西部地域の一定の競争力と産業チェーンの維持に不可欠な産業セクターの国有企業については、環境・エネルギー面での設備更新・操業条件改善を積極的に図る。環境・エネルギー問題は、大規模重工業における国有企業改革の重要課題であり、これらの対応を通じて重慶市の魅力的な産業立地基盤を強化していくことが必要である。

(3) 中小企業の振興・活性化

これまでの国有企業改革に伴い、大多数の中小国有企業は民営化された。活力ある民間中小企業セクターの存在は、大中型工業企業を支えるサポーター・インダストリーとして重慶市の産業連関上、重要であるだけでなく、大中型企業の構造改革に伴う雇用の受け皿や起業の予備軍としても重要である。重慶市の中長期的な産業構造調整のなかでの中小企業セクターの役割を明確にした上で、民営化された旧国有中小企業の経営・財務構造の一層の改善を進めるとともに、発展しつつある民間中小企業セクターの支援メカニズムを構築する必要がある。

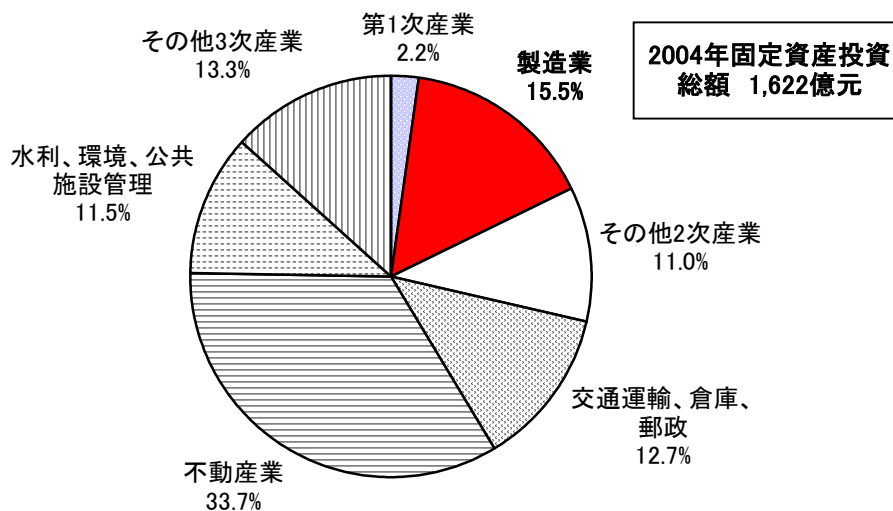
1.2 重慶市の産業資金需給の現状と課題

1.2.1 産業資金需給の現状と課題

重慶市では、大規模な固定資産投資に牽引された経済成長が続いている。2004年の全社会固定資産投資総額は、1,622億元で、名目GDP比は60.1%に達した。しかし、その内容は道路整備を始めとする交通、電力、用水等の基礎インフラ・都市インフラ建設と住宅やオフィス建築等の不動産開発が主体で、製造業を始めとする産業セクターの固定資産投資のシェアは小さい（図1-4参照）。また、急増する固定資産投資を牽引しているのは「建築安装工程」で、主要な設備機械への投資である「設備工具器具」シェアはむしろ低下傾向にあり、産業セクターの設備投資は緩慢であると推定される（図1-5参照）。これらの点から、国有企業主体の重工業セクターを中心

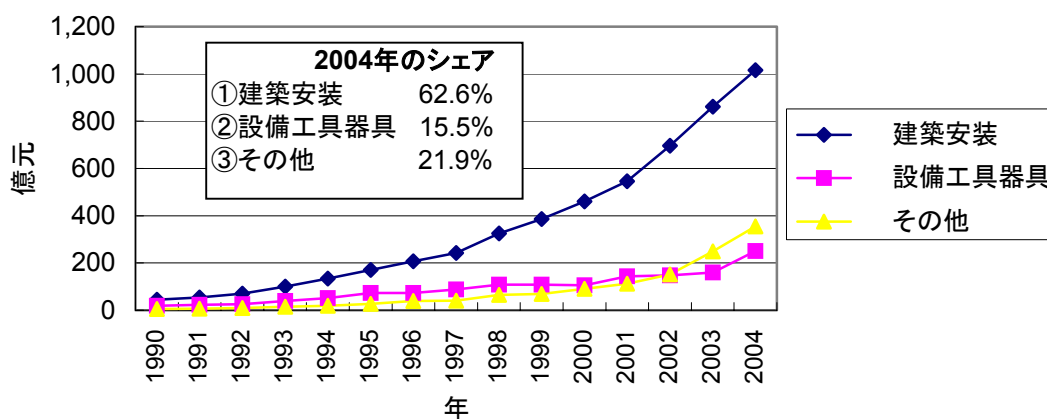
に、重慶市の産業セクターでは資本ストックの老朽化が進んでおり、事業構造再編・強化のための産業資金需要は強いと見られる。しかし、「更新改造」投資に係る主な資金源は全体の約 2/3 を占める「自己調達資金」であり、「国内借入」比率が基本建設投資と比べて小さいなど、優良な設備資本ストック形成のための資金源は、規模・種類ともに限定的である（表 1-3 参照）。

図 1-3 重慶市の産業別固定資産投資（シェア：2004年）



出所：重慶統計年鑑 2005 に基づき調査団作成

図 1-4 重慶市の目的別固定資産投資（金額とシェア：2004年）



出所：重慶統計年鑑各年版に基づき調査団作成

表 1-3 重慶市の固定資産投資の主要資金源（シェア：2004年）

	合 計	基本建設	更新改造	不動産
当年調達資金(億元)	1,632	910	168	532
国家予算内資金	6.4%	10.5%	3.6%	0.1%
国内借入	24.8%	30.8%	25.2%	14.7%
債券	1.1%	1.9%	0.0%	0.0%
外国投資	2.8%	3.7%	1.3%	2.0%
自己調達資金	41.0%	40.1%	64.8%	34.5%
その他資金	23.9%	13.0%	5.1%	48.7%

出所：重慶統計年鑑 2005

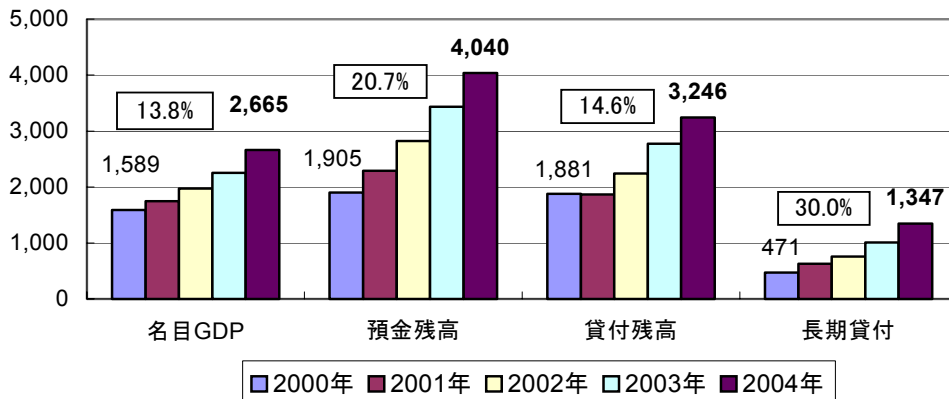
重点産業セクターでの新規設備投資資金需要も、今後増加すると考えられることから、環境・エネルギー対策を含めた各企業の事業構造の改善と優良な産業資本ストック形成に向けた適正な資金需要に見合う効果的な資金供給を実現することが重要となる。

重慶市では、金融機関の預金残高と長期貸付が順調に増加するなかで、貸付残高全体の伸びは緩やかなものとなっており（図 1-5 参照）、重慶市企業の国有・民間商業銀行等の金融機関からの借入（間接金融）は一部の国有大企業を除いて難しい状況にある⁸。産業金融融資に係る唯一の政策銀行である国家開発銀行重慶市分行は、1999年3月の開設以来、国有企業向けの中長期融資を増やしているが、大部分がインフラ開発プロジェクト（インフラ投融資会社）向けの融資である。また、産業分野向けの融資期間10年以上の長期・低利融資が存在しないことに代表されるように、産業セクターや投資目的に応じた資金供給・金利面での優遇がないなど、産業向け間接金融の資金ソースが細く限定的である。さらに、国家開発銀行が中小企業向けに民間金融機関を通じた代理貸付を開始し、中小企業担保公司ができるなど中小企業向け間接金融の制度整備が始まっているが、その資金供給規模は依然小さい。

間接金融市場からの資金調達が限定的ななかで、資本市場に上場している一部の有力な国有企業では、事業分野の拡大・充実を目的とした新規投資のために、資本市場での資金調達（直接金融）を模索する動きが活発化している。重慶市政府は、大型国有企業の事業構造改善・新規事業参入のための多角的な資金調達ルートの確保を重要課題として、政府がリードする形で直接金融拡大に努力している模様である。しかし、上場企業の数そのものが少ない上に、資本市場の未成熟さと企業経営の透明性の欠如や情報開示の不足等により、直接金融市場での資金調達は伸び悩んでいる。

⁸ 重慶市が2004年に調査した567企業の大多数が銀行融資を唯一の資金調達手段としてあげる一方、政府の緊縮政策の下で資金繰りが厳しいとしている [華竜網 2004年8月5日]。

図 1-5 重慶市金融機関の預金・貸付残高（億元）



(注)ボックス内の%数値は2000-2004年の年率増加率

出所：重慶統計年鑑各年版に基づき調査団作成

Box 1-1 重慶市における国家開発銀行による産業金融の現状

1999年3月に業務を開始した国家開発銀行重慶市分行の融資残高は約320億元（2004年）で、年間約100億元の新規融資の実行に伴い融資残高は増加している。(1)交通網・都市機能整備等のインフラ整備、(2)エネルギー・発電・送電、(3)通信、(4)天然ガス、医薬、化学工業、自動車等の重点産業、の4分野に対する融資を中心としている。融資先の約90%が国有企業だが、主体は8社ある重慶市のインフラ投融资会社向けと見られる。過去に市財政部の財政負担で実施された都市インフラの建設・運営・管理を、現在は近代的企業制度に基づいて設立された国有投融资会社が行っており、同行融資の多くがこれらに向けられている。同行は重点産業向けの融資には注力するものの、今後5-10年は引き続きインフラ資金需要対応の融資が増加すると見ている [調査団によるヒアリング 2004年9月]。

また、新聞報道によれば、同行は2007年を目処に中小企業向けに約100億元の2ステップローンの貸付けを行う計画である。これまでに9つの区・県の各政府と中小企業ローンに係る協力協定を結び、①地方政府内に中小企業融資担当部局を定めて起業支援・個人信用システム構築を実施、②開発銀行内に中小企業融資（代理貸付）の受理・審査・管理の部門を設立・運用、③中小企業への信用保証提供の仕組みの整備、④中小金融機関による融資実行・管理、を進めている [华龙网 2004年10月26日]。

Box 1-2 中国工商銀行重慶市分行による産業金融の現状

四大国有商業銀行の中で産業金融を主に担ってきた工商銀行の伝統に漏れず、重慶市の産業金融において同行は重要な役割を果たしている。同行融資の特徴(現状と課題)は、(1) 国有企業向け融資の比率が高い、(2) 重慶市の伝統的産業を対象にさまざまな産業セクターに融資している、(3) 短期融資比率が高い、(4) 産業向け融資の質が高くない、(5) 融資先国有企業の信用レベルが総じて低い、ことである。2004年6月時点の顧客国有企業数は約940社で全顧客数の46%を占める。総資産は約700億元で、企業向け融資は約430億元、そのうち国有企業向けは70%に当たる約300億元である。また、国有企業向け短期融資は約180億元で60%を占めている。同行の不良債権比率は工商銀行平均よりも高い。重慶市の国有企業改革政策に従って、国有企業向け融資において3つの異なる状況に応じた融資方針を打ち出している。第1は重要企業・競争力産業向けの「大きく強くさせる」ための融資、第2は国有企業の改革・改善を促進させるための融資、第3は改革・発展の見込みのない企業に対して政策的破産を含めた廃業を促進させるための対応、である。同行はこれまで交通・電力セクターを始めとする大企業向け融資に積極的に対応してきたが、今後も競争力ある重点産業・企業や国有企業を対象に融資を行うとともに、融資以外に企業の資本市場での資金調達や決算・業務支援等の幅広い分野での産業金融・業務支援を行う方針である [調査団によるヒアリング2004年9月]。

Box 1-3 重慶市国有企業の資金調達事例：長安自動車と重慶鋼鉄

長安自動車は、1957年以来、自動車製造を行い、鈴木、フォードとも合弁事業を行う重慶市有数の国有製造企業である。資金調達源は自己資金、銀行融資、資本市場からの調達の3つで、銀行融資は約20%を占める。銀行融資の大半は2000年に中国建設銀行から調達した融資期間3-5年の設備投資資金で、最優遇金利で調達した。現在、今後5年間の資金計画を策定中で、資金調達の多様化を図る予定である。2004年9月に重慶市政府と中央政府の認可を得て、深圳株式市場でA株を1億5千万株追加発行して、約11億元の資金を調達した。この調達資金を利用して、小型乗用車年産能力を20万台から30万台に引き上げる計画である。一方、この増資によって株式の国有比率が中国自動車政策上で規定されている下限の51%にまで低下したため、今後の増資は不可能となっている[新聞報道および調査団によるヒアリング2005年2月]。

重慶鋼鉄は年間粗鋼生産量約270万トンの中規模クラスの鉄鋼会社だが、グループ企業25社と従業員約3万人を抱える重慶市有数の大規模国有企業である。同社は香港株式市場で海外上場している数少ない中国企業の1社だが、2003年に国内株式市場でA株を新たに発行して約15億元の資金を調達する計画を立てた。この計画は2004年7月に国資委の許可を得たものの、その後の株式市場低迷で実施は中断している。設備増強や技術改造のための投資資金として、自己資金60%、銀行融資40%という比率で調達しているが、鉄鋼業以外に機械製造・鋼材加工、建築・不動産、電子・情報産業、環境産業、鉱業の5分野を重要な多角化分野としており、事業構造改善のための新規資金を必要としている。同社は17億元に上る社債発行計画も有していたが、現在はA株発行による資金調達の実施を優先させている。長期的な資金調達については、自己資金30%、銀行融資30%、資本市場からの調達30-40%という比率を考えている[新聞報道および調査団によるヒアリング2005年2月]。

1.2.2 重慶市の産業金融制度改革の方向性

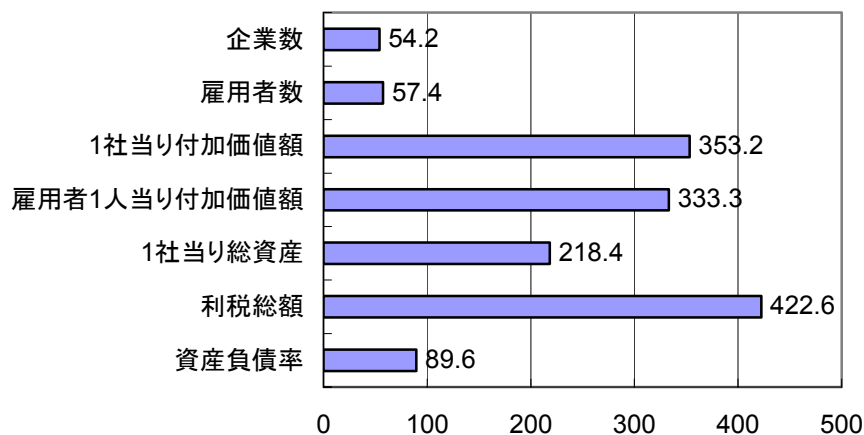
重慶市では、基礎インフラ・都市インフラ整備に係る固定資産投資主導の経済成長が進むなかで、国有企業改革を含む産業再生分野における円滑な資金循環が実現しているとは言いがたい。その要因として、①資金需要者である(国有)企業側の要因、②資金供給者である金融機関側の要因、③資金需要者と資金供給者の相互関係のあり方に係る3つの要因があり、それらが相互に関連していると考えられる。

(1) 資金需要者である企業側の要因

重慶市企業の収益・財務構造は一定の改善を見せている(図1-6)が、国有企業を始めとする大多数の企業は「近代的企業制度」を導入して日が浅く、経営・組織・財務構造が依然弱く、事業構造や収益・コスト構造の転換・強化を図るための有効な戦略や事業・資金計画の立案ができないでいる。今後、企業管理・組織面の改革を一層進めながら、中長期戦略・事業計画・資金計画の企画・立案のできる専門性の高い人材の育成を図るとともに、収入と利益を生まない遊休・不良資産の除却と経営実態・新規事業計画に係る適切な情報開示を積極的に進める必要がある。

図 1-6 重慶市国有企業の財務構造改善

(1999年を100とした2004年の各数値の指数)



出所：重慶統計年鑑各年版に基づき調査団作成

(2) 資金供給者である金融機関側の要因

重慶市には表 1-4 に示す金融機関があるが、政策銀行、全国性商業銀行、地域金融機関等の種類や数が限られるとともに、産業金融分野における各機関の機能分担や協調関係が必ずしも明確ではない。金融機関全体がリスク資産への融資に慎重になるなかで、幅広い資金需要者に対応しにくい画一的な融資適用条件や審査基準が存在し、産業再生分野への円滑な資金供給を妨げる要因となっている。また、国有企業を中心とした貸出先の固定化や、産業セクターが必要とする長期・低利融資の欠如などの問題もある。

表 1-4 重慶市の金融機関

国有銀行	株式制商業銀行・地域金融機関
政策銀行	交通銀行重慶分行
	国家開発銀行重慶市分行
	光大銀行重慶分行
	農業発展銀行重慶市分行
	招商銀行重慶分行
商業銀行	上海浦東発展銀行重慶分行
	工商銀行重慶市分行
	中信銀行重慶分行
	農業銀行重慶市分行
	深圳発展銀行重慶分行
	中国銀行重慶市分行
	貨夏銀行重慶分行
	建設銀行重慶市分行
	重慶市商業銀行*
その他	万州市商業銀行
	農村信用合作社
	重慶市国際信託投資公司

* 重慶市商業銀行は株式の大半を
市政府が保有する国有銀行である。

出所：中国金融年鑑、重慶市統計年鑑等に基づき調査団作成

重慶市における産業金融分野での資金供給を促進するためには、国家開発銀行を通じた政策金融の対象分野と対象事業を、重慶市の短中期的な経済発展戦略、産業再生・構造調整戦略、国有企業改革戦略に合致する範囲で明確化した上で、商業銀行との協調融資のリード役としての機能を強化するとともに、政策金融の呼び水効果を生かした商業金融による円滑な産業資金供給を図ることが重要である。同時に、民

営化された旧国有中小企業や自律的に発展している民間中小企業セクターに対する適切な資金供給を促進するために、地域ニーズや企業規模に応じたきめ細かい資金需要への対応を可能にする地域に密着した地域金融機関の育成・強化を図ることも必要である。

重慶市の産業再生に係る具体的な産業金融の投融資重点分野としては、

- i) コンテナ貨物対応の港湾等の物流施設・インフラ整備
- ii) 機械産業クラスターの形成
- iii) サイエンスパークやインキュベーションセンター等の新技術創造・強化環境の整備
- iv) 外資の積極的誘致に係るソフト面（プロモーションや人材育成）の強化
- v) 法律に基づく競争劣位産業・重工業設備の廃却・整理・移転
- vi) 重工業設備の環境対策と省資源・省エネルギー対策の促進・強化
- vii) 農村部の食品加工分野の発展促進を含めた重点産業育成

等があり、これらの課題解決を図るための金融政策・制度の強化・拡充が必要である。

また、各金融機関においては、産業分野、特に重慶市の短期的な産業再生と中長期的な産業構造調整に係る事業・投資案件に対し事業・財務評価ができる専門性の高い人材を育成するとともに、産業分野の融資案件に係る審査・評価・管理を円滑に行うための組織・制度づくりを強化する必要がある。

(3) 資金需要者と資金供給者の相互関係のあり方に係る要因

産業資金の需要者である企業と供給者である金融機関は、2つのレベルから情報共有と相互信頼関係の醸成を図る必要がある。第1は、企業の財務担当者と金融機関の融資担当者の個別レベルであり、第2は、重慶市の中長期的な産業資金需要を金融機関全体レベルで把握し共通認識を形成していくことである。重慶市において、今後、金融機関の融資担当者が各企業の財務担当者との情報交換の密度とレベルを上げることで、当該企業の財務管理能力の向上を図りつつ、金融界が産業界と資金供給についての意見交換を行えるプラットフォームとその基礎となる情報収集・共有化の仕組みを形成・強化していくことが重要である。

1.3 重慶市の産業金融制度改革のためのアクションプラン

1.3.1 日本や各国の経験に基づく重慶市産業金融制度改革への示唆

西部地域の中核的な産業都市として発展すべき重慶市においては、中長期的なビジョンと発展戦略に基づく政府、民間各部門の自律的かつ整合性の取れた努力が必要となる。重慶市の地政学上、産業構造上の特徴を踏まえると、その長期的な産業発展に関しては、米国ピッツバーグ市や日本の北九州市の産業再生・産業構造調整の戦略や事例が参考になる。

米国ペンシルベニア州のピッツバーグ市は、五大湖とアルゲイニー川、マノンガヘイラ川の水運を生かした石炭・鉄鋼産業のメッカだったが、同産業の国際競争力低下により、「鉄屑と排煙の谷間の街」へと衰退した。しかし、その後、カーネギーメロ

ン大学やピッツバーグ大学等の高等教育・研究機関や先端技術産業を主とした「ハイテクの街」、「全米で最も住みやすい街」として再生し、米国における都市再生のモデルとなった。1946年から1958年にかけての「第1次ルネサンス計画」で煤煙規制管理・洪水調整・下水処理等の環境整備が行われ、「第2次ルネサンス計画」(1978～1988年)ではピッツバーグ都市開発公社を中心に市・企業・NPOが協力して都市再開発を実施した。これに伴い、バイオテクノロジー、コンピューターソフトウェア開発、ロボティクス等のハイテク分野での企業立地・雇用創出が進み、産業構造の高度化に成功した。

日本の北九州市は、近郊の石炭資源と天然の港湾能力を背景に、1901年に日本で最初の国営高炉一貫製鉄所が建設され、日本有数の重工業地帯として発展し、1935年には全国工業生産の10%を占めるに至った。しかし、戦後、石炭産業の衰退と日本全体の産業構造高度化の中で、厳しい構造調整圧力と深刻な公害問題に苦しんだ。その後、蓄積された技術力や成長著しいアジアとの関係を生かして、新たな産業都市としての飛躍を目指す「北九州ルネサンス」を展開し、現在では加工組立型産業の立地・集積が進むとともに、新規成長産業として頭脳産業の集積(北九州テクノセンター)や環境産業コンビナート(北九州エコタウン)の形成が図られている。

1.3.2 重慶市産業金融制度改革のアクションプラン

上記事例やこれまでの考察結果を踏まえて、重慶市の長期的産業発展戦略において検討・実施すべき重慶市の産業金融における主体別の課題と対応策を整理すれば、次のようになる(図1-7参照)。

(1) 産業資金の需要者たる(国有)企業

- i) 現在の(国有)企業改革の流れを強化して、近代的企業制度に基づく健全かつ透明性のある事業運営を遂行できる経営組織・意思決定機構を整備する。
- ii) 経営・財務面での専門的な人材の育成・強化を図り、資金供給者側と対等の立場で投資・財務戦略を検討できる能力を強化した上で、効果的な投資・財務(借入)計画を金融市場・資本市場に積極的に提示する。
- iii) 事業構造・財務構造の抜本的な改革に取り組み、市場経済下での金融市場・資本市場からの多様な資金調達を利用しつつ、資産リストラクチャリング、財務リストラクチャリング、事業構造再編・構造強化のための新規投資を実施する。

(2) 産業資金の供給者たる金融機関(政策銀行と商業銀行)

- i) 現在、産業分野での政策金融の唯一の担い手となっている国家開発銀行は、産業資金分野における資金供給の中長期的な方針を明確化した上で、具体的な課題・分野ごとの資金供給目標と優遇金利等を含めた貸出条件を整備して、産業再生の重点課題に対する商業銀行との協調融資をリードするとともに、商業銀行による産業融資の呼び水役としての機能を強化する。特に、産業セクターの優良な資本ストック形成に寄与する長期・低利の設備投資資金の融資制度を整備する。
- ii) 国家開発銀行は、重慶市全体の投資魅力度の向上に資する大中型の国有企業に

における事業構造変革（不採算事業の整理・統合・廃止）、重点・新規事業の強化、環境対策と省資源・省エネルギー投資、の3分野での融資・奨励を短中期的に実施する。

- iii) 国家開発銀行は、企業側と金融機関側が短中期的な産業資金需要の内容と規模について情報・意見交換できるプラットフォームの形成を主導する。大企業、中堅企業、中小企業の各層を対象とした定期的な設備投資（資金）アンケート調査を企業側の協力の下に金融機関が実施し、資金需要規模を定期的に把握するとともに、それを基にした各企業の経営・財務・投資計画情報の交換を企業と金融機関の間で行うことで、情報の対称性を確保するとともに、各企業のより効果的・現実的な投資計画の策定能力や経営透明性の向上を図る。
- iv) 商業銀行各行は、それぞれの事業基盤や営業分野の特徴を生かしつつ、各行のポートフォリオのなかでの産業金融分野の位置付けを明確化し、強化する。産業金融分野の人材・組織の育成・強化を図り、資金需要者である企業側との緊密な情報交換・共有を増やしつつ、政策銀行との協調融資や代理融資等を拡大する。
- v) 商業銀行は、地方政府、政策銀行の協力を得て、金融機関全体として、融資担当者及び企業の経理・財務担当者向けの実践的な「財務会計」、「事業計画と資金計画」等の教育訓練を実施する夜間金融ビジネススクールの開設・運用を行う。

(3) 産業資金需給の調整者たる（地方）政府と金融当局

- i) 重慶市政府は、中長期的な産業構造調整の方針を示し、新たな法制度の整備を含めた産業再生・産業構造調整に係る金融・財政・ソフトインフラ面からの具体的な対応策と優遇・支援策を明示する。
- ii) 地方政府は、国有企業改革に伴う社会保障制度の整備と財政負担構造の改革による産業再生・発展のための外部環境整備を一層促進する。
- iii) 地方政府は、重慶市全体の環境対策、エネルギー利用効率向上に係る対策を強化するとともに、資源循環ネットワークの構築等を通じて地域における資源循環型ビジネスの育成と効率的な資源循環メカニズム実現に努力する⁹。
- iv) 金融当局は、産業金融分野での政策金融・商業金融の資金供給規模・条件等につき中長期的な方針と具体的な指針を明示する。
- v) 金融当局は、企業による新規株式や社債の発行等による資金調達の多様化を容易にする資本市場の一層の整備を進める。同時に、産業再生ファンド等の新たな投資家・資金供給者の参加による企業統治と企業構造改革を実現するための制度改革に係る長期展望を検討・策定する。
- vi) 中央政府は、世銀融資等の国際金融、2 国間 ODA、国連排出権取引（Clean Development Mechanism: CDM）のスキームを利用した環境改善投資や人材育成事業の促進を図り、重慶市におけるモデルプロジェクトを実施する。

⁹ 日本の北九州市では既存の廃棄物処理・リサイクルインフラを利用しつつ、PCBの適正処理・最終処分・焼却処理を軸としたリサイクルや研究・研修機能等を拡充して、日本全体の廃棄物処理・リサイクル体制の拠点となる総合的な廃棄物処理センターを国、福岡県、北九州市を中心とした西日本の自治体、及び産業界からの出資により設立、施設整備を行う予定である。

地域の長期的な発展を可能にするには、最終的には発展戦略を担う「ひとづくり」が重要であることは各国の経験からも明らかである。地域の知的インフラである大学との連携を生かしつつ、技術力強化、人材育成、起業家支援等、地域発展戦略を担う「ひとづくり」に係る戦略・支援を企業・金融機関・政府の各主体がそれぞれ強化することが重要である。同時に、外部から優秀な若者や研究者、企業人が新たに集まるためには魅力的な居住環境が必要である。ピッツバーグ市が「全米で最も住みやすい街」に選出されたことに代表されるように、住み心地の良さや最先端の研究にアクセスしやすい環境を確保することで、多数のベンチャー企業の立地を促進する「好循環」を創造することが重要である。「中国西部地域の魅力的なゲートウェイ」として発展すべき重慶市にとっては、人材育成とともにハード・ソフト両面からの投資環境・居住環境の一層の改善を行うことが、長期的な産業発展戦略を実現する上で極めて重要である。

図 1-7 重慶市の長期的産業発展における主体別対応策（プラン）

推進主体	課題と対応策	短期		中期				長期					
		2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	
(国有)企業	1) 透明性ある経営組織・意思決定機構の整備・強化												
	2) 経営・財務の専門的人材・組織の育成・強化			社内教育の強化	夜間金融ビジネススクールでの教育								
	3) 資産・財務リストラと事業構造強化新規投資			金融機関との共同リストラ	事業構造強化のための新規投資へのシフト				資本市場からの資金調達へのシフト				
政策銀行 (国家開発銀行)	1) 産業金融分野の融資方針と課題毎の目標・条件の設定			試行	中期方針と毎年の実施方針に基づく融資の方針・目標・条件の明示とそれに基づく運用の実施(一部、優遇分野の設定)								
	2) 大中型企業の重点課題に対する融資強化			企業との共同リストラ強化	環境・エネルギー対策へのシフト				重点・新規事業強化へのシフト				
	3) 産業資金需給情報交換のプラットフォーム創造			アンケート・定例協議の試行	設備投資アンケートや企業-金融機関間の定例協議等の「産業金融プラットフォーム」の本格的運用								
商業銀行 と地域 金融機関	1) 産業金融分野の融資方針と課題毎の目標・条件の設定			試行	毎年の定例的实施								
	2) 産業金融融資の専門的組織・人材の育成・強化			行内教育の強化、組織整備									
	3) 銀行・企業人材向け夜間金融ビジネススクール開設			企画	試行	運用定例化と機能強化							
地方政府	1) 産業構造調整中期方針の明示と関連法制度の整備												
	2) 社会保障制度整備による産業発展外部環境の改善												
	3) 環境対策と資源・エネルギー利用効率向上の対策強化			集中的強化	毎年の重点課題設定と運用改善								
	4) 住環境整備を含む投資環境の一層の改善												
中央政府	1) 国際機関・ODA資金やCDM資金の積極活用												
金融当局	1) 産業金融制度の方針と具体的指針・目標の設定			産業金融制度の明確化	毎年の重点課題設定と運用改善								
	2) 資本市場の整備(制度検討・改革実施)												
	3) 産業再生ファンド等の資金供給者増加の条件整備												

出所：調査団作成

1.4 参考：瀋陽市

1.4.1 瀋陽市の産業構造の特徴

本節では、重慶市の産業再生金融を論じる上で比較対象として選定された「東北振興プロジェクト」の中心的産業都市である瀋陽市について、記述する。瀋陽市では、東北地域の工業集積地として、長年にわたり国有企業（旧国営工場）による重工業の基盤整備が積極的に行われてきた。戦前からの産業基盤に加えて、石油、石炭、鉄鉱石等の資源の存在や、大連、營口等の港湾、鉄道網等が瀋陽を中心に広がっているという資源的・地理的条件が、原材料や製品の集積の上で有利だったためである。しかし、市場経済化の過程で国有企業による重点的な産業投資は行われなくなり、重工業国有企業偏重の産業構造から民間セクターの発展を含めたバランスの取れた産業構造への転換が求められている。

瀋陽市では、鉱工業とサービス業が GDP 全体の 94%を占めている（表 1-5 参照）。鉱工業セクターでは、国有企業及び年商 500 万元以上の非国有企業を含む「規模以上企業」の生産額が鉱工業生産額の 41.4%を占めている。国有企業はそのうちのシェアが 56%と高い反面、損益面から見た経営効率は相対的に低い。また、重工業シェアが高く、自動車産業を中心とする輸送機械、発電機等の電気機械、製薬等を含めた化学工業の3つが瀋陽市製造業を牽引する重点産業セクターとなっている。

表 1-5 瀋陽市の産業構造（2003年）

項目	生産額(億元)	占有率(%)
(1) GDP		
農林水産業	87.4	5.5
鉱工業	759.2	47.4
サービス業	755.4	47.2
合計	1,603.0	100.0
(2) 鉱工業生産額(Gross Industrial Output Value)		
工業	2,570.7	100.0
軽工業	1,021.7	39.7
重工業	1,549.0	60.3
(3) 鉱工業分野産業別生産額(Output value at current price)		
鉱業	15.9	
工業	989.7	
5. 加工食品	88.9	9.0
6. 繊維	13.0	1.3
7. 衣料	7.4	0.7
8. 化学	164.2	16.6
9. 金属	59.7	6.0
10. 輸送機械	286.0	28.9
11. 電機機械	182.1	18.4
12. 一般機械	107.9	10.9
13. その他製造業	80.7	8.2
ユーティリティ	58.7	
非国有中小企業(鉱工業)	1,506.3	

出所：瀋陽年鑑 2004

1.4.2 瀋陽市の産業構造調整・産業再生に係る現状と課題

(1) 東北振興プロジェクトにおける位置付け

瀋陽市のある遼寧省等を含めた東北地域は、1990年代初頭まで政策的な重工業投資が行われたが、その後、国家による投資が減少して、設備の老朽化、新技術導入の遅れ、国有企業の経営改善の遅れ、国有企業改革に伴う失業者の増大、国有企業の業績不振による年金等の社会保障破綻危機等のいわゆる東北問題が顕在化して、その解決が大きな政策課題となってきた。そのなかで、瀋陽市はこの東北問題の中心都市として、その産業再生が焦点となっている。

東北地域は、第2次世界大戦前からすでに産業集積地として発展していた。戦後、中国政府はこの地域を重要な工業地域と定め、重工業を中心に資本の重点投入を行い、その結果、この地域は中国全体の鉱工業生産の約30%を担う工業地帯として発展した。しかし、改革開放後の経済のグローバル化に伴い、中国市場が外国企業に開放されるとともに民営企業や郷鎮企業等が勃興し、国有企業はこれら新興企業との競争にさらされるようになった。このような市場や競争環境の変化に対して、東北地域の国有企業と地方政府は柔軟な対応を取ることができず、結果として、東北地域の重工業製造業は不振に陥り、地域活力の低下と社会問題の発生を招いた。

東北問題への対応として、2003年12月、「中共中央、東北地区の従来工業基地復興戦略実施に対する若干の意見」が発表され、(1)国有企業等が負担していた社会保障的職能を分離して、中央財政が補助することで企業の負担を軽減するとともに行政による社会保障制度を確立・充実させること、(2)国有企業改革を推進する企業に対する減免税措置、(3)工業に先進的な技術を導入できるように、国債発行等の手段で資金面での積極的な援助を行うこと、等の方針が明確化された。しかし、中央政府はこれらの方針を示しながらも、最終的には従来工業基地の自力更生を主体とする支援であることや、合弁等の企業の自助努力による国有企業再生の必要性を強調している。そして、中国国務院の下に「東北地区等従来工業基地調整改造工作指導グループ事務室（東北弁行室）」が設立され、この弁行室が中心になって国家プロジェクトとして「東北振興」を進めていくこととされた。「東北振興」プロジェクトは、投資総額610億元、100項目に及ぶ第1期工程が終了し、現在、第2期工程の開始に向けて、その内容を検討中である。

瀋陽市は、東北問題への対応策として、2003年6月に「瀋陽老工企業基地調整改造振興規則」と称する計画を定めて、産業再生と地域活性化を進めている。この計画では、第1期で、国有企業を外資と積極的に合弁させて近代的な企業経営の仕組みを国有企業に定着させるとともに、中小企業セクターの振興を図り、国有企業の工業生産比率を下げ、民間セクターに置き換えていく。第2期には、近代的な製造業やサービス業を育成し、年商100億元のグループ企業を育成する。そして第3期には、完全な市場経済を確立して、都市型現代産業であるハイテクやITを中心とした産業構造への転換を図ることを意図している。

(2) 産業再生の課題

瀋陽市の産業再生は大きく 2 つの方向で進められている。負の遺産処理としての国有企業改革と、東北振興の方針に合致した前向きな産業再生・産業振興である。瀋陽市政府は、負の遺産処理を行いながら、成長産業・企業に焦点を絞り、自動車、電子・電気機器、医療機器・医薬品を 3 本柱とする長期的な産業発展を構想している。この 2 つの方向性を併せ持つ瀋陽市国有企業のいくつかの事例を(3)の BOX に示すが、上記のような同市産業再生の長期政策を具現化して産業構造の高度化を達成するためには、以下のような課題への対応が必要である。

1) 非効率な国有企業の淘汰

国有企業の比率を下げるなかで、非効率な国有企業を淘汰するとともに、国有企業従業員の意識を改革する必要がある。国有企業の株式化を行うと同時に、小規模国有企業の積極的な売却と民営化を進める。瀋陽市では、大規模国有企業のなかで業績の良い企業を上場させ、経営改革ができない非効率な国有企業は、大企業であっても容赦なく破産させるとの方針が示されている。

2) 老朽化した生産設備の近代化と産業構造高度化のための設備投資

1950年代や1960年代に導入された老朽化した生産設備を使用している国有企業があり、市場ニーズに応えられる製品製造が難しくなっている。また、旧式の設備や技術の利用により、重工業部門の資源・エネルギー利用効率は極めて低く、コスト競争力の低下と恒常的な環境汚染を招いている。さらに、東北振興の目的に合致する長期的な産業構造高度化を実現するためには、技術革新要素を含む新たな設備投資が必要である。このような積極的な設備投資意欲を有する製造企業に対して、外資導入や合弁等による製造技術の向上や自助努力による新たな設備投資・更新を推奨して、企業競争力の強化と産業立地環境の改善を図ることが重要である。したがって、そのための資金調達に関して、銀行融資への信用保証、国債発行による資金提供、社債購入等の支援を必要に応じて実施していくことが望ましい。一方、瀋陽市の国有企業は市の中心地区に広大な土地を持っているところが多く、瀋陽市の都市再開発にあわせて、郊外への工場移転を積極的に進め、土地売却による資金調達を促進することも重要である。

3) グループ企業の形成

瀋陽市では、金杯自動車等の成長企業を中心に、それを支える下請け中小企業や関連企業の緩やかな結合組織を形成して、全体として効率的なサプライ・チェーンを構築しようとしている。グループ企業を形成し、これを成長のエンジンとして瀋陽市全体の工業発展を図ろうとするもので、日本の「系列」による産業発展や韓国、ドイツ等の産業振興を意識したものである。これを実現するためには、各企業の経営の透明性を高めて、効果的な事業協力促進のための環境整備を図るとともに、株式の相互保有や合併、M&A 等の資本市場を通じた提携関係強化の枠組みを強化する必要がある。

(3) 瀋陽市の産業再生ケーススタディ

Box 1-4 瀋陽市の国有企業事例1：瀋陽電動機株式会社

電動モーターと発電機を製造する瀋陽電動機株式会社は、1950年に設立された瀋陽電動機製造廠が母体である。瀋陽電動機製造廠は1980年代から製品の販売不振や多額の債務に苦しんできたが、中国の高成長に伴い大型インフラ整備事業に使われる大型モーターや発電機の需要が増加したことから、2000年に、これらの製品を製造する瀋陽電動機株式会社を設立・独立させた。政府が100%の株式を保有する国有企業で、生産額が2000年の1.67億元から2004年には7億元へと大幅に増加するなど、最近の業績は好調である。2004年の売上は5.5億元、税引き前利益は2,950万元である。三峡ダム等の大型インフラ・プロジェクトや電力不足に伴う発電所建設が増加していることから、同社では製品需要が今後も堅調に増加して生産・販売の拡大が可能であると考えている。そこで、瀋陽電動機製造廠から工場敷地の一部を買取り、大出力の発電機を製造する新工場を建設して生産量拡大と生産性向上を図ることを計画している。この設備投資には2.6億元が必要で、1.8億元を市経済発展委員会の承認を得た国債による政府資金で調達し、残り0.8億元を経済発展委員会が保証人となり国有商業銀行が融資を実行する予定である。一方、不採算経営が続く親会社の瀋陽電動機製造廠では人員整理や資産売却等の抜本的な構造改革が進展していない。経営不振が続く母体の国有企業から採算部門を切り離すことで、経営効率の改善を果たした一例である。

Box 1-5 瀋陽市の国有企業事例2：金杯自動車グループ

前身は瀋陽市自動車工業公司で、1984年に同公司を持株会社として傘下に金杯自動車が設立された。1990年代前半まで経営状況が悪く、1995年に金杯自動車株式の51%を長春第一自動車に売却して資金調達を行い、第1次合理化を実施した。1997年に第2次合理化を行い、34社のグループ企業のうち、不採算企業及び現業と直接関係のない28社を売却した。残った流通販売会社や関連3社と自動車製造会社3社の優良企業6社で金杯自動車グループを編成した。金杯自動車株式会社は1999年7月に上海株式市場に上場し、その後、トヨタ自動車との技術協力によるマイクロバス生産、ドイツBMWとの合弁等を経て、バス、トラック、大型乗用車の生産を拡大して業績が向上している。この好業績を受けて、長春第一自動車に売却した同社株の買い戻しを行った。現在は国有持株企業だが、香港の民間企業も一部株式を保有している。同社の自動車生産台数は2004年9万台、2005年12万台で、売上規模は82億元、グループ全体で約150億元である。現在、約20億元の設備投資計画があり、10.5億元を自己資金とする予定で、残り9.5億元の調達方法を検討中である。東北振興プロジェクトとしての資金調達申請や銀行融資も可能だが、これまでほぼ無借金経営を続けてきたので、この方針を堅持したい意向と伝えられる。なお、資金繰り向上のために手形を利用しており、約1億円分の流動資金を浮かせている。

Box 1-6 瀋陽市の国有企業事例3：瀋陽工作機械株式会社

中国最大規模の工作機械メーカーで、国内工作機械市場シェアの13%を占めている。削岩用ドリル等の鉱山用機械を製造していた国有企業が母体で、現在は瀋陽工作機械持株会社の下で、瀋陽工作機械株式会社や瀋陽デジタル有限公司を含めた4社で瀋陽工作機械グループを形成している。瀋陽工作機械株式会社は上場しているが、その他の子会社や親会社は未上場である。2004年度の生産額は50億元、売上は18億元で、2005年度には40億元、2006年度には60億元の売上を目指している。2005年度の利益は1億元、2006年は1.5億元を予定し、従業員数は約1万1千人である。国策による技術導入資金として、約10年前に世界銀行から6.4億元、国家開発銀行から4.5億元の融資を受けて、工作機械製品のデジタル化を成功させた。この負債返済のために年間5,000-6,000萬元分の現金を捻出しなければならないため、利益率が同業他社と比べてやや低くなっている。しかし、今後の技術導入や市場開拓のために積極的な事業戦略を計画している。具体的には、ドイツの工作機メーカーを買収してデジタル工作機械製造技術を導入するとともに、中国国内市場確保のために雲南省の雲南工作機械株式会社の買収を計画している。ドイツの工作機メーカー買収には2,000万ドルの資金が必要で、この資金調達について検討中である。瀋陽工作機械グループは瀋陽駅西側に隣接する鉄西区に広大な工場敷地を有しているが、同地区では都市再開発が活発化しており、工場敷地の高額売却と郊外への工場移転を検討している。重点企業として政府による優先的な設備投資資金の調達を確保すると同時に、中国経済の高成長の恩恵を受けている国有企業の事例であるが、金融機関や資本市場からの資金調達を今後も円滑に行うためには、持株会社を始めとするグループ企業全体の経営効率化と経営の透明性確保を図っていくことが必要になると考えられる。

1.4.3 瀋陽市の産業資金需給の現状と課題

瀋陽市では、貸付残高よりも預金残高が多い貯蓄超過の状態にあり、金融機関は不良債権化を恐れながらも優良な借り手を求めている。歴史的に、中国建設銀行がインフラ整備プロジェクト関連の融資を専門とし、中国工商銀行が製造業の設備投資や技術導入・技術開発に関する融資を専門としてきたが、中国銀行や中国農業銀行等の国有商業銀行も産業分野融資に進出している。

産業再生に関する資金需要を事業会社側から見た場合、3種類の資金需要がある。第1は積極的な事業展開のために必要な技術導入や設備投資のための資金、第2はすべての企業に共通の運転資金、第3は不良化した滞留債務の問題である。このうち、第3の滞留債務に関しては、企業のリストラによって不採算部門と採算部門とを切り分け、不採算部門に滞留している債権を塩付けにした上で、工場用地の売却等を含む資産の売却で債務を減らした後に、倒産または解散し、損失部分は中央政府、省政府、市政府の責任で処理する方法が一般的である。

不採算部門や社会保障部門を切り離して採算部門を独立させた国有企業が、新たな発展のための設備投資や技術導入に必要とする資金については、東北振興プロジェクトとして市経済発展委員会が認定するものであれば、瀋陽市では積極的な支援が

得られる。すなわち、国債を原資とする東北振興プロジェクト資金から、設備投資または技術導入資金が所要額の 50-70%の範囲内で国有商業銀行を通じて融資される。この東北振興プロジェクト融資の利子部分は中央政府が財政補助するので、企業にとっては実質的に無利子融資となる。所要資金の不足分は、各企業が自助努力により調達しなければならないが、経済発展委員会が承認していることから、金融機関から融資を受ける上で大きな問題は発生しない。また、経済発展委員会が国有商業銀行に対して東北振興プロジェクトに認定されたということで追加融資を推薦する場合もある。しかし、東北振興プロジェクトに認定される案件や対象企業の数は少なく、担保資産が少ない中小企業の場合には信用保証制度や信用補完制度が未整備であるため、瀋陽市の産業金融において設備投資資金を銀行融資で調達するための障壁は極めて高い。信用力の高い大企業の場合には、株式上場や増資によって株式市場から資金を調達することも一般的には可能であるが、中国資本市場が現在、整備・改革の途上であることから現実的には難しい状況にある。

運転資金については、一般的に担保に供する資産があれば必要な運転資金の 25%程度を銀行から借り入れることが可能である。また、採算性のある企業であれば手形を利用することができ、中国の一般的な決済方式である原材料購買時に現金で支払うのではなく、手形期日まで支払いを延期することができる。しかし、このような信用力の高い企業は瀋陽市でも数少なく大多数の事業会社は運転資金を自己資金からまかなうか銀行からの短期融資に頼っているのが現状である。

資金需要に応える供給側の金融機関についてみれば、これまで国有商業銀行が主として大型の資金需要に対応してきた。従来、地域限定的にしか認められていなかった地域金融機関の業務領域拡大が検討される等、銀行制度改革が進みつつあるものの、産業金融分野での多様な間接金融の供給手段についてはいまだ開発途上である。また、東北振興における支援ツールの 1 つである金融に関して、政策銀行としての東北開発銀行の設立が関係者によって提唱された。しかし、国家開発銀行がすでに存在することから、新たな東北振興のための政策銀行設立は疑問視され、民間資本による地域金融機関としての東北開発銀行の設立が提唱されている。これは、既存の東北地域の地域金融機関を統合して東北地域での省や市をまたがった営業を可能にしようとするものであるが、現時点では、その設立の是非や組織体制・営業内容等の詳細は明確になっていない。

引用文献

重慶市統計局(2001)『九五时期重庆市经济社会发展系列分析报告』 「重慶統計年鑑 2001」中国統計出版社

WEB

- 重経網(2004)『重庆食品工业六年产值有望突破百亿』 (華竜網2004年8月16日)
<<http://202.98.45.136/content.asp?filename=txt/20040816/2004081622>> (2004/08/30アクセス)
- 重経網(2004)『电荒逼企业投4亿节能 重庆工业“逆电”上扬』 (重慶夕刊2004年8月16日)
<<http://202.98.45.136/content.asp?filename=txt/20040816/2004081623>> (2004/08/30アクセス)
- 重経網(2004)『上半年重庆工业经济利润比去年同期增长43.9%』 (華竜網2004年8月2日)
<<http://202.98.45.136/content.asp?filename=txt/20040802/2004080260>> (2004/08/30アクセス)
- 重経網(2004)『重庆企业融资不景气 渠道单一是根源』 (華竜網2004年8月5日)
<<http://202.98.45.136/content.asp?filename=txt/20040805/2004080570>> (2004/08/30アクセス)
- 重経網(2004)『国家开发银行将向重庆市35个区县企业提供贷款』 (华龙网2004年10月26日)
<<http://202.98.45.136/content.asp?filename=txt/20041026/2004102665>> (2004/11/10アクセス)

付属資料1 重慶市の主要経済指標

年	1990	1995	2000	2001	2002	2003
名目GDP(億元)	298	1,009	1,589	1,750	1,971	2,251
名目成長率(計算値、年率)	14.5%	27.6%	9.5%	10.1%	12.7%	14.2%
第1次産業	100	262	283	293	316	336
GDPシェア(%)	33.4%	25.9%	17.8%	16.7%	16.0%	14.9%
第2次産業	119	427	658	728	828	977
GDPシェア(%)	39.7%	42.3%	41.4%	41.6%	42.0%	43.4%
内、工業	100	368	527	577	651	768
GDPシェア(%)	33.7%	36.5%	33.2%	33.0%	33.0%	34.1%
第3次産業	80	321	649	729	828	937
GDPシェア(%)	26.9%	31.8%	40.8%	41.7%	42.0%	41.6%
実質GDP伸び率	6.8%	12.1%	8.5%	9.0%	10.3%	11.5%
人口(万人)	2,921	3,002	3,091	3,098	3,114	3,130
一人当りGDP(元)	1,023	3,372	5,157	5,654	6,347	7,209
就業者数(万人)	1,569	1,709	1,690	1,697	1,711	1,726
内、国有経済	-	-	149	137	131	126
内、集体経済	-	-	1,158	1,122	1,102	1,085
城市就業者数(万人)	297	347	496	525	540	557
内、国有経済	-	-	-	137	131	126
内、集体経済	-	-	-	162	154	149
内、民営企業、個人、その他	-	-	-	226	256	282
城市登記失業者数(万人)		10.2	10.2	13.7	16.2	16.2
城市失業率(%)	2.9%	2.9%	3.5%	3.9%	4.1%	4.1%
城市経済単位離退休人員数(万人)	62.2	85.9	92.7	108.5	104.3	106.5
対城市就業者数比(%)	21.0%	24.7%	18.7%	20.7%	19.3%	19.1%
城市雇用者数(万人)	285.7	294.3	208.9	201.2	199.9	205.0
内、非公有制経済	0.9	12.1	32.2	42.7	50.7	64.8
内、国有経済	209.6	212.3	146.9	134.8	128.4	121.3
城市雇用者給与総額(億元)	57	131	173	194	220	254
内、国有経済	45	102	129	138	152	166
一人当り城市雇用者給与(元)	2,007	4,450	8,294	9,648	10,985	12,367
内、国有経済	2,170	4,785	8,782	10,253	11,841	13,699
全社会固定資産投資(億元)	69	271	656	802	996	1,269
内、国有経済	53	143	313	385	460	552
国有経済シェア(%)	76.3%	52.9%	47.8%	48.0%	46.2%	43.5%
地方予算内財政収入+中央財政(億元)		84	163	196	240	303
地方予算内財政収入(億元)		46	104	126	158	207
工商稅收			66	68	81	97
企業所得稅			9	12	9	9
国有資産經營收益			2	2	2	4
国有企業補填金			-3	-3	-3	-2
地方予算内財政支出(億元)		66	202	256	345	391
(財政収支)		18	-39	-59	-105	-89
金融機関資産(期末)						
預金(億元)	198		1,905	2,294	2,821	3,439
変化率(%)	-	-	-	20.4%	23.0%	21.9%
企業預金	49	-	646	751	909	1,098
変化率(%)	-	-	-	16.3%	21.1%	20.8%
一般貯蓄	92	-	1,085	1,317	1,595	1,897
変化率(%)	-	-	-	21.4%	21.1%	18.9%
貸付残高(億元)	268		1,881	1,872	2,245	2,775
変化率(%)	-	-	-	-0.5%	19.9%	23.6%
短期	206		1,247	1,044	1,192	1,379
変化率(%)	-	-	-	-16.3%	14.2%	15.7%
中長期	38		471	631	755	1,011
変化率(%)	-	-	-	34.1%	19.5%	33.9%

出所：重慶統計年鑑各年版に基づき調査団作成

付属資料2 重慶市の国有企業の基礎データ (2002年)

区 分	企業数 (社)	雇用者数		粗生産額 (億元)	販売額 (億元)	付加価値額			資本金			総資産		
		(万人)	1社当り (人/社)			(億元)	1社当り (万元)	1人当り (元)	(億元)	国家資本	外商資本	(億元)	1社当り (万元)	流動資産 (平均値)
合 計	633	48.7	769	742	734	236.4	3,734	48,575	469	204	35	1,626	25,685	687
軽工業	251	12.7	506	199	200	70.4	2,804	55,424	102	47	4	370	14,730	171
重工業	382	36.0	941	543	535	166.0	4,345	46,156	368	157	31	1,256	32,883	516
鋳 業	43	5.8	1,351	20	19	8.4	1,960	14,507	18	17	-	53	12,259	19
素材製造業	127	11.3	893	174	172	68.1	5,359	60,013	169	100	5	561	44,158	181
加工製造業	212	18.8	887	349	344	89.5	4,221	47,578	180	40	26	643	30,313	316
大企業	115	28.9	2,514	554	549	178.3	15,501	61,660	360	150	29	1,215	105,672	522
中企業	128	9.5	743	105	103	36.0	2,812	37,849	58	26	4	233	18,196	97
小企業	390	10.2	263	84	83	22.1	567	21,596	51	28	2	178	4,558	68
鋳 業	47	6.7	1,434	23	23	9.9	2,098	14,632	21	19	-	60	12,752	48
製造業	494	36.8	746	654	646	183.6	3,716	49,838	358	117	35	1,211	24,516	689
食品加工	22	0.7	336	6	6	1.7	752	22,343	3	2	0	16	7,397	6
食品製造	10	0.3	320	5	5	1.3	1,254	39,191	2	1	-	6	5,899	3
飲料製造	16	0.6	369	13	13	5.8	3,636	98,612	4	2	-	22	14,042	14
煙草加工	6	0.5	800	32	33	20.8	34,669	433,367	7	6	-	45	75,412	20
紡績業	19	2.7	1,395	12	12	3.0	1,583	11,349	7	5	-	25	13,204	18
衣料・繊維製品	2	0.0	50	0	0	0.0	119	23,800	0	0	-	20	332	0
皮 革	2	0.0	150	0	0	0.0	-110	-7,333	0	0	-	1	3,017	0
木材加工	3	0.0	133	0	0	0.1	233	17,475	0	-	-	1	2,866	0
家具製造	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
製紙・紙製品	8	0.2	188	3	3	0.5	680	36,260	0	0	-	5	100,206	3
印 刷	22	0.5	205	4	4	1.5	683	33,411	1	1	-	7	45,735	5
文教体育用品	3	0.0	33	0	0	0.0	45	13,500	0	0	-	0	22,889	0
石油精製・加工	2	0.1	400	2	2	0.5	2,720	67,988	2	2	-	2	44,755	2
化学原料・製品	53	3.8	711	55	52	15.0	2,829	39,777	23	14	0	92	61,344	69
医薬品	24	1.8	754	32	32	8.4	3,481	46,159	14	7	0	66	78,968	27
化学繊維	3	0.7	2,300	12	12	5.6	18,561	80,699	17	0	-	28	50,905	27
ゴム製品	4	0.3	850	2	2	0.6	1,563	18,391	1	1	-	4	65,834	3
プラスチック製品	9	0.1	133	1	1	0.5	531	39,792	1	0	0	2	46,052	1
非金属鉱物製品	39	1.7	436	13	13	4.0	1,034	23,717	11	4	1	48	118,034	37
鉄 鋼	14	2.9	2,100	54	54	13.0	9,277	44,174	38	31	4	96	74,281	70
非鉄金属	12	1.2	958	32	31	6.9	5,791	60,423	35	1	-	69	99,023	56
金属製品	15	0.5	320	4	4	0.7	481	15,031	2	1	-	8	114,554	5
一般機械	42	2.8	657	29	29	9.7	2,316	35,241	22	7	2	55	56,176	29
その他機械	16	0.6	394	3	3	0.9	553	14,056	3	2	-	9	103,566	5
輸送機械	75	7.2	961	253	252	65.7	8,759	91,108	115	18	24	365	55,545	177
電 機	21	1.1	519	12	12	2.5	1,181	22,759	7	3	2	23	92,379	11
電子・通信	12	0.7	542	6	6	1.2	1,008	18,611	8	5	1	19	158,285	10
計測器	25	1.4	576	18	18	5.4	2,157	37,456	8	5	0	32	58,820	17
その他	15	4.5	3,000	47	48	8.2	5,497	18,322	27	-	-	164	198,370	74
電力・ガス・用水	92	5.1	557	65	66	42.9	4,668	83,886	89	68	-	355	82,625	100

区 分	負債合計			資産負債率 (%)	主營業務収入(売上高)		主營業務利潤(経常利益)			ROA (%)	利税総額(税引前利益)	
	(億元)	1社当り (万元)	流動負債		(億元)	1社当り (万元)	(億元)	1社当り (万元)	率 (%)		(億元)	利益率 (%)
合 計	993	15,689	736	61.1	771.3	12,184	107.2	1,694	13.9	6.6	92	11.9
軽工業	238	9,480	187	64.4	192.6	7,675	26.1	1,039	13.5	7.1	29	15.2
重工業	755	19,769	548	60.1	578.6	15,148	81.1	2,124	14.0	6.5	62	10.7
鋳 業	25	5,734	15	46.8	20.9	4,850	3.8	890	18.4	7.3	2	10.9
素材製造業	340	26,744	206	60.6	223.2	17,574	26.8	2,112	12.0	4.8	24	10.9
加工製造業	391	18,438	327	60.8	334.6	15,783	50.5	2,381	15.1	7.9	36	10.6
大企業	697	60,570	532	57.3	576.9	50,164	78.0	6,784	13.5	6.4	73	12.6
中企業	169	13,185	115	72.5	106.5	8,318	17.6	1,373	16.5	7.5	12	11.7
小企業	128	3,277	88	71.9	87.9	2,254	11.6	298	13.2	6.5	6	7.3
鋳 業	29	6,081	18	-	24.2	5,141	4.5	953	18.5	7.5	3	11.3
製造業	757	15,332	623	-	633.9	12,832	87.8	1,778	13.9	7.3	71	11.2
食品加工	13	5,986	11	80.9	6.5	2,960	0.6	274	9.3	3.7	0	7.5
食品製造	4	3,890	3	66.0	4.5	4,539	0.6	583	12.8	9.9	0	8.9
飲料製造	13	7,877	11	56.1	12.8	7,972	2.6	1,630	20.4	11.6	3	27.0
煙草加工	32	52,630	27	69.8	32.9	54,859	6.1	10,130	18.5	13.4	17	53.2
紡績業	24	12,728	19	96.4	11.3	5,937	0.8	446	7.5	3.4	-	-0.2
衣料・繊維製品	0	215	0	64.8	0.1	332	0.0	86	25.9	25.9	0	22.3
皮 革	1	2,883	1	95.5	0.1	627	0.0	32	5.1	1.1	-	-27.9
木材加工	0	1,581	0	55.2	0.3	1,111	0.0	141	12.7	4.9	0	4.1
家具製造	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
製紙・紙製品	3	4,235	3	62.2	2.5	3,098	0.2	304	9.8	4.5	0	5.8
印 刷	5	2,153	3	68.9	4.2	1,905	0.5	212	11.1	6.8	0	4.5
文教体育用品	0	33	0	32.4	0.0	107	0.0	44	40.8	42.4	0	41.4
石油精製・加工	1	2,866	0	23.6	2.2	10,916	0.4	1,932	17.7	15.9	0	7.5
化学原料・製品	61	11,472	43	66.1	52.9	9,973	8.7	1,640	16.4	9.4	5	9.4
医薬品	44	18,193	35	66.2	26.3	11,790	5.8	2,421	20.5	8.8	3	10.7
化学繊維	7	22,548	5	23.9	13.0	43,439	2.0	6,813	15.7	7.2	2	13.2
ゴム製品	3	6,720	2	65.3	2.3	5,682	0.4	911	16.0	8.9	0	4.1
プラスチック製品	1	1,140	1	46.7	1.4	1,536	0.2	168	11.0	6.9	0	9.1
非金属鉱物製品	38	9,759	21	80.0	13.4	3,429	2.4	619	18.0	5.1	0	3.7
鉄 鋼	62	44,178	54	64.1	57.7	41,216	5.9	4,216	10.2	6.1	5	8.8
非鉄金属	33	27,779	27	48.5	30.1	25,123	3.6	3,032	12.1	5.3	2	5.8
金属製品	8	5,103	6	92.6	4.1	2,747	0.4	276	10.1	5.0	-	-6.7
一般機械	36	8,541	30	65.7	27.9	6,634	5.7	1,368	20.6	10.5	2	8.3
その他機械	7	4,156	5	72.5	3.1	1,933	0.5	334	17.3	5.8	0	0.5
輸送機械	180	24,017	167	49.4	237.0	31,602	27.7	3,696	11.7	7.6	29	12.2
電 機	20	9,391	14	86.1	10.9	5,199	0.6	296	5.7	2.7	0	0.1
電子・通信	14	11,899	10	74.6	5.9	4,933	1.2	981	19.9	6.1	-1	-15.0
計測器	28	11,124	21	87.7	18.8	7,521	4.0	1,591	21.2	12.5	1	7.8
その他	122	81,246	103	74.5	49.7	33,136	6.7	4,476	13.5	4.1	0	0.2
電力・ガス・用水	207	22,517	95	-	113.2	12,305	14.9	1,622	13.2	4.2	17	14.9

出所：重慶統計年鑑各年版に基づき調査団作成

付属資料3 工業統計における国有企業の占有率及び非国有企業に対する比（2002年）

区分	企業数 (社)	雇用者数		粗生産額 (億元)	販売額 (億元)	付加価値額			資本金			総資産	
		(万人)	1社当り (人/社)			(億元)	1社当り (万元)	1人当り (元)	(億元)	国家資本	外商資本	(億元)	流動資産 (平均値)
合計	30.6%	59.3%	331.7%	61.6%	61.0%	59.5%	333.6%	100.6%	79.0%	98.0%	70.2%	77.4%	74.4%
軽工業	26.2%	42.4%	207.6%	42.2%	42.2%	53.9%	329.5%	158.7%	65.7%	97.4%	52.0%	62.8%	59.5%
重工業	34.3%	69.0%	427.5%	74.1%	73.1%	72.3%	500.2%	117.0%	83.7%	98.2%	73.7%	83.0%	81.2%
鋳業	48.3%	76.9%	355.2%	65.9%	63.8%	64.2%	191.8%	54.0%	86.2%	99.7%	-	82.6%	81.2%
素材製造業	33.6%	66.8%	397.4%	72.9%	72.1%	75.0%	591.5%	148.8%	86.5%	98.9%	41.8%	85.6%	85.1%
加工製造業	32.8%	68.3%	442.1%	75.3%	74.1%	71.2%	508.0%	114.9%	80.9%	95.9%	86.2%	81.0%	79.1%
大企業	92.7%	94.8%	144.1%	89.1%	88.3%	93.3%	108.5%	75.3%	96.6%	99.4%	95.0%	96.1%	95.3%
中企業	47.4%	54.6%	133.5%	41.7%	40.8%	45.7%	93.2%	69.8%	57.1%	93.4%	28.2%	56.8%	53.0%
小企業	23.2%	30.0%	141.6%	25.2%	25.0%	24.5%	107.3%	75.8%	42.7%	95.1%	33.0%	41.7%	35.5%
鋳業	51.1%	79.9%	379.6%	70.6%	69.0%	68.6%	208.9%	55.0%	110.3%	110.0%	-	85.3%	189.7%
製造業	26.4%	54.0%	327.6%	59.3%	58.6%	60.9%	433.9%	132.5%	75.1%	97.1%	71.2%	72.9%	87.2%
食品加工	33.8%	56.5%	253.7%	24.8%	24.2%	35.5%	107.7%	42.5%	63.7%	90.1%	2.1%	71.5%	48.7%
食品製造	28.6%	38.6%	156.9%	30.6%	30.2%	30.1%	107.5%	68.5%	39.9%	99.8%	-	41.8%	63.6%
飲料製造	43.2%	55.7%	164.8%	64.8%	63.8%	71.5%	330.0%	200.3%	47.5%	77.0%	-	66.1%	120.2%
煙草加工	85.7%	87.3%	114.3%	96.3%	97.6%	98.6%	1214.8%	1062.9%	97.3%	100.0%	-	97.4%	71.9%
紡績業	24.4%	55.1%	381.0%	52.4%	51.0%	50.1%	311.3%	81.7%	68.6%	100.0%	-	67.6%	131.6%
衣料・繊維製品	11.8%	2.4%	18.3%	2.7%	2.5%	4.7%	37.3%	203.8%	1.0%	100.0%	-	1.9%	3.0%
皮革	9.1%	9.1%	100.0%	0.8%	2.6%	-1.9%	-18.8%	-18.8%	18.4%	100.0%	-	15.3%	11.7%
木材加工	33.3%	16.7%	40.0%	18.9%	18.5%	13.7%	31.6%	79.1%	56.8%	-	-	43.1%	47.4%
家具製造	-	-	-	-	0.0%	0.0%	-	-	-	-	-	-	-
製紙・紙製品	18.2%	22.4%	129.8%	29.3%	27.7%	24.6%	146.8%	113.1%	14.9%	100.0%	-	44.7%	43.8%
印刷	47.8%	66.2%	213.4%	48.7%	48.0%	49.4%	106.6%	49.9%	61.8%	99.3%	-	63.4%	94.5%
文教体育用品	60.0%	25.0%	22.2%	13.9%	12.3%	14.5%	11.3%	50.8%	6.5%	100.0%	-	13.8%	1.5%
石油精製・加工	28.6%	53.3%	285.7%	81.5%	73.9%	75.5%	770.8%	269.8%	95.9%	100.0%	-	89.9%	98.6%
化学原料・製品	33.1%	62.7%	339.8%	65.6%	62.0%	60.7%	311.9%	91.8%	60.7%	99.7%	2.9%	63.7%	116.4%
医薬品	47.1%	79.4%	433.2%	77.3%	77.1%	66.0%	218.0%	50.3%	76.8%	99.8%	5.0%	83.2%	72.4%
化学繊維	100.0%	100.0%	-	97.3%	100.0%	100.0%	-	-	100.0%	100.0%	-	100.0%	413.3%
ゴム製品	17.4%	38.6%	299.1%	51.3%	48.2%	47.9%	436.6%	146.0%	62.1%	100.0%	-	65.6%	80.3%
プラスチック製品	17.0%	18.8%	112.8%	18.7%	19.3%	24.1%	155.5%	137.9%	19.0%	96.6%	60.3%	17.2%	20.2%
非金属鉱物製品	15.9%	22.5%	153.2%	22.8%	21.4%	19.2%	125.5%	81.9%	35.2%	87.5%	20.6%	39.2%	84.3%
鉄鋼	24.1%	83.8%	1621.1%	85.9%	86.2%	83.9%	1633.9%	100.8%	95.3%	100.0%	100.0%	94.3%	150.2%
非鉄金属	37.5%	85.8%	1008.8%	81.2%	79.0%	76.8%	552.9%	54.8%	97.9%	100.0%	-	95.0%	275.1%
金属製品	16.5%	28.9%	206.1%	19.9%	19.9%	12.7%	73.9%	35.9%	27.9%	99.4%	-	28.4%	34.8%
一般機械	37.2%	67.3%	348.2%	68.3%	67.1%	69.1%	378.5%	108.7%	81.8%	99.9%	87.4%	76.9%	75.7%
その他機械	45.7%	70.0%	277.1%	57.0%	54.3%	50.7%	122.1%	44.1%	69.1%	100.0%	-	67.5%	60.6%
輸送機械	17.4%	40.8%	327.2%	56.2%	55.9%	61.0%	743.7%	227.3%	80.3%	94.2%	92.0%	71.9%	61.1%
電機	23.1%	48.0%	307.9%	34.4%	33.3%	29.3%	138.3%	44.9%	53.1%	83.6%	91.9%	48.5%	42.3%
電子・通信	48.0%	84.4%	586.8%	47.6%	49.1%	37.6%	65.2%	11.1%	79.8%	95.9%	76.6%	70.1%	69.1%
計測器	58.1%	78.7%	265.8%	81.6%	78.5%	74.7%	212.3%	79.8%	69.0%	100.0%	16.3%	77.2%	73.2%
その他	51.7%	94.3%	1555.6%	93.0%	93.8%	93.1%	1258.6%	80.9%	98.4%	-	-	80.3%	118.2%
電力・ガス・用水	84.4%	94.5%	315.4%	94.2%	95.0%	97.0%	595.6%	188.8%	114.1%	124.5%	-	96.0%	94.3%

区分	負債合計		資産負債率	主營業務収入(売上高)		主營業務利潤(経常利益)		ROA	利税総額(税引前利益)	
	(億元)	流動負債	(%)	(億元)	1社平均 (億元)	(億元)	経常利益率 (%)	(%)	(億元)	利益率 (%)
合計	77.1%	74.6%	98.3%	62.4%	377.5%	69.5%	140.7%	66.7%	69.3%	136.0%
軽工業	62.5%	58.9%	98.6%	41.6%	200.3%	56.1%	145.3%	75.7%	60.2%	212.9%
重工業	83.2%	82.1%	101.0%	74.9%	572.9%	75.3%	135.3%	62.3%	74.6%	98.3%
鋳業	81.3%	77.7%	91.5%	63.5%	186.1%	68.5%	115.4%	45.7%	57.2%	77.0%
素材製造業	85.2%	84.1%	97.5%	77.2%	669.2%	73.6%	118.0%	47.0%	75.2%	89.4%
加工製造業	81.6%	81.1%	104.0%	74.3%	593.7%	76.9%	149.9%	78.0%	75.7%	107.6%
大企業	95.7%	94.9%	89.8%	88.5%	60.0%	93.8%	129.8%	61.6%	93.0%	172.3%
中企業	61.8%	58.3%	123.2%	42.0%	80.3%	47.5%	150.6%	68.8%	42.5%	102.1%
小企業	44.5%	38.9%	112.0%	26.6%	120.0%	34.2%	146.9%	72.7%	26.1%	97.4%
鋳業	84.3%	81.8%	-	67.5%	198.5%	72.3%	111.2%	44.8%	62.1%	79.1%
製造業	73.0%	72.2%	-	58.5%	393.4%	66.7%	142.1%	74.4%	64.6%	129.0%
食品加工	77.9%	75.4%	140.8%	25.0%	65.1%	32.1%	47.2%	18.9%	40.8%	206.9%
食品製造	49.6%	52.6%	137.4%	30.2%	108.3%	31.2%	82.3%	63.3%	22.4%	66.7%
飲料製造	68.0%	66.8%	109.3%	61.6%	210.5%	73.7%	253.0%	143.6%	79.5%	242.2%
煙草加工	97.1%	97.3%	90.8%	97.1%	552.7%	97.4%	140.3%	102.0%	99.8%	1457.4%
紡績業	73.8%	72.1%	134.9%	50.0%	310.8%	63.8%	188.0%	84.5%	-12.7%	-11.3%
衣料・繊維製品	2.2%	2.3%	114.7%	2.2%	16.8%	5.0%	272.2%	272.2%	7.9%	383.6%
皮革	23.0%	22.1%	164.9%	2.4%	24.7%	1.4%	38.1%	7.9%	-8.7%	-326.1%
木材加工	38.4%	35.3%	82.3%	17.3%	41.8%	23.6%	105.3%	40.8%	8.4%	44.0%
家具製造	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
製紙・紙製品	45.6%	45.8%	103.7%	27.0%	166.7%	37.9%	166.1%	75.5%	26.3%	96.5%
印刷	64.0%	62.0%	102.4%	49.0%	104.9%	41.3%	66.5%	40.5%	18.7%	23.8%
文教体育用品	11.8%	10.4%	83.2%	12.8%	9.8%	21.8%	167.3%	173.8%	26.4%	245.0%
石油精製・加工	79.1%	79.1%	42.4%	77.7%	873.0%	87.5%	87.1%	78.1%	84.2%	152.4%
化学原料・製品	68.6%	70.4%	124.3%	63.4%	349.4%	63.5%	172.6%	99.2%	54.9%	70.3%
医薬品	86.2%	86.4%	126.0%	75.5%	346.0%	71.3%	117.3%	50.3%	57.8%	44.6%
化学繊維	100.0%	100.0%	-	100.0%	-	-	-	-	100.2%	-
ゴム製品	62.5%	59.9%	87.7%	46.0%	403.9%	61.0%	148.7%	82.1%	33.0%	57.9%
プラスチック製品	14.4%	14.4%	81.1%	18.8%	113.0%	31.8%	356.7%	224.3%	47.5%	391.0%
非金属鉱物製品	44.7%	37.0%	125.3%	22.8%	156.2%	27.6%	210.7%	59.2%	8.3%	30.5%
鉄鋼	95.2%	94.8%	120.2%	87.0%	2110.5%	93.7%	149.7%	89.5%	94.0%	232.8%
非鉄金属	91.8%	92.1%	59.2%	78.2%	599.0%	92.5%	149.9%	65.7%	84.7%	154.4%
金属製品	37.8%	34.3%	152.7%	20.2%	128.6%	20.0%	126.4%	63.0%	-29.8%	-90.4%
一般機械	80.4%	80.0%	122.8%	65.8%	325.2%	76.4%	190.3%	97.1%	61.9%	84.5%
その他機械	70.7%	68.1%	116.4%	53.3%	135.4%	52.7%	159.4%	53.7%	5.7%	5.3%
輸送機械	65.1%	64.6%	72.9%	54.6%	571.4%	66.5%	119.1%	77.4%	67.3%	171.3%
電機	54.5%	48.7%	127.1%	34.2%	173.2%	22.4%	64.3%	30.6%	1.3%	2.5%
電子・通信	73.3%	70.1%	117.2%	49.6%	106.5%	46.8%	121.2%	37.5%	-111.3%	-53.6%
計測器	86.5%	83.7%	189.0%	79.9%	285.5%	83.5%	252.5%	149.7%	64.7%	46.2%
その他	98.5%	98.6%	110.3%	94.6%	1628.2%	94.1%	20.8%	27.6%	20.9%	1.5%
電力・ガス・用水	95.1%	93.2%	-	96.9%	573.9%	91.6%	141.9%	45.3%	96.5%	89.3%

出所：重慶統計年鑑各年版に基づき調査団作成

付属資料4 重慶市の国有企業データの経年比較 (変化率：1999→2002年)

区 分	企業数 (社)	雇用者数		粗生産額 (億元)	販売額 (億元)	付加価値額			総資産		
		(万人)	1社当たり (人/社)			(億元)	1社当たり (万元)	1人当り (元)	(億元)	1社当たり (万元)	流動資産 (平均値)
合 計	64.9%	64.9%	100.1%	121.3%	122.5%	134.1%	206.7%	206.4%	104.1%	160.5%	108.1%
軽工業	53.2%	67.4%	126.7%	131.0%	133.7%	137.7%	258.9%	204.3%	116.1%	218.4%	128.4%
重工業	75.8%	64.1%	84.6%	118.1%	118.8%	132.6%	174.9%	206.7%	101.0%	133.3%	102.7%
鉄 業	61.4%	61.2%	99.7%	105.8%	107.4%	109.0%	177.5%	178.1%	96.3%	156.8%	105.2%
素材製造業	84.1%	67.5%	80.2%	124.1%	123.8%	153.4%	182.4%	227.5%	112.5%	133.8%	101.3%
加工製造業	74.9%	63.2%	84.3%	116.0%	117.1%	122.4%	163.4%	193.7%	93.1%	124.3%	103.4%
大企業	87.8%	62.9%	71.7%	123.6%	124.7%	139.5%	159.0%	221.7%	103.8%	118.3%	106.4%
中企業	75.3%	65.3%	86.7%	128.4%	127.7%	143.8%	190.9%	220.1%	112.1%	148.8%	121.5%
小企業	57.8%	71.0%	122.9%	101.6%	104.6%	93.9%	162.6%	132.3%	96.9%	167.8%	104.5%
鉄 業	61.0%	68.8%	112.7%	115.1%	116.8%	118.3%	193.8%	172.0%	101.4%	166.1%	251.4%
製造業	62.5%	61.8%	99.0%	120.2%	121.4%	128.6%	206.0%	208.1%	98.0%	157.0%	128.1%
食品加工	32.4%	74.7%	231.0%	88.9%	88.0%	98.8%	305.3%	132.1%	117.9%	364.4%	88.8%
食品製造	27.8%	40.5%	145.8%	125.2%	133.2%	100.3%	361.2%	247.7%	71.8%	258.5%	138.6%
飲料製造	48.5%	49.2%	101.4%	108.4%	107.7%	146.3%	301.8%	297.6%	78.1%	161.0%	122.4%
煙草加工	60.0%	45.3%	75.5%	94.7%	98.5%	111.3%	185.6%	245.9%	114.2%	190.3%	84.5%
紡績業	31.1%	66.8%	214.3%	105.8%	102.2%	145.5%	467.2%	218.0%	82.2%	264.0%	207.4%
衣料・繊維製品	100.0%	-	-	6591.7%	4933.3%	3966.7%	3966.7%	-	2289.7%	2289.7%	1971.4%
皮 革	25.0%	23.1%	92.3%	33.1%	108.3%	-89.8%	-359.2%	-389.1%	45.2%	180.8%	45.6%
木材加工	60.0%	18.2%	30.3%	479.3%	517.4%	-244.4%	-407.3%	-1344.2%	62.3%	103.8%	151.3%
家具製造	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
製紙・紙製品	42.1%	29.4%	69.9%	81.7%	74.0%	111.0%	263.6%	377.4%	60.9%	2125.7%	74.3%
印 刷	66.7%	71.4%	107.1%	148.6%	149.5%	173.4%	260.2%	242.8%	113.0%	2480.9%	225.1%
文教体育用品	42.9%	50.0%	116.7%	202.2%	184.5%	613.6%	1431.8%	1227.3%	40.6%	21026.5%	6.7%
石油精製・加工	66.7%	57.1%	85.7%	124.4%	159.4%	117.7%	176.6%	206.0%	79.1%	436.1%	76.3%
化学原料・製品	62.4%	57.0%	91.5%	109.0%	104.1%	128.6%	206.2%	225.5%	86.7%	491.4%	164.4%
医薬品	82.8%	81.5%	98.5%	129.3%	133.8%	112.0%	135.4%	137.4%	113.5%	393.9%	102.3%
化学繊維	75.0%	71.1%	94.8%	117.7%	121.4%	129.4%	172.6%	182.0%	101.9%	73.2%	296.0%
ゴム製品	30.8%	45.3%	147.3%	75.7%	77.0%	74.7%	242.9%	164.8%	28.6%	595.2%	46.0%
プラスチック製品	81.8%	54.5%	66.7%	154.9%	166.4%	203.2%	248.3%	372.5%	148.1%	3411.7%	196.7%
非金属鉱物製品	52.7%	51.4%	97.5%	87.1%	87.3%	89.8%	170.4%	174.9%	93.1%	1708.1%	253.4%
鉄 鋼	127.3%	44.6%	35.1%	102.6%	104.3%	95.0%	74.6%	212.9%	74.0%	62.7%	100.3%
非鉄金属	85.7%	75.2%	87.7%	146.0%	144.8%	270.0%	315.0%	359.2%	114.1%	230.0%	369.3%
金属製品	60.0%	58.5%	97.6%	155.0%	158.1%	135.7%	226.2%	231.9%	116.4%	4033.4%	141.2%
一般機械	77.8%	58.6%	75.3%	145.1%	143.8%	159.1%	204.5%	271.5%	89.9%	498.9%	92.2%
その他機械	64.0%	82.9%	129.5%	188.8%	190.2%	168.2%	262.7%	202.9%	131.1%	3701.2%	159.4%
輸送機械	108.7%	130.6%	120.2%	242.6%	248.5%	230.8%	212.4%	176.7%	192.2%	201.9%	192.4%
電 機	75.0%	53.4%	71.2%	130.5%	131.9%	126.1%	168.1%	235.9%	88.9%	1003.5%	88.3%
電子・通信	70.6%	59.1%	83.7%	52.7%	55.4%	67.6%	95.8%	114.5%	67.1%	942.5%	75.2%
計測器	131.6%	79.1%	60.1%	168.9%	166.6%	224.7%	170.7%	284.0%	110.4%	388.8%	105.3%
その他	53.6%	41.1%	76.7%	36.9%	37.9%	31.5%	58.7%	76.6%	55.3%	187.7%	61.9%
電力・ガス・用水	85.2%	92.1%	108.1%	136.5%	137.3%	169.7%	199.2%	184.3%	132.7%	333.6%	128.5%

区 分	負債合計			資産負債率 (%)	主営業務収入(売上高)		主営業務利潤(経常利益)			ROA (%)	利税総額(税引前利益)	
	(億元)	1社当たり (万元)	流動負債		(%)	(億元)	1社平均	(億元)	1社当たり (万元)		経常利益率 (%)	(億元)
合 計	94.2%	145.3%	101.1%	90.5%	124.0%	191.2%	152.3%	234.9%	122.9%	146.3%	234.2%	188.9%
軽工業	105.0%	197.4%	113.8%	90.4%	130.2%	244.9%	131.1%	246.6%	100.7%	112.9%	153.6%	117.9%
重工業	91.3%	120.4%	97.4%	90.3%	122.0%	161.0%	160.7%	212.0%	131.7%	159.1%	311.0%	254.9%
鉄 業	90.9%	147.9%	93.0%	94.3%	123.8%	201.5%	138.5%	225.5%	112.0%	143.8%	156.2%	126.2%
素材製造業	96.7%	115.0%	99.2%	86.0%	130.7%	155.4%	157.6%	187.4%	120.6%	140.1%	1124.1%	860.0%
加工製造業	87.0%	116.1%	96.5%	93.4%	116.8%	155.9%	164.4%	219.5%	140.8%	176.6%	217.0%	185.8%
大企業	91.4%	104.1%	99.2%	88.0%	125.2%	142.6%	162.7%	185.4%	130.0%	156.8%	237.0%	189.3%
中企業	106.8%	141.8%	112.3%	95.3%	128.6%	170.9%	133.0%	176.6%	103.4%	118.7%	345.0%	268.2%
小企業	95.7%	165.6%	99.7%	98.7%	112.0%	193.8%	126.0%	218.1%	112.6%	130.0%	133.3%	119.0%
鉄 業	97.0%	158.9%	103.9%	-	131.9%	216.1%	144.4%	236.6%	109.5%	142.5%	153.6%	116.4%
製造業	85.0%	136.2%	96.0%	-	120.7%	193.3%	155.5%	249.1%	128.8%	158.6%	244.4%	202.4%
食品加工	111.2%	343.7%	117.2%	94.3%	88.1%	272.2%	217.0%	670.6%	246.4%	184.1%	-112.1%	-127.3%
食品製造	63.0%	226.8%	64.3%	87.8%	150.8%	542.9%	147.7%	531.8%	98.0%	205.7%	9143.2%	6063.1%
飲料製造	68.8%	142.0%	73.1%	88.2%	104.6%	215.6%	106.9%	220.4%	102.2%	136.9%	121.2%	115.9%
煙草加工	109.9%	183.1%	112.9%	96.2%	89.0%	148.3%	126.3%	210.5%	142.0%	110.6%	145.9%	163.9%
紡績業	71.0%	227.8%	80.2%	86.3%	102.8%	330.2%	221.5%	711.0%	215.3%	269.4%	1.9%	1.9%
衣料・繊維製品	10750.0%	10750.0%	10750.0%	483.9%	4426.7%	4426.7%	8600.0%	8600.0%	194.3%	375.6%	3700.0%	83.6%
皮 革	45.9%	183.8%	64.1%	101.7%	50.1%	200.5%	16.2%	65.0%	32.4%	35.9%	63.2%	126.1%
木材加工	42.9%	71.5%	38.8%	68.8%	455.2%	758.7%	-	-	-	-	-11.2%	-2.5%
家具製造	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
製紙・紙製品	45.3%	107.6%	54.4%	74.4%	72.8%	172.9%	124.2%	294.9%	170.6%	204.1%	-70.0%	-96.1%
印 刷	102.9%	154.4%	117.2%	91.1%	148.1%	222.2%	84.2%	126.3%	56.9%	74.5%	157.3%	106.2%
文教体育用品	11.3%	26.3%	9.9%	27.8%	203.2%	474.1%	-181.9%	-424.5%	-89.6%	-448.7%	-130.4%	-64.2%
石油精製・加工	62.5%	93.8%	55.7%	79.1%	137.0%	205.5%	121.3%	181.9%	88.5%	153.4%	138.3%	101.0%
化学原料・製品	68.1%	109.1%	68.5%	78.5%	107.3%	172.1%	146.6%	235.1%	136.6%	169.1%	-2399.5%	-2236.4%
医薬品	121.2%	146.5%	141.3%	106.8%	122.3%	147.7%	131.3%	158.6%	107.4%	115.6%	87.9%	71.9%
化学繊維	68.1%	90.8%	56.0%	66.8%	138.7%	184.9%	170.4%	227.2%	122.9%	167.2%	259.3%	187.0%
ゴム製品	24.3%	79.1%	44.5%	85.0%	82.7%	268.9%	193.5%	628.9%	233.9%	675.9%	-206.7%	-249.8%
プラスチック製品	78.2%	95.6%	123.3%	52.8%	153.1%	187.1%	123.9%	151.4%	80.9%	83.6%	574.3%	375.2%
非金属鉱物製品	97.5%	185.0%	96.3%	104.7%	95.7%	181.6%	109.1%	207.0%	114.0%	117.2%	121.5%	126.9%
鉄 鋼	56.7%	44.6%	36.3%	76.7%	106.7%	83.9%	237.1%	186.3%	222.1%	320.4%	-147.1%	-137.8%
非鉄金属	54.9%	64.1%	97.9%	48.1%	147.0%	171.5%	141.2%	164.7%	96.0%	123.7%	-1568.1%	-1066.6%
金属製品	115.7%	192.8%	126.6%	99.4%	167.6%	279.3%	142.8%	238.1%	85.2%	122.7%	87.1%	52.0%
一般機械	85.9%	110.5%	89.9%	95.6%	140.8%	181.1%	151.0%	194.2%	107.3%	168.1%	403.9%	286.8%
その他機械	111.9%	174.8%	124.9%	85.4%	175.5%	274.3%	132.3%	206.7%	75.4%	100.9%	-7.5%	-4.3%
輸送機械	197.7%	181.9%	230.9%	103.0%	227.7%	209.5%	148.7%	136.8%	65.3%	77.3%	162.7%	71.4%
電 機	97.3%	129.8%	103.3%	109.5%	137.7%	183.6%	201.9%	269.2%	146.6%	227.1%	-1.5%	-1.1%
電子・通信	49.3%	69.8%	45.7%	73.5%	75.7%	100.2%	100.7%	142.7%	133.1%	150.2%	193.3%	255.3%
計測器	130.2%	98.9%	128.3%	118.0%	185.5%	141.0%	173.8%	132.1%	93.7%	157.5%	1097.6%	591.7%
その他	59.9%	111.7%	63.4%	108.3%	42.0%	78.4%	673.3%	1256.8%	1602.7%	1217.9%	-8.7%	-20.6%
電力・ガス・用水	154.4%	181.2%	153.8%	-	143.8%	168.8%	137.9%	161.9%	95.9%	104.0%	205.6%	142.9%

出所：重慶統計年鑑各年版に基づき調査団作成

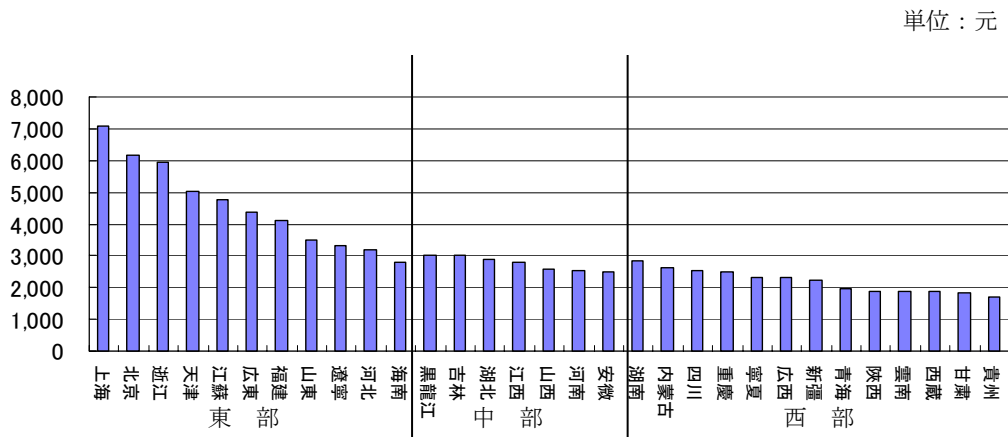
第2章 貧困削減とマイクロファイナンス：甘肅省定西地区

2.1 定西地区における貧困の状況

2.1.1 定西地区の概要

調査対象地域である定西地区は、甘肅省の首都蘭州と北西に接し、蘭州と西安をつなぐシルクロード沿いに位置する。2004年の甘肅省農村地域の1人あたり年純粋収入額は1852元であり、全国で貴州省に次ぎ低い(図2-1)。その中でも、降水量が不足していて自然環境が激しい定西地区は、代表的な貧困地域として知られてきた。2003年の定西地区の農村1人あたり年純収入は1493元であり、2000年時点で定西地区の人口の6%が絶対貧困層、25%強が低収入層であった[甘肅年鑑編委会(2004)p.192、国家統計局農村社会経済調査总队(2003)p.45]。

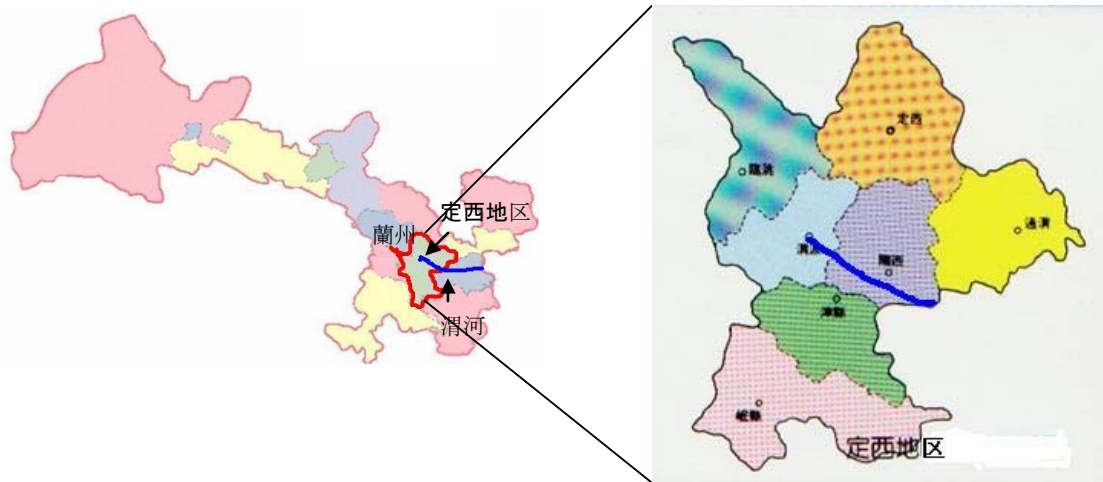
図2-1 省別農村1人あたり年純収入(2004年)



出所：中華人民共和国国家統計局(2005)に基づき調査団作成

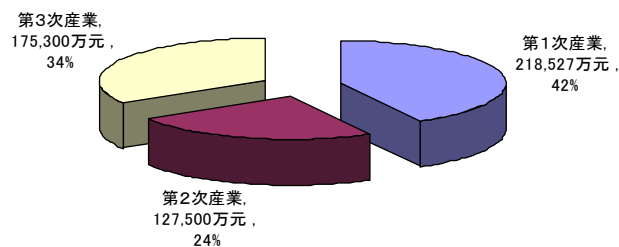
定西地区の2万330Km²の土地には296万人が住み、そのうち265万人が農村人口である。区内は渭河を境として、北部は黄土の高低差の激しい丘陵地帯で耕地が広がる。一方、南部は高度が高く寒さが厳しい地域で牧草地帯が広がっている(図2-2)。定西地区の総面積の約4分の1は耕地として利用されているが、降水量が年400~600mmと低く、かんばつに見舞われやすい。2003年にも、耕地面積の2割がかんばつによる減反の被害にあっている。2002年時点で、第1次産業に農村の労働力131万人中69%が従事し、地域内総生産額の42%を占めた(図2-3)[定西市招商局ホームページ;甘肅年鑑編委会(2003);甘肅年鑑編委会(2004);甘肅農村年鑑編委会(2003)]。

図 2-2 甘肅省と定西地区



出所：中大信息<<http://www.zdxx.net/map-china/gs/gs.htm>>に調査団が加筆

図 2-3 定西地区の地域内総生産額(2002年)



出所：甘肅年鑑編委会(2003)に基づき調査団作成

2.1.2 定西地区の貧困削減対策

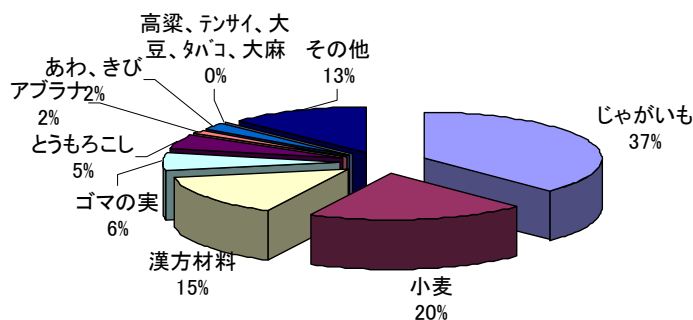
中国政府は、降水量の不足による貧困状況が激しい定西地区、甘肅省の河西地区、寧夏回族自治区の西海固を総称で「三西」と呼び、1982年に「三西農業建設計画」を策定した。同計画により、1982年から10年間にわたって毎年2億元が三西に投入され、その後も三西農業建設計画は延長実施されている。2002年には、定西地区における全扶貧資金の約半分にあたる2713万元が三西資金により投入されている。

扶貧資金は、段々畑や灌漑地の造成、水路建設、栽培、養殖、移住などの多方面にわたり活用され、生産基礎条件の改善に使われてきた。そのなかでも、大規模な段々畑の開発と水路建設は、生産条件の改善に大きく貢献した。さらには、種をまいて牧草地帯を広げ、土壌流出を防ぐために植林を実施した。

降水量の少なさは、定西地区の大きな問題であるものの、深く柔らかい黄土はカリウムが豊富である。また、気温が低くて温度差が大きいため、病虫害が少ない。さらには、日照時間が長いという、これらの自然条件はじゃがいもの作付けには最適であった。政府はその長所を活かし、じゃがいもの生産と加工業の育成に注力してきた。定西地区は、現在では西部地域最大のじゃがいも生産地になっている。また、漢方薬の材料も298種類生産されていて、特に当帰と党参の産地として知られる[定

西市招商局ホームページ]。牧畜業では、猪、羊、牛などの養殖が盛んとなっている（図2-4参照）。

図2-4 定西地区の品目別耕地利用割合(2002年)



出所：甘肅農村年鑑編委会（2003）pp.449-484に基づき調査団作成

定西市の貧困削減対策は3段階にわけられる（図2-5参照）。

1983年～1993年：

第1段階では、住民の生産条件の改善のため、耕地、水利、道路、電力などの基本インフラの構築に重点がおかれた。

1994年～1999年：

第2段階は「国家八七扶貧攻堅計画」¹の実施時期と重なり、「温飽」問題の解決を目指した。「121 雨水集流方式」²を普及させて、各世帯の人蓄用の飲料水を確保した。また、ジャガイモ、漢方薬の材料などの中核産業を確立するべく、水路と段々畑の開発に注力した。

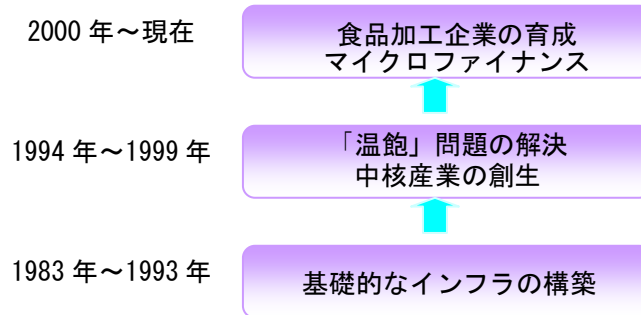
2000年～現在：

第3段階では、食品加工企業を重点的に育成して、企業を通じて貧困世帯の収入向上を図っている。また、マイクロファイナンスを利用して、農民が自らの力で経済活動を活性化するよう誘導している。

¹ 「国家八七扶貧攻堅計画」については、現状分析編第9章9.1.2項に詳細を記載。

² 庭や屋根に100平方メートル程の雨の集水場所を「1」ヶ所確保し、その水を導く「2」つの貯水井戸をつくる。そして、近くに野菜畑や果樹園を「1」ヶ所設け、その貯水を利用するという貯水地建設運動を指す。

図 2-5 定西市の貧困削減戦略の発展



出所：2005年1月に定西市にて調査団がヒアリングした内容に基づき作成



開発された農村では一面に段々畑が広がっている。農民に掘削機のリース料(1ムー当たり300元)相当を貸し付けて開発を進めたという。



飲み水を煮沸するために、このソーラーパネルが県の農村全体に普及している。購入価格は120元。



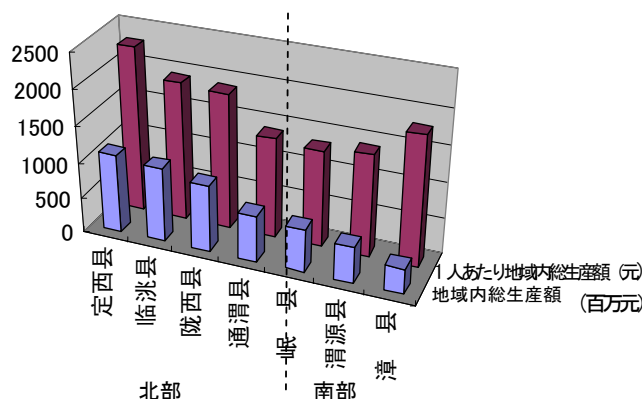
121 雨水集流方式。農村における人畜用の飲み水の確保のために各世帯に普及された。建設費は1世帯あたり1500元。

出所：2005年6月通渭にて調査団が撮影



これらの長年の開発努力の結果、耕地が広がる北部の4県(定西県、通渭県、隴西県、臨洮県)の地域内総生産額は、高度が高く寒さが厳しい南部3県(渭源県、漳県、岷県)より伸びてきている。政府は、自然条件の厳しい南部3県から北部への移住を進めてきた。現在でも、住民による自発的な移住が奨励されていて、2002年にも定西地区全体で3251名の移住が実施されている[甘肅農村年鑑編委会(2003) p.614]。

図 2-6 定西地区県別地域内総生産額と1人あたり地域内総生産額 (2002年)



出所：甘肅年鑑編委會(2003) に基づき調査団作成

2.2 定西地区での信託扶貧資金とマイクロファイナンスの実施状況

(1) 中国農業銀行

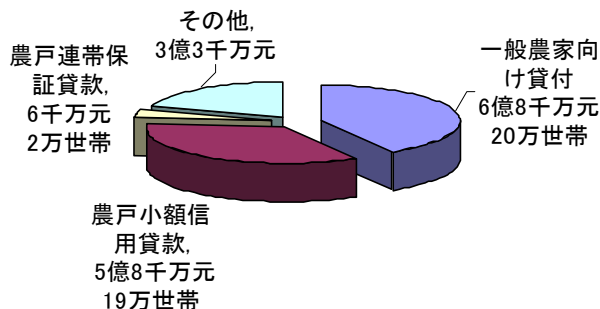
定西地区における中国農業銀行の 2004 年の貸付残高は 21 億元で、そのうち約半分の 10 億元が信託扶貧資金³を利用している。定西地区での貸付は自然災害のリスクを常にとまらう。自然災害が発生した場合、元金の返済は猶予される。このリスクを伴いつつも、不良債権比率を 15%以内に下げなくてはならないという全国一律の基準を達成するプレッシャーをかかえて事業を実施している。貸付リスクに加え、郷村に支店をもたなくなった中国農業銀行は、貧困世帯への直接的な貸付には消極的である。今後は、小額到戸貸付を増やさず、漢方薬、食肉、野菜、草花、食用菌類などを取り扱う加工企業への貸付を通じ、貧困世帯への波及効果を図る方針である。たとえば、農業銀行から信託扶貧資金を借りた「定西金泉菌業公司」は、10 の貧困郷に栽培基地を設け、菌類袋の生産を約 300 の貧困世帯に委託している。また、3 つのじゃがいも業者は、実験室と温室で栽培した種を 2 万戸の農家に提供している。さらには、14 のじゃがいも澱粉工場が、農家にじゃがいもの栽培を委託している[国家統計局農村社会経済調査总队(2003) pp.45-46]。

(2) 農村信用社

「三農問題」への貢献を使命とする農村信用社は、薄利でも農戸小額信用貸付の実施を推進する意向である。2004 年末で農戸小額信用貸付と農戸連帯保証貸付(農戸联保貸付)の貸付残高は 6 億 3 千萬元で、定西地区農村信用社の全貸付残高の約 4 割を占める(図 2-7)。

³ 信託扶貧資金については政策提言編第 8 章 8.2 項に詳細を記載。

図 2-7 定西地区農村信用社貸付状況 (2004年末)



注：数値は貸付残高と顧客数
 出所：中国人民銀行金融研究所 (2005)

このように、農村信用社でのマイクロファイナンスの取扱い比率は高まっているが、課題も少なくない。まず、農村信用社へのデータベースには、定西地区の 68%の世帯が登録されているが、うち 37%は借入れの資格を得られていない。また、南部 3 県については、人口密度が低く優良貸付先も少ないため、分社の設置が遅れている。更に、4~9 月の農繁期には必要な運転資金への供給原資が不足しがちであり、省内の他県農村信用合作社から有償借入れをするため、調達コストが高まっている。

(3) 民間 MF 事業体

1) 定西市安定区郷村発展協会

定西市安定区の郷村発展協会は、1996 年に、UNDP と中国国際経済技術交流中心 (CICETE) のプロジェクト実施機関として立ち上げられた。第 1 フェーズでの主な活動は、リボルビング・ファンドを利用した「121 雨水集流方式」の普及であった。そして、第 2 フェーズの 2001 年からマイクロファイナンス事業を開始した。マイクロファイナンスの実施地域は 5 つの郷内 12 村である。2004 年には、2873 世帯 (707 の連帯チーム) に対して 588 万元 (1 世帯あたり平均約 2000 元) を貸付け、返済率は 99.8%に到達した。貸付対象の要件は、他の金融機関から多額の借入れをしていないことと、国連の定義によるところの貧困世帯 (1 人あたり年平均純収入が 1480 元以下) となっている。ただし、返済能力がない絶対貧困層は貸付対象外である。利率は年 9%~10.2%である。借入人への生産技術の移転は、市が実施する研修に参加することにより実現している。現在の主なドナーは UNDP とグラミン基金であるが、運営資金の不足により、規模の拡大が阻まれている。

2) 通渭県郷村発展協会

通渭県の郷村発展協会は、1999 年に、国連人口基金のプロジェクト実施機関として立ち上げられた。女性を対象にマイクロファイナンスを実施している。利息は年 13.775%だが、完済時に 5%を奨励金として返金しているため、実質金利は年 8.775%である。マイクロファイナンスの他に保険教育も実施している。2003 年末の時点で 8 村の 616 世帯に対して 131 万元の貸付残高をもつ。2004 年からはグラミン基金の資金を得て、更に 2 村サービス地域を広げている。

碧玉郷新城村には、このマイクロファイナンスの資金を得て、裁縫店の経営拡大に成功した女性企業家がいる。この女性企業家は、もともと裁縫の技術をもち、細々と個人経営をしていた。しかし、マイクロファイナンスのセンター・ミーティング⁴を通じて得た村内の女性とのネットワークにより、社会的な地位を確立し、地域の女性に裁縫を教えながら生産規模を広げている。

このように、センター・ミーティング機能をつかったマイクロファイナンスは、地域住民との連携を深める契機となっている。碧玉郷新城村の成功事例では、経営能力をもった借入人の個人的な利益の増大にとどまらず、地域の女性に技術を移転し、地域の女性全体に生活向上の機会を与えている。



碧玉郷新城村の裁縫店

女性経営者は「マイクロファイナンスがこの村に提供されるまでは、女性が主体になって経済活動をするなんて考えられなかった」と語った。

出所：2005年6月調査団撮影

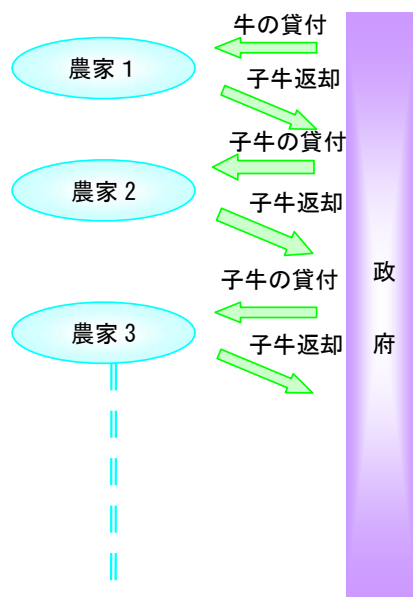
漢方薬の薬草は利益率の高い農産物である。段々畑が開発されている鷄川郷四合村に住むこの女性は、マイクロファイナンスの資金を得て漢方薬の薬草の栽培を開始した。

(4) 扶貧資金によるリボルビング・ファンド

マイクロファイナンスが提供されていない貧困村での貸付には、県の扶貧弁公室が担当する扶貧資金によるリボルビング・ファンドが活用されている。かつては、現金で貸付け、現金で返済してもらうこととしていたが、回収が進まなかった経験から、現在は、現物で貸付け、現物で返済してもらう仕組みを採用している。具体的には、牛1頭を貸付け、子牛が生まれたらその子牛1頭を返してもらう。そして、その子牛を他の世帯に貸付けるといった仕組みをとることにより、ファンドをまわしている。利息（管理費）は徴収していない（図2-8参照）。

⁴ センター・ミーティングについては政策提言編第8章8.3.1項に詳細を記載している。

図 2-8 定西市のリボルビング・ファンドの使用事例

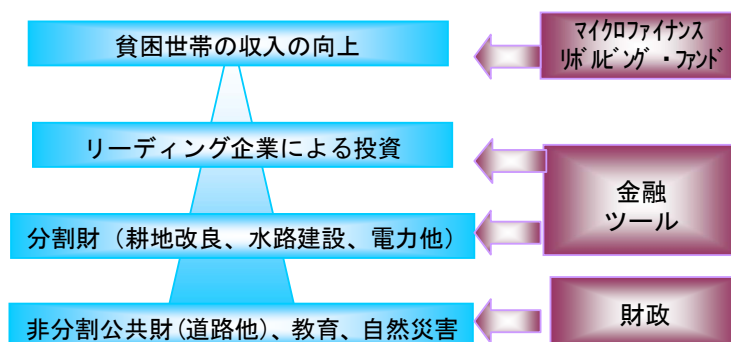


出所：調査団作成

2.3 定西地区における貧困削減のための財政と金融の利用の構図

定西地区での貧困削減のための財政と金融の構図は図 2-9 のとおりに示される。これらのツールを使った 20 年以上の貧困削減努力が実り、定西地区では生産基盤の大幅な改善が実現した地域も多い。また、街中では食品加工業が盛んになり、企業による投資をも呼びこめる状況になった。しかし、一方で、いまだ車が通れる道路がなく、天の水に頼った農業と出稼ぎによりかろうじて生計をたてている貧困世帯が集まる貧困村も多く残されている。

図 2-9 定西地区での貧困削減に向けての財政と金融の投入



出所：調査団作成

今後、更なる貧困削減効果を図るために、財政、金融ツール、マイクロファイナンスそれぞれにかかわる課題と政策提言を『政策提言編』に記載した。以下、『政策提言編』との重複を避け、ポイントのみ記載する。

1) 財政の効果的な活用のために戦略的な貧困村の地図を作成する

財政は、扶貧弁公室だけでなく、農業部、水利部、教育部、民政部など複数の部署でそれぞれの資金を持っている。いまだ、インフラが整わない地域に財政を効果的に投入するためには、貧困村の分布とその開発戦略を地図上で図式化し、県レベルで財政投入の順位付けを明確にするべきであろう。定西市では貧困村の等級付けがされていないが、貧困村により生産条件にかなりの違いが見られる。貴州省のように貧困村の貧困度合いによって三級にわけ、地図を作成することが望ましい（財政の活用に関しては政策提言編第8章 8.2.2 項(1)参照）。

2) 金融ツール

本来商業貸付で行える貸付に信貸扶貧資金を使用しない。利息補助は譲許性と借入れ資金の運用から生まれる収益性を勘案して決定する。十分な収益が見込まれるプロジェクトや企業貸付については、利息補助を行わない（信貸扶貧資金に関しては政策提言編第8章 8.2.2 項(2)参照）。

3) マイクロファイナンスとリボルビング・ファンド

マイクロファイナンスが行き渡らない貧困村では、当面、貧困世帯への貸付は扶貧弁公室のリボルビング・ファンドを活用していくことが適切であろう。しかし、リボルビング・ファンドの実施により、マイクロファイナンスの市場がゆがめられないよう留意する必要がある。管理費を徴収して、金利を徴収するマイクロファイナンスの枠組みとの調整と連携を図るべきである（マイクロファイナンスに関しては政策提言編第19章 19.6 項参照）。

引用文献

甘肅年鑑編委会(2003) 『甘肅年鑑2003』 中国統計出版社

甘肅年鑑編委会(2004) 『甘肅年鑑2004』 中国統計出版社

甘肅農村年鑑編委会(2003) 『甘肅農村年鑑2003』 中国統計出版社

国家統計局農村社会経済調査总队 (2003) 『2003中国农村貧困監測報告』 中国統計出版社

中国人民銀行金融研究所(2005) 『定西地区和貴州地区扶貧实施情况和农户小额贷款调查报告』

中華人民共和国国家統計局 (2005) 『中国統計年鑑』 中国統計出版社

WEB

定西市招商局ホームページ<<http://www.gsinvest.com.cn/2003/dxzs/default.asp>>(2004/8/11アクセス)

中大信息<<http://www.zdxx.net/map-china/gs/gs.htm>>(2004/8/10アクセス)

第3章 農業振興：貴州省

3.1 貴州省の農業と農業・農村金融の現状

3.1.1 農業・農村の現状

(1) 省の基本状況

貴州省の土地面積は 17.6 万平方キロで、高原や山岳地はその 87%、丘陵地は 10%、盆地は 3%を占めている。2003 年度末の省内総人口は 3869.7 万人である。省内には 49 の民族が居住している。省には計 18 の地級の行政単位（4 つの市、2 つの地区、3 つの自治州、9 つの市轄区）、計 78 の県級の行政単位（9 つの市、56 の県、11 の自治県、特別区 2 つ）がある。貴州省は、亜熱帯季節風気候に属し、地形と地勢の複雑さが、気候面での複雑性及び多様性をもたらしている。貴州省においては、土地の種類が多く、地目の分布も多様である。山地が多く、平地が少なく、また表土が薄いため、生産性の低い田地の割合が高い。

2003 年度の省 GDP は 1,344.3 億元で、前年度に比べ 10.1%の増加であった。内訳は、第 1 次産業が 294.53 億元（前年比 4.6%増）、第 2 次産業 571.91 億元（前年度比 13.2%増）、第 3 次産業 477.87 億元（前年度比 10.1%増）である(表 3-1 参照)。

(2) 農業と農村の現状

山地と丘陵地が多くまたカルスト地が広範囲に及ぶため、貴州省の耕地面積は省全土の約 10% (175 万 ha) に過ぎず、農業就労者 1 人当たりの耕作面積は約 2 畝 (0.13ha) と非常に狭い。総作付（栽培）面積 463 万 ha のうち、食糧（米、小麦、トウモロコシ、イモ類など）の作付面積が約 65%を占め、食用油の原料（主にアブラナ）、野菜がそれぞれ 10.8%、9.0%となっている。貴州省における葉タバコの作付面積は全国の 16.4%であり、省の特産品となっている。その他の重要な農産物としては、お茶、果樹（梨、かんきつ類など）や漢方薬の材料などがある（図 3-1 参照）。セクター生産額の内訳を見ると、農業が 59%、畜産が 30%、林業が 6%となっている。

表 3-1 貴州省の概略（2003年）

人口	3,900 万人
農村人口	2,911 万人
農業就労人口	1,322 万人
農村貧困人口	290 万人
省 GDP	13.6 億元
前年比 GDP 成長率	10.1%
省GDPに占める第 1 次産業の割合	22%
1 人当たり GDP	3,603 元
都市住民 1 人当たり可処分所得	6,569 元
農村 1 人当たり純収入	1,565 元

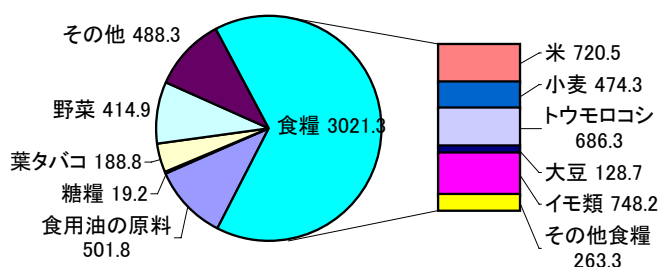
出所：「貴州統計年鑑 2004」を基に調査団作成

貴州省の農村 1 人当たり純収入は、全国で最も低く、全国平均の 60%足らずである。

農村住民の収入に占める農業収入の割合は 57%であるが、次に多いのは出稼ぎによる収入となっている (32%)。貴州省農業庁によると、年間約 300 万人の農村人口が出稼ぎ労働者として働いている。農家の収入は漸増しているが、増加分は出稼ぎによる収入が大半を占める農外収入の増加によるものであり、農業収入は伸び悩んでいる。

図 3-1 貴州省の主要農作物の作付・栽培面積 (2003年)

(単位：千 ha)



出所：「貴州統計年鑑 2004」に基づき調査団作成。

省の農業庁によると、貴州省の農業発展には以下のような制約と問題点がある。

- i) 耕地が少ない上、分散しているため生産規模の拡大が困難である。
- ii) 商品作物に関しては、品質の標準化がなされておらず、価格競争力が弱い。
- iii) 加工業の発展が遅れている。
- iv) の組織化が遅れている。
- v) 村と郷鎮をつなぐ道路の多くが未整備である。

(3) 農業発展の重点領域

貴州省政府が農業関連で中期的に重視する領域は、農業の産業化、産物の高付加価値化と商品化、農村インフラ整備、農民の増収などで、大きな方向としては国の第 10 次五カ年計画及び「1 号文件」が示す農業政策の内容に沿っている [貴州省人民政府 (2003)]。短期的には、①食糧生産能力の維持とそのための耕地保護、②さまざまな農村インフラ (水利・灌漑、飲料水、農村道路など) の建設、③優位性のある農産品 (タバコ、菜種、お茶、漢方薬の材料等)、特産品 (トウガラシ、シーズンオフの野菜等)、有機食品などを中心に産業化を推進すること、などが具体策として挙げられている [貴州省発展計画委員会 (2004)]。

3.1.2 農業・農村金融の現状

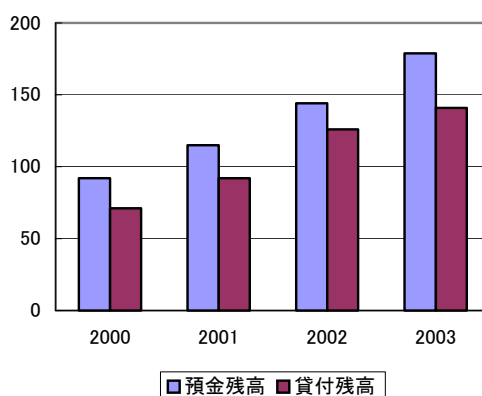
(1) 農業金融機関

1) 農村信用社

貴州省には、合計 1044 の農村信用社（連合社を含む）と 1091 の小規模な単位（分社と貯蓄所）がある（2002 年末現在）。2003 年において、農村信用社の貸付残高は 141 億元で、省内の農業部門への貸付の 93%以上を占めた¹ [貴州省農村信用社改革试点工作领导小组办公室（2004）]。図 3-2 に示すように、預金残高、貸付残高とも近年着実に増加している。しかしながら、多くの信用社が不良債権を抱え経営の危機に直面しているなかで、中央政府の指示による改革が始まった。貴州省の農村信用社改革の具体内容については、後述する。

図 3-2 貴州省の農村信用社の預金・貸付残高の推移

（単位：億元）



出所：「中国統計年鑑 2003」、貴州省農村信用社改革试点工作领导小组办公室（2004）を基に調査団作成

2) 農業銀行

中国農業銀行貴州分行は他の分行同様、商業ベースの貸付と政策融資の両方の業務を行っている。商業貸付と政策融資の比率は 2 対 1 である（貸付残高ベース）。後者については、本来は政策銀行である農業發展銀行の所轄であったが、1998 年に農業銀行に移管された。商業ベースの主要貸付先は、電力、交通、タバコ産業である。政策性融については、省の扶貧弁公室との協力関係の下、以下の 2 つのタイプの融資を行っている。

プロジェクト融資： 扶貧弁公室が候補として挙げたプロジェクトの中から、農業銀行が選んで融資を行う。中央政府から年間の貸付目標額が指示される。融資対象としては、農村インフラや食品加工業が主流を占める。

¹ 農業銀行の農業分野への貸付（148 億元）のうち、政策融資が除かれた額が考慮されていると考えられる。

小額貸款：扶貧弁公室が推薦した農村貧困家庭についての貸付を行う。利率は扶貧弁公室によって定められており、農村信用社の小額貸付より低い。貸付だけではなく、経営に関する技術指導を行うことも求められている。

これらの政策融資についても、自己資金を原資として行っており、国からの支援は1年間の利子補給のみである。農業銀行は、政策融資に関する困難として、i)についてはリスクの高さ（不良債権発生率の高さ）を挙げ、ii)については郷鎮レベルの出先機関を持たないため貸付とそれに伴う農家への支援を行うことが難しい、と指摘している。

3) 農業發展銀行

中国農業發展銀行貴州分行は、食糧の買い付けと備蓄のための資金を国有企業に供給している²。原資は、中央財政と人民銀行から供給される。農業發展銀行の資金で買い付けられる食糧は、省の総生産量の約10%を占める。

(2) 農村信用社改革と三農支援

1) 改革の進捗状況

貴州省は、2003年から始まった農村信用合作社改革の実験地区の一つで、省政府内に設置された専門グループの主導のもと、さまざまな改革が進行中である。2004年12月までに達成された主なポイントは、以下の通りである。

管理体制の改革：2003年12月に全国で初めて省レベルの信用連合社が設立された。政府の改革方針のもと、信用社の管理責任は省政府に委譲されたが、省連合社は省政府と協力し、すべての農村信用社の総括管理を行うこととなった。

所有権の改革：県レベルの87の連合社のうち、4つが合作信用銀行となることが決まった。そのうちの1つは既に新体制の下で営業を開始した。残りは県レベルの組織として下部機関を統合した法人となるが、59については既に認可されたか申請中の段階である。

不良債権処理：上記のうち84について、人民銀行負担分（50%）の手形発行が許可された。更に、2004年11月までの不良債権比率は前年末より10%下がり15.9%となった。

省政府の支援：省政府は、2004-2007間に、毎年800万元を基金として拠出することを決定した。この基金は、信貸リスクの保証・保険、県レベルの信用連合社への直接支援、また税金の減免にあてられる。

2) 三農支援融資

改革の進行と並行して、農村信用社は農業への融資の拡大に取り組み、県レベルの連合社については融資の60%以上を「三農支援融資」とするという目標を掲げている。

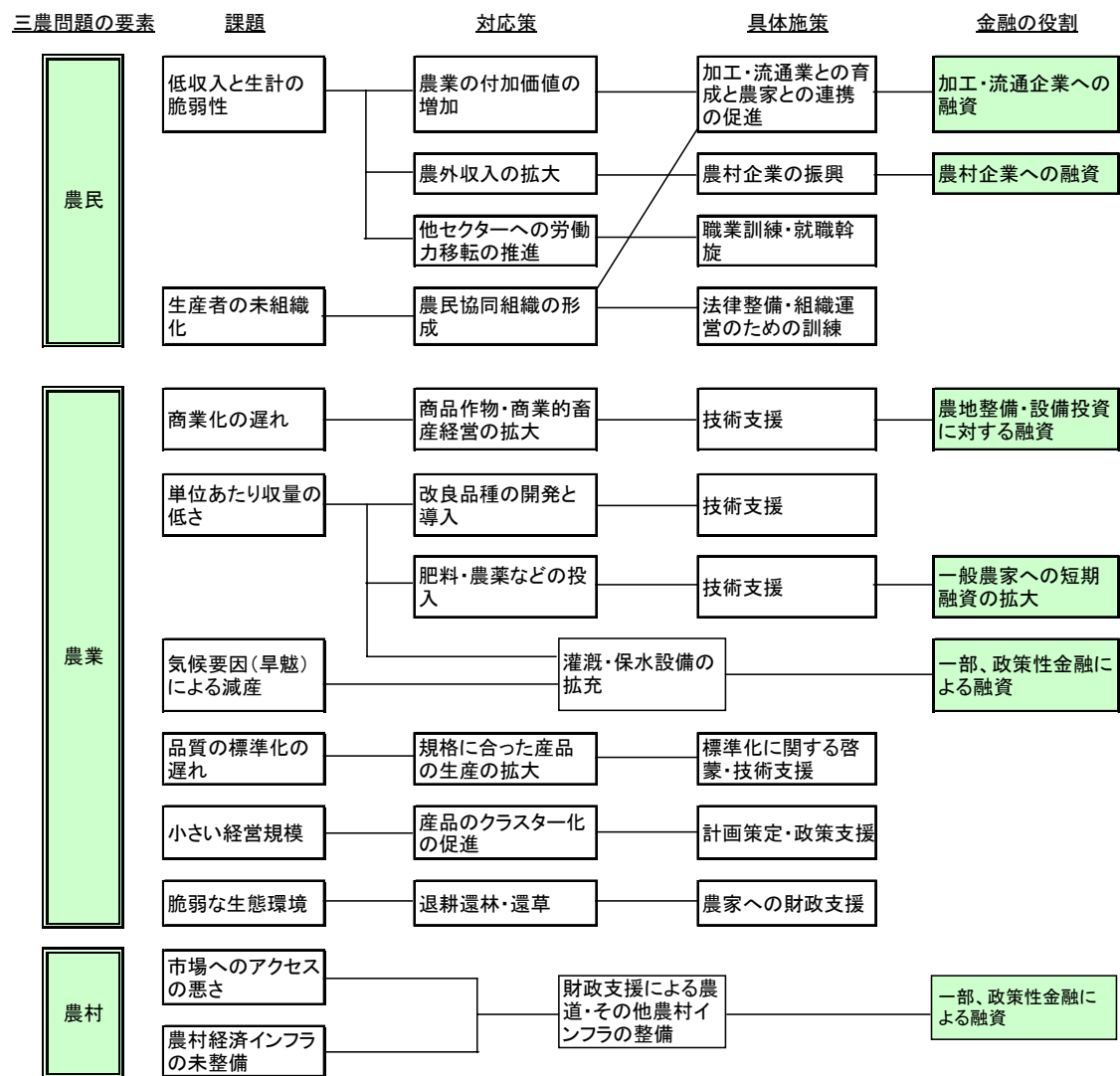
² 食糧備蓄については毎年必要量が指示され、省レベルの備蓄は省政府の責任となっている。

3.2 貴州省の農業・農村金融の課題と対応策

3.2.1 農業振興の課題と対応策

図3-3は、これまでの現状分析に基づき、貴州省の農業振興の課題と対応策を三農問題の要素（農民、農業、農村）に沿ってまとめたものである。

図3-3 三農問題の課題と対応策



出所： 調査団作成。

3.2.2 農業・農村金融の発展へ向けての対応策

(1) 農業・農村金融の役割

図3-3に示すように、農業振興のためには目的に応じたいくつかの資金の供給が期待される。表3-2に、それぞれの資金が備えるべき特徴をまとめた。

表 3-2 期待される農業振興資金

目的	貸付先	使途	返済期間
加工・流通業の振興	中小企業	設備投資	中期
農村企業(加工、流通、サービス)の振興	零細企業、農家	設備投資、運転資金	中期・短期
商業作物・商業的畜産経営の振興	農家	農地整備、施設建設	中期
農家の営農支援	農家	生産資材など	短期
農地の生産性向上	農家、地方政府	灌漑・保水施設など	中期
公共農村インフラ整備	地方政府	農道、農村電化などの建設	長期

出所： 調査団作成。

(2) 各主体の役割

上記のような資金を円滑に供給するためには、金融機関、政府、農民がそれぞれ以下のような役割を果たすことが期待される。

1) 金融機関

- i) 農村信用社： 農村信用社は、農家と企業への貸付をさらに拡大することが期待される。さらに、それぞれの借入者のニーズに応える資金メニューを充実させることが求められる。また、農村部に唯一存在する金融機関として、他の資金源による農家向け金融サービス（政策金融を含む）の委託機関とする可能性も検討されるべきであろう。
- ii) 政策融資機関： 今後、一つの専門機関に政策融資の取り扱いを特化し、国や省の定める農業支援方針に基づき、民間金融では困難な中長期・低金利の融資を充実させていくことが求められる。

2) 政府

- i) 財政支援による原資供給と利子の補給： 現在、農家と企業を対象とした農業銀行の政策融資の中で、優遇措置がとられているものは、貧困家庭を対象とした小額貸付（短期）のみである。これは、農業銀行の資金調達が一般預金に依存しているという理由によるところが大きい。しかしながら、農業セクターには、土地整備や施設建設などのための長期・低金利の資金需要が存在する。こうした資金を供給するため、財政支援による原資の供給や利子の補給が必要であると考えられる。さらに、金融機関の取引コストとリスクの低減を図るために、こうした資金を借り入れることが可能な基準を明確に設定し、融資対象者の認定を行うことも考慮されるべきである。
- ii) 農村小規模インフラ整備のための措置の拡大： 農道や市場などのインフラは、農家や企業の収益に大きく影響を与える。大規模なインフラの整備は中央の財政資金でまかなわれているが、郷鎮や村レベルのインフラは地方政府の財政拠出に よっている。しかしながら多くの郷鎮・村レベルの政府は財政難に陥っており、こうしたプロジェクトをファイナンスすることが困難な状況であると伝えられるため、中央や省政府による財政・金融両面からの支援措置の拡大が望まれる。

その他、図3-3の具体的施策に示したように、農家を対象とした技術支援や、加工・流通企業、農村企業育成のための措置を拡充することが期待される。

3) 農民

農業の付加価値を増加させるためには、加工・流通などを行う企業と農家との連携が不可欠である。農産加工品の高付加価値化を図るうえからも、農家には、一定の品質の農産物を安定的に供給することが求められる。さらに、生産規模の合理化や集荷の効率化のために、農民が組織化されていることが望ましい。生産者組織の発展は、農業経営の効率化に資するのみならず、農民への技術移転の促進にも貢献するものだからである。

引用文献

年鑑類

貴州省統計局「貴州統計年鑑2004」、中国統計出版社

国家統計局「中国統計年鑑2003」

国家統計局農村社会経済調査总队「中国農村統計年鑑2003」、中国統計出版社

農業部「中国农业年鑑2003」

農業銀行「中国农业銀行統計年鑑2000-2002」、中国統計出版社

WEB

貴州省人民政府（2003）「政府工作报告—在贵州省第十届人民代表大会第一次会议上」、

<<http://www.gzgov.gov.cn/pages/gznj/default.asp>>（2004/8/23アクセス）

貴州省統計局（2004）「2003年贵州省国民经济和社会发展统计公报」、

<http://www.stats.gov.cn/tjgb/ndtjgb/dfndtjgb/t20040401_402140232.htm>（2004/8/23アクセス）

貴州省農村信用社改革试点工作领导小组办公室（2004）「简报(第30期)」、

<http://www.gzgov.gov.cn/pages/bzgg/gov_gzdt.asp?id=8>（2004/8/24アクセス）

貴州省發展計画委員会（2004）「贵州省2003年国民经济和社会发展计划执行情况及2004年国民经济和社会发展计划草案的报告—2004年1月8日在省十届人大二次会议上」、

<http://www.gzgov.gov.cn/pages/zfgg/show_zxgb.asp?id=1359>（2004/8/17アクセス）

第4章 産業インフラ整備：陝西省榆林地区

4.1 産業インフラ整備の現状と課題

4.1.1 陝西省の現状と課題

陝西省当局は、省経済の発展を図るため、第10次五カ年計画の期間について、次の4つの目標を設定した。

- i) インフラ整備
- ii) 生態環境保全
- iii) 特色ある産業発展
六大産業（ハイテク、観光、果物、牧畜、設備製造、エネルギー・化学工業）の振興
漢方薬等の4つの基礎産業の育成
- iv) 科学技術、教育、農村、衛生の振興

2000年の国務院西部開発弁公室の発足とともに、陝西省における開発のテンポが加速された。特に、インフラ整備が重視され、交通網の整備に力が注がれてきた。

(1) 運輸

運輸インフラ整備の成果には、著しいものがある。

- i) 「米」文字型の高速道路（西宝高速公路、西黄高速公路、西潼高速公路、西藍高速公路、西漢高速公路等）総延長2900Kmのうち、1000Kmが完成し、1200Kmは建設中である。3つの幹線があり、重点は北と南に置かれている。
- ii) 鉄道
八縦八横計画のうち、1本の縦(包柳通道)と3本の横(煤運南通道、陸橋通道、宇西通道)が省内を通過する。
- iii) 空港
西安咸陽国際空港は1千万人輸送規模の空港である。

(2) エネルギー

榆林・延安地区の8万平方キロに538万人が居住している。

主たる産業は、以下の石炭、石油、天然ガスである。

- i) 西電東送
- ii) 石炭化学
- iii) 石炭→電力→アルミ精錬（石炭を用いた電力を利用）
- iv) 米脂の塩化学工業
- v) 延安の石油化学
- vi) 安城の石油・天然ガス工業
- vii) 石炭輸送

(3) 国際借款

二国間借款及び国際金融機関融資により、以下の合作が進められた。

- i) 西安市の都市整備：JBIC 借款
 - ・ 西安都市水道
 - ・ 西安都市総合整備 第2期
- ii) 鉄道建設
 - 神延線：ADB 2億ドル借款
- iii) 道路建設
 - ・ 「米型」高速道路：世銀借款 第2段階
 - ・ 西安第3環状線：ADB 借款
 - ・ その他：クエイト借款

4.1.2 榆林地区の現状と課題

(1) 社会・経済状況

榆林は、陝西省の最北端に位置し、4つの省区（山西省、寧夏回族自治区、甘肅省、内モンゴル自治区）と接する4.3万平方キロ、348万人の地区である。遊牧が行われており、黄土高原、石炭、天然ガス、塩、石油の天然資源に富んだ国の指定資源地域となっている。同地区は、資源開発を中心として発達しつつある。国家クラスのエネルギー・化学基地として国家認定されており、西気東輸の基地の1つで化学工業が盛んである。

天然資源	可採埋蔵量	予想埋蔵量	備考
石炭	1660億トン	2714億トン	
天然ガス	7474億立方m	5兆立方m	中国最大
石油	3億トン	6億トン	
塩	8854億トン	6万億トン	国の50%

このようにエネルギー資源に富んだ地域であることから、20数プロジェクトの産業インフラ整備が主導することで、中国のエネルギー転換に寄与している。日本に比べれば、未だエネルギー効率は悪いとはいえ、石炭化学、石油、天然ガス化学、電力会社が収益を上げている。

(2) インフラ整備

次のように、陝西省北部の重要な交通の要衝である。

- i) 鉄道
 - 榆林～西安、榆林～包頭、榆林～大同の主要3鉄道路線
- ii) 道路
 - 主要道路（榆林～靖辺砂漠道路、国道210号）

iii) 空港

現在は小型機のみが発着可能な小規模空港。大型機が離着陸可能な新空港の建設許可が出ている。

(3) 資金調達

人民銀行榆林支行は次のエネルギー融資において重要な役割を演じている。榆林の金融機関は全て黒字決算となっており、その業績は好調である。

- i) 財政：大きな役割
- ii) 国内有力企業の誘致：神華集団等
- iii) 外商の誘致：まだ少ない
- iv) 地方政府の資金：榆林天然ガス化学工場（43万トンのカルビノールの生産）
- v) 民間投資：いくつかのプロジェクトで支援している

(4) 優遇政策

外商投資への適用を禁止している以外に、分野、方式に優遇の制限はない。

i) 土地代金への優遇

プロジェクト規模	優遇	備考
5億元以上	無償提供	
1千萬元～5億元	土地代を後で全額返却する	
5百萬元～1千萬元	50%返却する	
5百萬元以下	30%返却する	
全てのプロジェクト		地元の最低価格

ii) 税優遇

独資、合弁、合作いずれも、設立後5年は法人税免除。メンテナンス税、不動産税免除。公益法人は10年免除。

iii) 人民元融資

親会社保証、固定資産担保または外貨担保により、投資企業は人民元融資が受けられる。

(5) エネルギー産業への人民銀行の役割

- i) 中央の貨幣政策の通達：国有企業改革による失業者対策、大口融資規制
- ii) 金融安定
- iii) 金融サービス
- iv) システム・リスクの回避
- v) 窓口規制
- vi) 地域の融資協調
- vii) 国の産業政策に沿って、エネルギー基礎建設指導

エネルギー資源効率を高める指導：石炭から山元発電へ、石炭/石油/塩から、石炭化学/石油化学/塩化学への転換を指導しており、今年から良い結果が出ている

4.2 資金調達の実況と課題

4.2.1 金融機関の実況と課題：運輸・エネルギーインフラ産業への融資

(1) 国家開発銀行

1998年に陝西省分行が開設された。ここ2年連続で年融資額が100億元を超え、2004年末残ベースで総資産が300億元となった。

同分行は、交通(鉄道、道路)とエネルギー(石油、石炭)、電力、水、石油化学、都市インフラの分野への融資に力を入れている。

(2) 建設銀行

i) 実績

鉄道、道路、石炭、化学、天然ガスに重点的に融資してきた。合作を通して高速道路ネットワーク、2級以上の一般道、石油化学に大きな成果を挙げた。

ii) 融資方針

インフラ融資は、重点分野での積極深耕を目指している。道路は最長25年の優遇対象で、地方分行の権限で出融資が可能である。省クラスの高速道路運営会社が与信先となっている。二級道路への融資は制限的で、一般道路は融資禁止となっている。鉄道は、北京の同行総行で統一的に審査している。

(3) 工商銀行

i) 実績

- ・道路は、五縦七横の陝西省通過案件中心に多くの案件に参加している。
- ・鉄道は、武威～蘭州複線化プロジェクトに意欲があり、また西安～安康新線建設案件にも参加意欲がある。
- ・西安第3環状線： ADB借款57億元の協調融資に17億元参加している。
- ・ユーザに近い華北電網、炭鋳・発電一体の新華グループへの融資を行っている。

ii) 融資方針

- ・道路は優遇最長20年、省道(二級道路)も対象となっており、運転資金50%までの融資が可能である。
- ・2004年から鉄道案件も融資対象としており、2000億元の枠を設定している。
- ・電力、炭鋳インフラは、以下の基準で、制限的な運用方針を設定している。
 - － 発展改革委員会許可案件
 - － 規模：電力は30万KW以上、炭鋳は300万トン以上
 - － 融資先：実力がある先

iii) 課題

- ・ 陝西省産炭量は上位であるが、山西省、内モンゴル自治区に比べ消費地に遠いため運輸能力が不足しており、運賃コスト高により立ち遅れている。
- ・ 資源加工産業は自己資金不足の状況にある。
- ・ 石炭化学は将来有望だとされている。

(4) 中国銀行

西安分行は1級分行である。

国の産業政策に合致している石油、道路、天然ガスに融資を行っている。

リスク管理をしながら、インフラには積極的な融資方針を維持している。

(5) 農業銀行

石炭、石油、天然ガス、塩及び各化学工業への融資方針を最近決定した。榆林~靖辺高速道路、炭鉱業、石油へ融資実績がある。電力、塩化学は検討中である。

4.2.2 榆林でのエネルギー/化学産業への融資**(1) 建設銀行**

地元石油会社への与信は、次の基準で選別融資を行っている。

- i) 加工業は売り上げが150万元以上規模
- ii) 採掘業は10万トン以上規模

(2) 工商銀行

国家クラスのエネルギー・化学基地との国家認定があるので、将来期待できる。

(3) 中国銀行

榆林を炭鉱、石油、道路、電力案件の重点地域に指定している。

(4) 農業銀行

榆林分行は重要拠点分行とされている。重化学プロジェクトには、以下の基準に基づき選別融資の方針をとっている。

- i) 国の産業政策・法律に合致
- ii) 資本金比率
- iii) 収益性
- iv) 担保

4.3 開発金融面での対応策**(1) 人民銀行の資金調達指導基準**

- i) 公益性プロジェクト、準公益性プロジェクトは中央・地方財政資金であること
- ii) 競争分野は市場ルールで調達すること

- iii) 高速道路は国からの補助があること
- iv) エネルギー・化学工業は国内・外資による市場調達とすること
- v) 神延線は省・地方レベルで調達すること

(2) 国有金融機関の対応

1) 国家開発銀行

- i) 融資制度に関し、次の2つの基本を提言している。
 - ・ インフラ融資は、プロジェクトへの融資だけではなく、インフラ産業融資を対象にし、更に特定のインフラの上流、下流産業への融資も視野に入れるべきである。
 - ・ 立ち遅れている中西部への融資を促進するために、東部とは別の融資政策をつくるべきである。すなわち、中西部への傾斜融資、返済猶予期間を含む融資期間の長期化、優遇利息そして資本金へのソフト融資である。
- ii) 2001年から、金融だけでは不十分な社会全体の信用体制確立に取り組んでいる。
- iii) 2003年に、次のような将来性のある産業への開発金融理論を発表した。
 - 未来産業、ボトルネック産業、中小企業、ハイテック産業

2) 建設銀行

中国側で、IBRD、ADB 援助プロジェクトにソフトローンを出せる受け皿と仕組みが必要である。

3) 工商銀行

総行の方針としては、インフラ融資は制限的である。

4) 中国銀行

以下の理由で、国際金融機関融資の転貸融資を希望している。

- i) インフラ整備に役立つ。
- ii) 西部大開発の資金需要増加に資する。
- iii) BOC 資金は厳しい審査で不足している。

第 2 部 調査対象地域におけるアンケート調査

第5章 国有企業アンケート調査結果の分析

5.1 調査の実施概要

5.1.1 調査目的

西部地域における国有企業の資金需要及び資金調達の実態を、アンケート方式によって調査した。

5.1.2 調査項目

主な調査項目は以下の通りである。

- i) 企業概況（産業セクター、所有形態、資本金、従業員数の推移）
- ii) 財務状況（売上高・損益、資産・負債状況、キャッシュフロー）
- iii) 経営構造改革の現状（経営管理構造、意思決定システム、経営方針）
- iv) 投資計画・必要とする投資規模（中長期計画、中期投資計画と必要資金規模）
- v) 社会保険（年金・健康保険）・医療・教育等の非事業項目（活動）に係る必要資金規模（毎年の経常支出、過去の累積（年金）債務の規模）
- vi) 主たる資金調達手段（間接金融の種類・規模、直接金融の有無・可能性）
- vii) 資金調達上の問題点（収益構造上の問題、法・制度上の問題、金融制度上の問題）

5.1.3 調査手法と回収状況

調査対象地域として、当初、西部地域の重慶市、甘肅省、貴州省、陝西省と、国有企業改革に係る比較対照都市である瀋陽市を設定していたが、主要地域である重慶市と瀋陽市でより大きなサンプル数を確保することが重要だと判断し、この2都市でアンケート調査を実施した。重慶市、瀋陽市において調査対象企業を選定し、質問票を事前に配布して、調査員による訪問聞き取りを実施した。

質問票の配布先選定は、調査団が指定した産業分類に基づく製造業のセクター別にレベル（層）別抽出という方法を取った。両都市の国有企業を資産規模によって複数のレベル（層）に分けた上で、レベルごとに一定の比率で対象企業を選出した。合計220社の国有企業を選出し、150社から有効な回答を回収した（回収率68.2%）。このうち、瀋陽では質問票を100部配布して、有効回答を70部回収し、重慶では質問票を120部配布して、80部の有効回答を回収した。産業セクター別の回答状況は、表5-1の通りである。

表5-1 回答企業の分布

産業セクター	企業数	比率 (%)
食品加工	8	5.3
アパレル (繊維)	3	2.0
化学	25	16.7
金属	2	1.3
自動車	12	8.0
その他輸送機械	8	5.3
電気機械	5	3.3
一般機械	14	9.3
出版業	1	0.7
倉庫業	1	0.7
その他製造業	71	47.3
合計	150	100.0

5.2 調査結果

5.2.1 重慶市の回答企業の特徴

(1) 高い大企業比率・国内販売比率

重慶市の回答企業1社あたりの平均は総資産13億1,674万元、資本金2億2,298万元、従業員数が2,645名で、企業規模が大きいという特徴を持つ。国有独資企業38社を含めて各種の所有権構造を有する国有企業が多かったが、国有株の平均比率は78.2%で、高い国有持株比率を示した。管理・技術者の平均人数は631人で、在籍者に占める比率は23.8%と、管理・研究・開発に高い人的投入を行っている。1社あたりの国内販売額は8億7,443万元、国外販売額は5,679万元で、国外販売比率は6.1%に過ぎない。対象企業の製品セグメントが内需中心であることを示すとともに、重慶市経済全体の対外開放度の低さや企業の国際競争力の弱さをも示唆している。なお、統計資料などから類推される重慶市国有企業の一般的特徴は以下のようなものである。

- i) 工業生産高及び従業員数に占める国有企業の比率が高いこと。
- ii) 所有権構造における国有株の比率が高いこと。
- iii) 国有企業の収益力が全国平均より低いこと。
- iv) 大・中企業の比率が高いこと。

5.2.2 瀋陽市の回答企業の特徴

(1) 高い大規模企業比率と管理・技術者比率

回答した70社の国有企業のうち、大企業は35.7% (23社)、中企業は41.4% (29社)、小企業は22.9% (16社) で、大中企業の合計が全体の77.1%を占めている。

70社の従業員総数は臨時雇用を含め28万213人で、1社平均3,994人である。管理・技術者の合計は12万9,333人、1社平均1,930人で、従業員総数に占める比率は48.3%となっている。管理・技術者の高比率は、全国の重要な工業基地である瀋陽の企業の技術力の高さを示している。

(2) 高い国有株比率

70社の国有株の平均比率は86.9%である。そのうち、44社が国有独資企業（100%国有）で全体の62.9%を占めた。国有株の比率が50%以上の企業は60社もあり、全体の85.7%を占めている。瀋陽の国有企業は依然、絶対的・主導的な位置を占めている。

(3) 低い収益力と経営状況の悪さ

統計資料によると、瀋陽には国有企業が220社（2003年）あり、全市の規模以上工業企業¹の16.3%を占めている。そのうち、赤字企業が118社（56.6%）で、合計損失額は6.8億元である。国有工業企業の大多数の経営指標は、規模以上工業企業全体より低い。

回答した70社のうち、19社の財務データが不完全だったため、残りの51社を対象に企業の収益能力を分析した。2003年と2004年の対象企業の販売利益率は平均でそれぞれ2.0%と1.80%で、対象企業全体としては収益を確保している。販売利益率の一般的な参考基準は5%を下回らないことであるが、対象企業の製品収益力は低く、利益率は低水準にとどまっている。企業によっては収益が下がりマイナスに転じたものもあった。2003年と2004年の対象企業平均の総資産利益率はそれぞれ1.55%と0.88%で、同比率の低下は将来的に企業収益力が低下する可能性を示唆している。

5.2.3 国有企業の財務・融資の現状と課題

(1) 高い現金・在庫比率

重慶市の対象企業における2003年末と2004年末の総資産に占める現金比率は、それぞれ17.0%と15.8%であった。また、瀋陽市の対象企業では、2004年末の同比率が10.3%であった。両市における外部からの資金調達環境が厳しいことが、これら企業の比較的高い現金比率につながっているものと推定される。2003年末と2004年末の総資産に占める在庫率は、重慶市でそれぞれ13.7%と16.4%、瀋陽市では2004年末で9.6%だった。全般的に在庫比率はほぼ適性と考えられるが、重慶市で相対的に高いのは、重慶市の工業分布の特徴や市場競争圧力の違いに起因するものと考えられる。

(2) 高い流動資産比率

瀋陽市（2004年）の対象企業における総資産中の流動資産比率は39.3%だったのに対し、重慶市の対象企業における2003年と2004年の同比率はそれぞれ48.4%、50.8%で、比較的高いと言える。流動資産の中では、瀋陽市の対象企業における2004年の売掛金純額が占める比率は17.3%だった。重慶市のそれは不明であるが、現金と在庫の状況から推測すると、売掛金純額の比率はそれほど大きくないと考えられ、企業間の債務遅滞がさほど深刻な状況にはないことを物語っている。一般的に、流動資産比率が大きいと、企業が短期の高い償還能力とリスク負担能力を持っているこ

¹ 規模以上企業とは年間売上が500万元以上の企業のことである。

となる反面、一定額以上になれば資産の非効率な保有・運用につながる可能性がある。

(3) 高い流動負債比率

流動負債は、企業が次年度または通常の事業周期内で償還または履行すべき負債項目である。重慶市の対象企業における 2003 年と 2004 年の総負債に占める流動負債比率は、それぞれ 42.9%と 52.3%である。瀋陽市の対象企業における 2004 年の流動負債比率は 64.9%だった。これらの高い流動負債比率は、企業の短期的な債務償還圧力が大きいことを意味するとともに、より高水準のキャッシュフローと資産流動性を企業が必要とすることを示している。別の視点に立てば、長期資本、長期負債の比率が低く、外部負債が主として商業銀行による短期借入と企業間信用であることを示している。その結果、企業が高い流動資産比率を維持する原因であると考えられる。

(4) 低い短期銀行融資比率

一般に、企業の短期借入の主な調達先は銀行融資である。流動負債に占める短期借入比率は企業の短期負債の中で商業銀行の短期融資に対する依存度を示すものである。重慶市の対象企業における 2003 年と 2004 年の流動負債に占める短期借入比率はそれぞれ 37.1%と 37.4%であるが、瀋陽市の対象企業における 2004 年の短期借入比率は 26.7%で前年同期比 1.4%減だった。これらの数値は事前の予想よりもずっと低いもので、企業の短期負債の中で銀行融資に対する依存度が低水準であること、国有企業が商業銀行の短期融資を得るうえで制約があることを示唆している。したがって、これらの企業では資金繰り難が発生しやすく、銀行の短期融資（元金）返済や利払いのために企業間信用に頼る傾向が強いことを示唆している。

(5) 低い長期負債比率

流動負債比率が高いと長期負債比率が必然的に低くなる。重慶市の対象企業における 2003 年と 2004 年の長期負債比率はそれぞれ 12.2%と 14.0%であるが、瀋陽市の対象企業における 2004 年の長期負債比率は 35.1%で前年同期比 1.5%減であった。この比較から、瀋陽市国有企業の長期負債比率が重慶市よりはるかに高いことが明らかとなり、東北地域の在来工業基地の振興政策がすでに一定の効果を上げたという推測ができる。瀋陽市の国有企業は、商業銀行などの金融機関を通して技術改造のための貸付金などの長期資金を得たと推定される。

(6) 収益力の高い新製品の欠如

先に記述したように、両市の対象企業の販売利益率と資産利益率は相対的に低い。これは、対象企業の製品収益力が小さいことを示しており、在来産業の製造基地からの脱皮が不十分で、高収益の新型製品が欠如していることを示唆している。この点は、両市の商業銀行が融資をする際に最も憂慮する問題でもあると考えられる。

(7) 主力製品の過剰生産能力

瀋陽の対象企業 70 社のうち、60 社が合計 114 種類の主力製品(2004 年)を記入した。

その中で1種類だけを生産している企業が60社、2種類が33社、3種類が21社である。ここから、企業の生産能力が生産実績を超えており、企業の潜在力が十分に発揮されていないか過剰生産設備を有していることが推察される。

(8) 懸念される将来の資金不足

1) 非事業性資金の不足

国有企業の非事業性支出には、従業員の養老年金、健康保険、失業保険、医療及び教育など非営利の支出がある。これらは、社会の安定を維持するために必要な潜在的な債務コストであり、市場経済制度への移行からの要請でもある。国有企業の経営が厳しくなると、これらの非事業性支出に大きな資金不足が発生することとなる。

アンケート調査によると、重慶市の対象企業31社で非事業性支出項目の支払いの遅滞があり、その総額は2億4,038万元で、1社あたり遅滞額は775万元である。遅滞項目の中では、養老年金が最も多く全体の74.2%を占めている。次いで、健康保険金が10.6%、失業保険が7.3%となっている。瀋陽の対象企業では、14社が2004年の非営利項目に必要な資金額に関する情報の提供を拒否したが、回答した56社は、9億2,591万元の資金が必要だとしている。そのうち、養老年金が4億9,513万元で、健康保険は40万元、失業保険は8,378万元、医療は1億6,035万元、教育は2,945万元で、その他は1億4,680万元であった。これらの非事業性資金の積み立て不足はバランスシートに適切に反映されていない可能性もあり、これらのオフバランス上の資金不足が適切に捕捉・解消されないと、将来大きな影響がでることが懸念される。

2) 将来の投資資金の不足

重慶市のアンケート調査では、47社が総額402.9億元に及ぶ詳しい投資計画を記入している。1社あたりの投資規模は、8億5,777万元に上った。一般的に、プロジェクトの設立許可を得てから、企業は投資計画と資金源を決める。回答をした70社の瀋陽の国有企業には、67件の許可済みの投資プロジェクトがある。この67のプロジェクトに必要な資金総額は141億1,400万元である。その中で、瀋陽化工集団は投資総額(47.64億元)と国家予算による投資額を記入している。瀋陽化工集団以外の93.5億元の投資資金源をみると、国家予算が1.1億元で全体の1.2%を占め、また国内からの借入は45.21億元で48.4%を占めている。外資は0.83億元で0.9%、債券は1.01億元で1.1%である。自己調達は27.41億元で29.3%を占めている。株所有権は0.2億元で0.2%を占めている。国内からの借入が全体の半分を占めていることは、銀行が企業の最重要の資金源であることを示している。自己調達資金が資金需要総額に占める比率は29.3%と、高水準に達している。

少数の優良企業は資産収益率が高いために自己資金が豊富で、良好な製品需給下では自己資金だけで次々と生産規模を拡大することができる。それに対して、一般の企業では他の融資などに頼らなければ投資計画を実現できない。また、債券や株式などの直接金融を通じた資金調達比率は低く、両者の合計は全体の1.3%に過ぎない。第11次五ヵ年計画期間中の国有企業の投資規模は膨大なものになると予想される。企業の自己資本、収益力とキャッシュフローなどを勘案すると、将来における企業

の投資資金不足はかなり深刻なものになると考えられる。効果的な融資ルートを開きにして拡大するかは、これらの投資計画が実現できるかどうかの重要な条件であり、両市の金融システムが適切な資金供給能力を培いつつ各企業が十分な資本形成能力を備えれば、これらの投資計画は国有企業の生産能力の向上・改善に寄与するものと見込まれる。

3) 限定されている投資資金源

重慶市企業の主な投資資金源は下記の通りである（表 5 - 2 参照）。国家予算資金が限られている状況下では、銀行貸付が依然として最も重要な資金源となっている。また、自己調達資金が占める比率は 29.3%の高水準に達している。株所有権による資金調達比率は 9.3%で時系列的に増加傾向にあると見られ、株所有権による資金調達メリットは多くの企業に受け入れられるようになっている。外資の比率はわずか 1.7%に過ぎず、重慶市の経済・企業の対外開放度がまだ低いことを示している。そのうえ、投資効率の点から見て沿海部に比べて優良企業や優良プロジェクトが多くないため、外資を誘致することが難しい。さらに、地元企業による積極的な外資誘致の意欲がないことも伺われる。社債の発行を通じて資金調達をしようとする企業もまだ現れていない。

表5-2 重慶市国有企業の投資資金源（計画）

資金源	比率(%)
国家予算	2.3
貸付	41.5
外資	1.7
自己調達	23.9
株所有権	9.3
その他	21.3

(9) 銀行融資獲得に係る問題点

銀行融資の獲得については、「企業自身の収益力が低いため国有企業は銀行融資を獲得する能力が低く、多様な資金調達ルートも存在しない」という結果となっている(表 5-3 参照)。

その理由として、瀋陽では「企業が現行の貸付基準に合格することが難しい」が最も多く全体の 53.1%のとなった。次いで「企業の収益力が低い」が 45.3%である。このように、企業自身に内在する要因が融資難を招来する最大の問題であることを企業自身が認識している。「担保抵当物件が足りない」等がこれらに続いている。

重慶でも同様に「融資に困難はない」とした企業は 13 社しかなく、大多数の企業が「融資に困難がある」と答えている。これら「融資難」の企業については、企業の所有権構造や業界の特性、規模等との相関はないと判断され、企業の融資難は普遍的な問題であるとすることができる。国有企業はその所有権構造（＝国有）と大規模企業であるという有利な条件を活かして金融機関の特別な優遇を受けている訳ではない。民営企業の融資難の問題が解決されていないだけでなく、国有企業の借入難も恒常的な問題である。中小企業の融資難に限らず、大企業の資金調達（融資）

ルートも限定されていると見るべきである。

表5-3 国有企業の資金調達（銀行融資）に係る主要な問題点

問題点	選択した企業数(社)	
	重慶	瀋陽
1. 企業が現行の貸付基準に合格することが難しい	37	34 (53.1%)
2. 担保抵当物件が不足している	29	29 (45.3%)
3. 貸付の申請手続きが煩雑で時間がかかる	25	17 (26.6%)
4. 企業の収益力が低い	24	29 (45.3%)
5. 貸付利子が高すぎる	18	9 (14.1%)
6. 社債の起債が難しい	17	7 (10.9%)
7. 貸付期間が短い	13	12 (18.8%)
8. 融資に困ることは無い	13	8 (12.5%)

(注)回答は複数回答を可とする任意選択方式

中国における担保抵当物に関する法律は依然、不完全で、担保抵当物の評価と処置の費用が高く法律の執行も難しいという現象が目立っているため、商業銀行は抵当貸付を容易に行わないと考えられる。また、各銀行の融資（貸付）管理に関する改革の深化と融資担当者の処罰が厳しくなるにしたがって、商業銀行は融資により慎重になり事前の審査も厳しくなったため、手続きが前より煩雑になり時間がかかるようになっている。一方、経営実績がよく将来性がある企業については融資難という問題はないばかりか、各銀行の融資争奪戦が繰り広げられる中での優良顧客であるため、融資にかかるコストは低いと考えられる。

(10) 国有企業の発展を制約する要因

重慶市と瀋陽市のアンケート調査結果から見ると、国有企業の発展を制約する主要要因には「主要原材料の値上がり」と「資金繰り難」がある（表5-4参照）。75.6%の国有企業が企業発展を妨げる最大の要因は原材料の値上がりだと認識しており、過去1年の世界的なマクロ環境の変化、すなわち1次産品や主要素材の高騰を反映した結果となっている。42.3%の企業が、目前の資金繰り難の背景には融資申請の困難さ、深刻な三角債²、キャッシュフローの不足があると考えている。32.1%の企業は、現在の企業の運営メカニズムが一層の企業発展を制約する要因だと認識している。すなわち、国有企業の改革が依然、不完全で根本的な問題は解決半ばであることが伺われる。また、31.2%の企業は、設備の老朽化が企業発展を制約する要因と考えている。特に、古い設備を有している重慶の製造企業が多い一方、技術改造に十分な資金を回すことができない中小企業も多く、将来、大規模な設備更新と技術改造をしないと激しい競争によって淘汰される可能性があることを示唆している。また、企業の製品開発能力の不足は重慶の国有企業の競争力向上を制約する要因である。25.6%の企業は企業には競争の中で優位を保つための研究開発能力がないと考えている。これらの企業は将来、研究開発投資に力を入れて企業の技術力を強化する

² 三角債：企業間で原材料、半製品、製品などの買い付け代金を支払わず債務として残しておくやり方。多角債、連環債とも言う。

必要がある。製品の販売に多くの改善の余地があることも、企業発展を制約する要因である。20.1%の企業は国内販売に問題があると認識し、11.5%の企業が製品の輸出は難しいと考えている。これらの企業は生産を重視すると同時に、総合的な競争力を強化するために製品の販売にも力を入れている。医療、失業保険、養老年金などの非事業性分野の過剰支出が企業の経営難を招く原因にもなっている。これらの支出は、経営がすでに難しくなっている企業にとって大きな負担となるに違いない。リストラとレイオフなどの措置を講じたものの、17.9%の企業は依然として過剰要員による無駄な支出の膨張があると考えている。さまざまな抵抗・圧力が存在するために余剰労働力の削減はうまく捗っていないと考えられる。

表5-4 国有企業の発展を制約する主要な問題点

主な問題点	選択した企業の比率(%)
1. 主要原材料の値上がり	75.6%
2. 資金繰りの困難	42.3%
3. 企業の現行体制	32.1%
4. 製造設備の老朽化	32.1%
5. 製品開発能力	25.6%
6. 国内販売	20.1%
7. 医療、失業保険、養老年金の過重負担	19.2%
8. 過剰要員(労働力)	17.9%
9. 生産能力不足	15.4%
10. 輸出販売	11.5%
11. 技術力	10.3%
12. その他の要因	7.3%

5.3 結論

本アンケート調査によって、「国有企業が健全で持続可能な発展をするための長期的なメカニズムがいまだ整備中である」こと、「国有企業自身の問題を含めて国有企業が安定的かつ長期的な資金調達を実現するための制度、環境が整っていない」ことが明らかになった。

第6章 マイクロファイナンス・アンケート調査結果分析

6.1 調査目的

西部地域におけるマイクロファイナンスへの需要及びマイクロファイナンス供給の状況を、アンケート方式によって需要者側から調査した。

6.2 調査手法

(1) 対象地域

甘肅省定西地区、貴州省

(2) サンプリング

1) 甘肅省定西地区

全 210 票を 3 県、各県 5 村、各村 14 世帯に分けて調査した。3 県とも国定貧困県である。また、通渭県のサンプル村では、1999 年に国連人口基金の支援のもと創設した「婦女参与発展」プロジェクトによるマイクロファイナンスが実施されている。各村では無作為抽出した結果、210 サンプルの収入区分の過半数が絶対貧困世帯となり、貧困層が集中している村がサンプル村に選ばれたことを示す（図 6-1 を参照）。

表 6-1 サンプル村及びサンプル世帯数（甘肅省定西地区）

県名	村名	サンプル数
臨洮県	玉井鎮嵐观坪村 新添鎮趙家湾村 玉井鎮楊家台村	70 世帯
通渭県	第三鋪郷王家河村 鷄川鎮四合村 鷄川鎮許堡村	70 世帯
渭源県	本庙村 大庄村 盐滩村	70 世帯
	新添鎮刘家沟门村 玉井鎮白塔村 第三鎮郷万家岔村 雷岔村 沈家滩村 前进村	

2) 貴州省

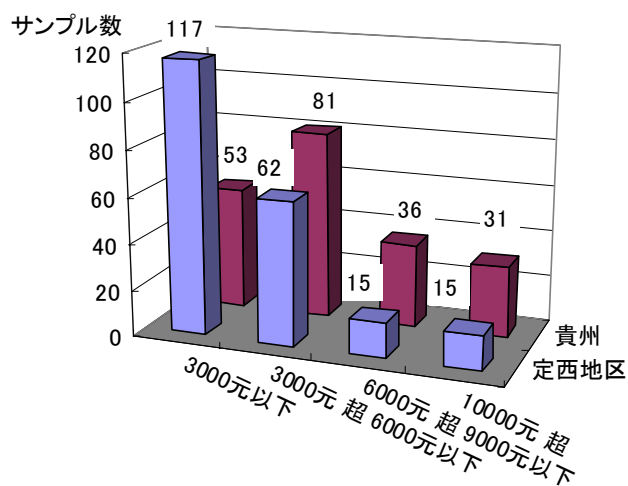
全 201 票を 3 県、各県 4～5 村、各村 8～20 世帯に分けて調査した。貴州省では、貧困村を 3 ランクに分けている（1 級がもっとも貧困度が高い）。14 サンプル村中 5 村が 1 級貧困村、2 村が 2 級貧困村、1 村が 3 級貧困村に指定されている。また、六枝県のサンプル村では、扶貧基金会のマイクロファイナンスプロジェクトが実施されている。各村では、4 段階の収入レベル（絶対貧困層、低収入層、中収入層、高収入層）ごとに無作為抽出された。

表 6-2 サンプル村及びサンプル世数 (貴州省)

県名	村名 と サンプル数 ()内は貧困村の等級			
六盘水市六枝県	岩脚鎮天坎村 (非重点村)	12 世帯	新場郷新場村 (非重点村)	17 世帯
	岩脚鎮錦鐘村 (非重点村)	15 世帯	新場郷嘎納村 (非重点村)	14 世帯
	岩脚鎮民樂村 (非重点村)	21 世帯		
畢節市納雍県	昆寨郷中集村 (1級貧困村)	13 世帯	昆寨郷中心村 (1級貧困村)	15 世帯
	昆寨郷新店村 (1級貧困村)	8 世帯	昆寨郷千秋村 (1級貧困村)	16 世帯
畢節市大方県	鼎新郷中心村 (3級貧困村)	15 世帯	鼎新郷長丰村 (1級貧困村)	8 世帯
	鼎新郷新發村 (1級貧困村)	16 世帯	鼎新郷風景村 (1級貧困村)	20 世帯
	鼎新郷興啓村 (非重点村)	11 世帯		

定西地区と貴州省におけるサンプル世帯の年収は図 6-1 のとおりであり、全サンプルの 93%が農業収入をもつ。

図 6-1 サンプル世帯の年純収入所得の分布



(3) 調査実施時期

2005年3月

(4) データ収集方法

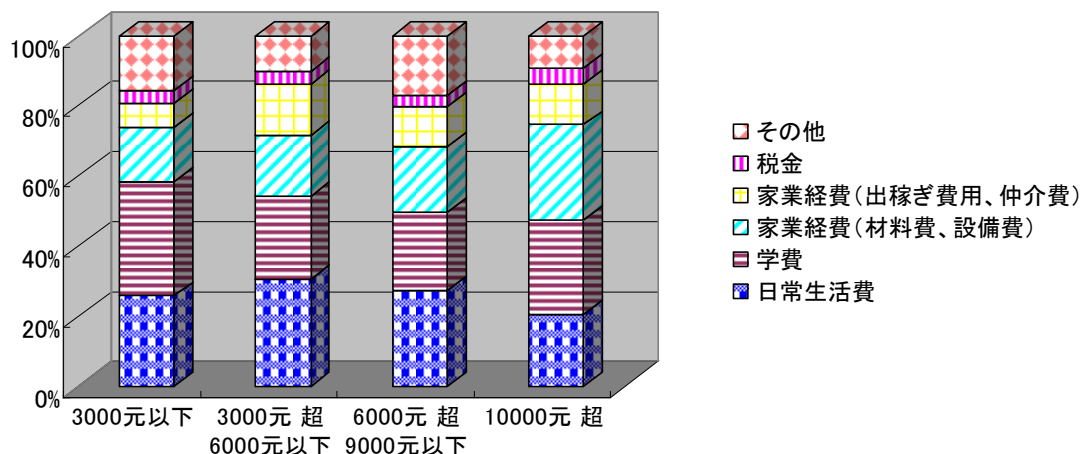
選択肢質問票による訪問調査

6.3 調査結果

6.3.1 出費の状況

図 6-2 は、世帯年収区分による出費の平均割合を示している。まず、学費については、もっとも貧困な世帯において一番負担割合が高いことがわかる。逆に最も裕福な世帯は、日常生活費の割合が減り、その分、家業経費に投入することが出来ている。

図 6-2 世帯の年純収入区分による出費の割合

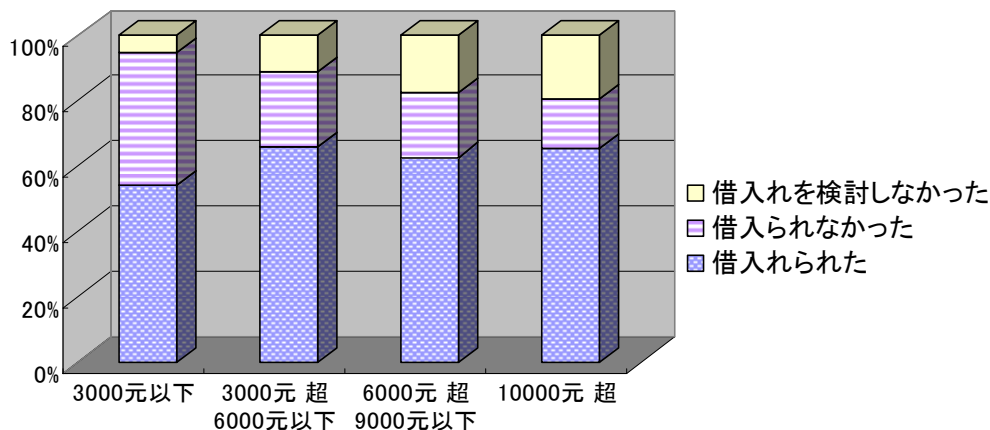


6.3.2 借入れの状況

(1) 借入れの需要と実現性

図 6-3 は、世帯年収区分による過去3年間の借入れの需要と借入れの実現性の傾向を示したものである。より貧困な家庭ほど借入れの需要が高い反面、借入れの需要が満たされていないことが示されている。

図 6-3 世帯の年純収入区分による借入れ実現性の傾向

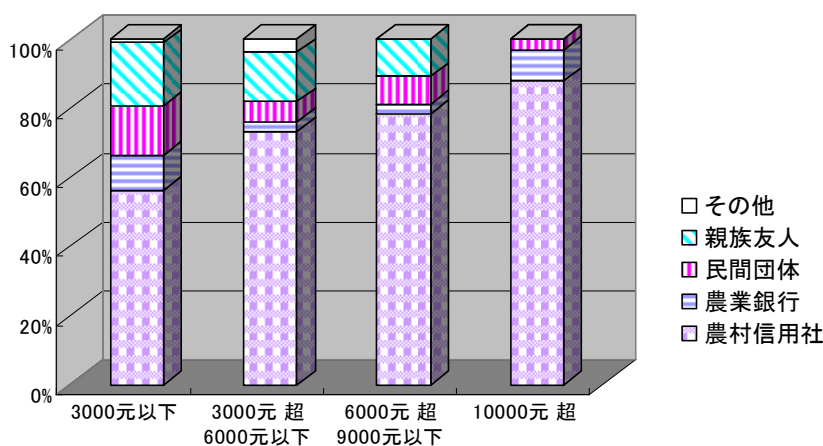


(2) 借入先

図 6-4 は世帯の年収区分による借入先を示したものである。どの収入レベルにおいて

も、農村信用社が主要な借入先となっているが、収入レベルがあがるほど借入先としての比率が増える。中国農業銀行は、信貸扶貧資金を提供しているため、もっとも貧困な世帯への貸付割合は高いが、低中収入層についての借入実績が少ない。また、収入基準が低いほど親族や友人からの借入に頼る傾向が強いことがわかる。

図 6-4 世帯の年純収入区分による借入先

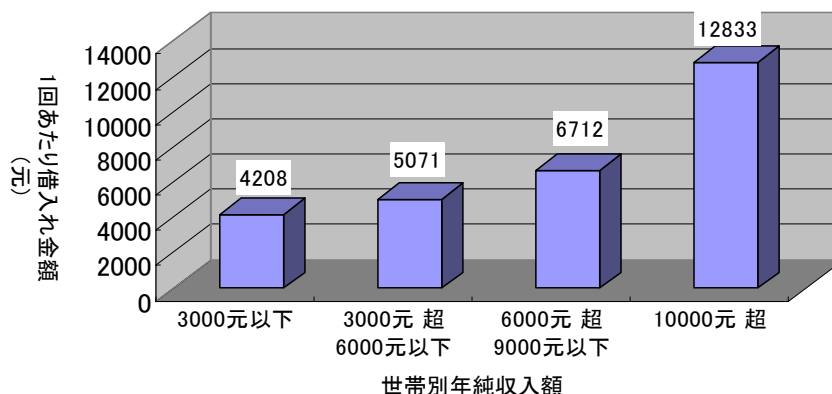


注：借入先を複数回答で示したもの。割合は借入れ機関の種類に基づき算出している。借入れ残高に基づき算出したものではない。

(3) 1回あたり借入金額

1回あたり借入金額は図 6-5 に示すとおり、世帯の収入が上がるほど大きくなっている。但し、年純収入 3000 元以下と 6000 元以下の世帯層の平均借入金額は、平均年純収入を上回っている。

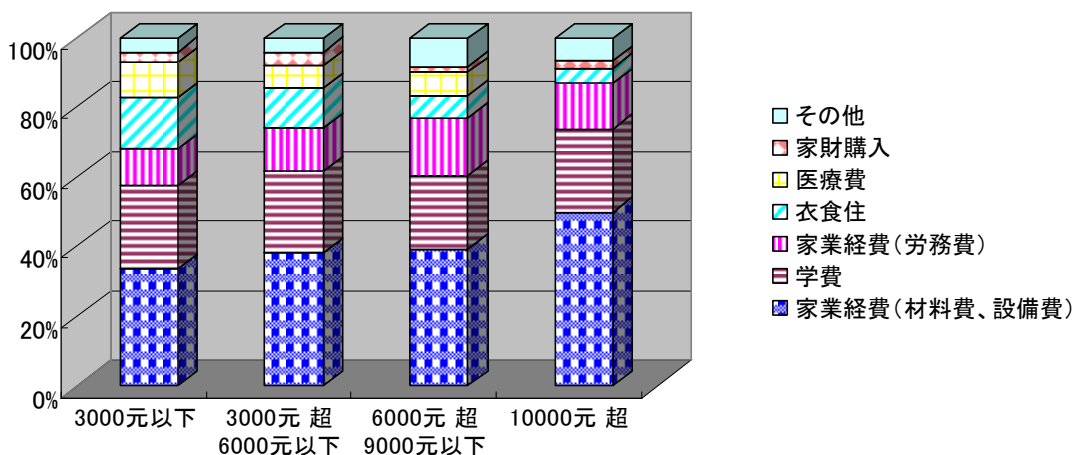
図 6-5 世帯の年純収入区分による1回あたり平均借入金額



(4) 資金使途

借入を検討した際の資金使途は、図 6-6 のとおり、家業経費（材料費、設備費）、学費、家業経費（労務費）が多い。衣食住や医療費のための借入れは収入レベルが上がるにつれ、減少する。学費のための借入需要は収入レベルにかかわらず多い。

図 6-6 世帯の年純収入区分による資金使途の需要

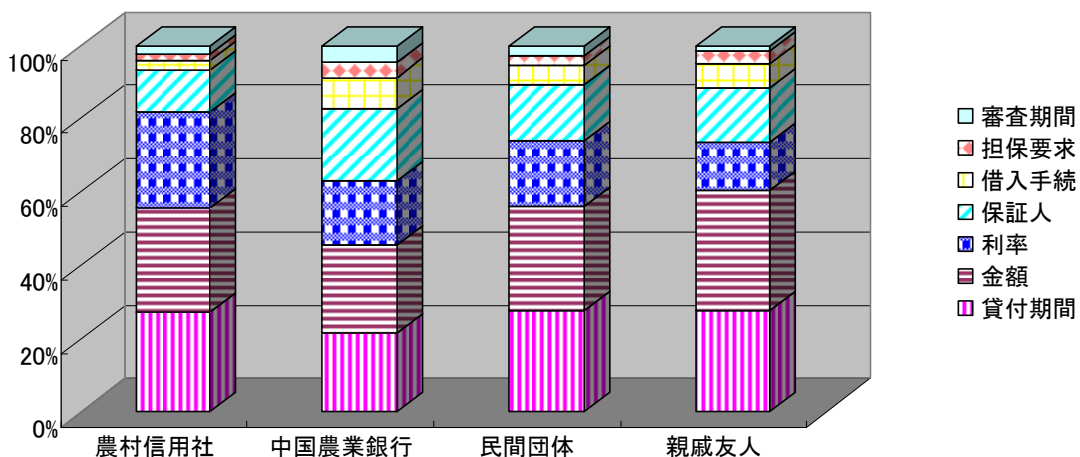


注：借入れを検討した際の資金使途を項目別に複数回答方式でまとめたもの。割合は投資投入量に基づくものではない。

(5) 借入時の問題点

図 6-7 は借入機関別の借入れ時の問題点を示す。どの金融機関も貸付期間、金額、利率がもっとも大きな問題点として挙げられており、次に、保証人の問題が挙げられている。

図 6-7 借入れ時の問題点



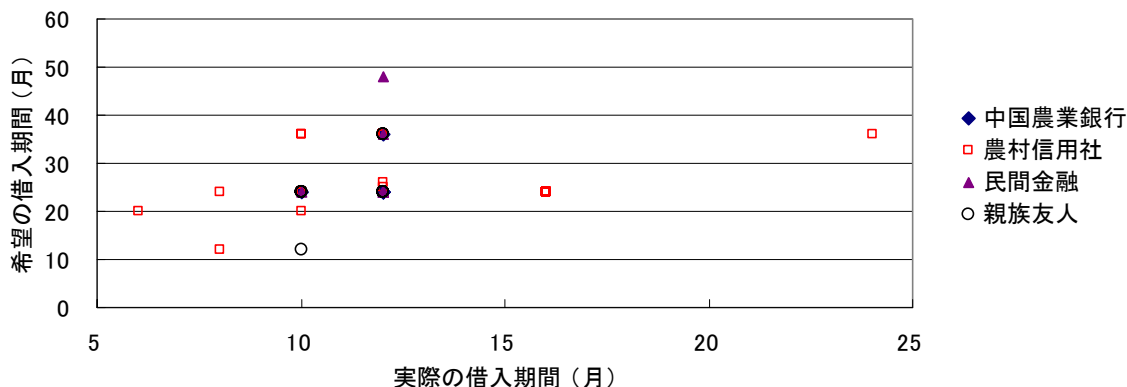
注：複数回答あり

1) 借入期間

図 6-8 は実際に適用された借入期間 (X 軸) と希望の借入期間(Y 軸) を示したものである。実際の借入適用期間は 6~24 ヶ月 (平均 12 ヶ月) に対し、希望借入期間は

12～48ヶ月（平均29ヶ月）であった¹。

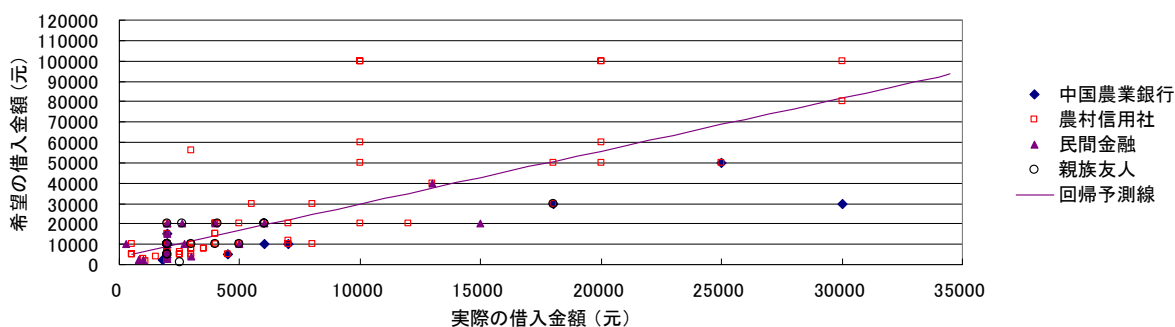
図 6-8 借入れ先別の実際借入期間と希望借入期間の比較



2) 借入金額

図 6-9 は実際の 1 回あたりの借入金額 (X 軸) と希望の借入金額 (Y 軸) を示したものである。実際の借入金額の平均値は 5500 元に対し、希望借入金額の平均値は 18000 元であった²。実際借入れ金額と希望借入れ金額の間には相関関係がみられる。

図 6-9 借入れ先別の実際借入金額と希望借入金額の比較



回帰予測線 : $Y=3799.366 \times 2.597X$ ($R^2=0.54$, 有意確立 0.000)

3) 金利

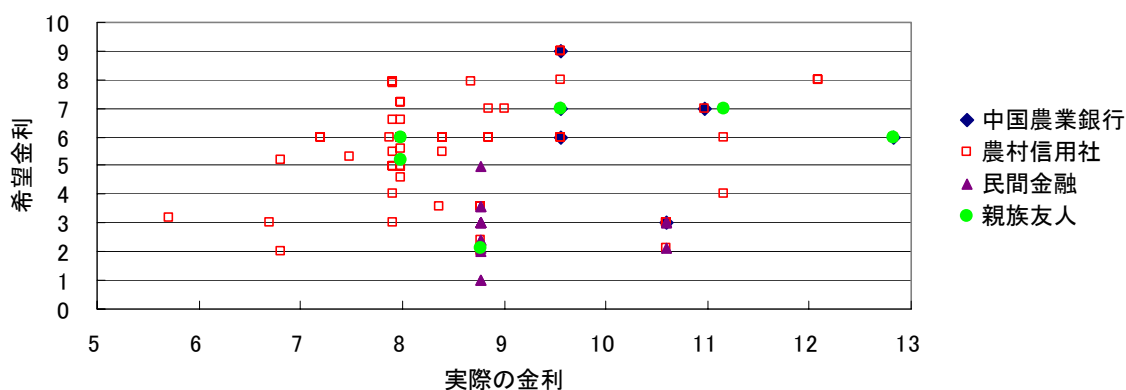
図 6-10 は実際に適用された金利 (X 軸) と希望金利 (Y 軸) を示したものである。実際に支払った金利は 5.7～12.8%。それに対して、希望する金利は中国農業銀行、農村信用社、親族友人借入れ者が平均 5.7%、民間金融からの借入者が平均 2.7%となっている。後者は、中国農業銀行の扶貧資金程度のレートに見合うものである³。

¹ 有効回答数 116 票中の 3 票にあたる希望借入期間 72 ヶ月、96 ヶ月の回答を除外して計算した。

² 有効回答数 141 票中の 2 票にあたる実際借入金額 57000 元と希望借入金額 200,000 元の回答を除外して計算した。

³ 甘肅省定西市の信貸扶貧資金のレートは 2005 年 1 月時点で 1 年目が 2.65%、2 年目以降が 5.31% だったが、2005 年 6 月には 1 年目が 3%、2 年目以降が 8.75% に上昇した。

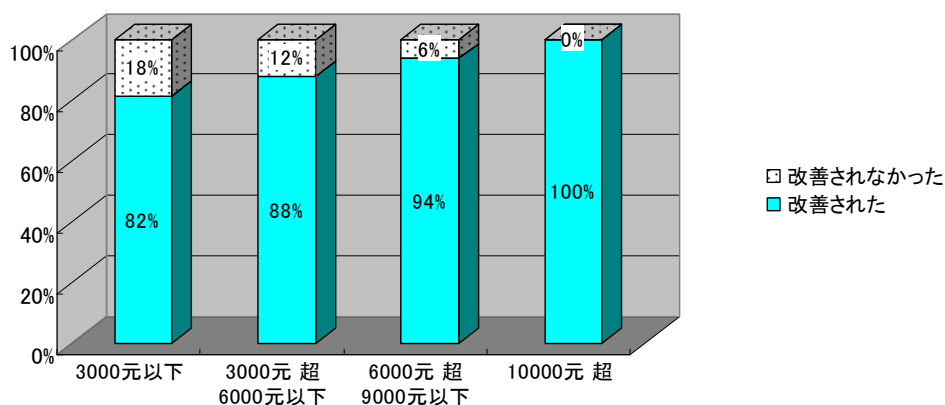
図 6-10 借入れ先別の実際支払い金利と希望金利の比較



(6) 借入れの効果

図 6-11 は、借入れによって生活または事業が改善されたかどうかを聞いたものである。収入レベルが低い家庭ほど満足度が低くなっている⁴。

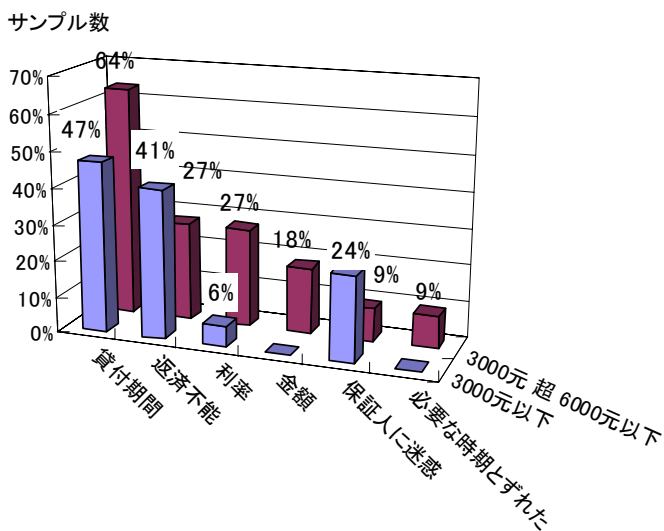
図 6-11 世帯の年純収入区分による借入れ満足度



更に、世帯の年収区分別に借入れによっても生活または事業が改善されなかった理由をみると、最も深刻な問題として借入期間が挙げられた。また、借入れを実施した有効回答の4%にあたる10サンプルが返済不能であったことが示された。

⁴ 資金用途と借入れの効果には相関がみられない。

図 6-12 生活または事業が改善されなかった理由

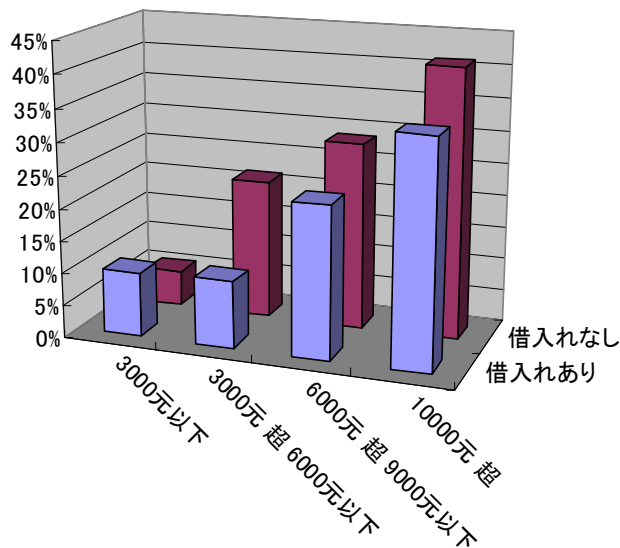


注：％は、それぞれの年収区分の中で、借入れにより生活または事業が改善されなかったと答えたサンプル数（3000元～6000元で11サンプル、3000元以下で17サンプル）に占める割合。複数回答あり。

6.3.3 預金の状況

図 6-13 は、借入れの世帯年収区分と借入れの有無の類別により掛け合わせた 8 グループ別の預金保有率を示したものである。年収が多いほど預金保有率が高くなっていく。また、借入れにより預金保有率が高まる傾向はみられない。

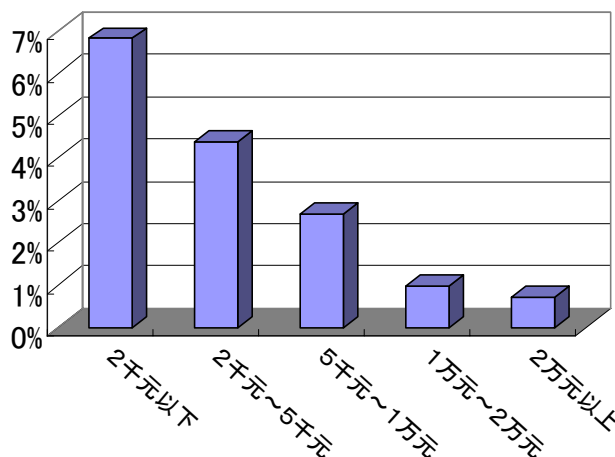
図 6-13 世帯の年純収入と金融機関からの借入れの有無による預金状況



注：％は、それぞれの年収区分と、農村信用社または中国農業銀行から借入れのある場合とない場合を組み合わせた各 8 グループの中で、預金がある世帯の割合。

また預金額の分布は図 6-14 に示されるとおりである。

図 6-14 預金額の分布



注：%は全サンプル数に対するそれぞれの預金額をもつサンプルの割合。

6.4 調査結果からみる傾向

以上のアンケート分析結果から得られる政策提言のための基本情報は以下のとおりである。

i) 借入れ需要

借入れ需要は収入が低い層の世帯も高い傾向があるが、最貧困世帯については、その需要がもっとも満たされていない。

ii) 貸付先

農村信用社は、どの収入区分についても主要な貸付先であるが、収入レベルが上がるにつれ、その役割が増す。最貧困層には、農村信用社のほか、中国農業銀行、民間団体、親族友人が貸付先として主要な役割を果たしている。

iii) 資金使途

家業経費のために借り入れる割合は収入レベルが高まるほど大きくなる。一方、学費については、収入レベルにかかわらず収入からの出費割合が高く、資金使途としての借入れ割合も多い。農村信用社がもっとも多く家業経費目的の貸付を実施している。一方、学費は中国農業銀行による貸付割合が高い。

iv) 借入効果

ほとんどの世帯が借入れの効果を実感することが出来たが、借入れの効果を感じなかった割合は、収入レベルが低くなるほど高くなる。

v) 借入金額

平均借入金額は収入レベルが高まるほど大きくなる。借入金額の枠を上げて欲しいと願っている人は多いが、実際の借入れ効果をなくす最重要要因ではない。

vi) 借入期間

現状 6～24 ヶ月間の借入期間を 12～48 ヶ月に伸ばして欲しいという要望が強かった。借入期間の短さは、借入れ効果をなくす最重要要因である。

vii) 金利

借入れ金利の引き下げについては、市場に出ているもっとも低い農業信用銀行による信貸扶貧資金程度のレートを希望する声が多かった。但し、金利は、実際の借入れ効果をなくす最重要要因ではない。

viii) 預金保有率

預金保有率は収入レベルが高くなるほど大きくなる。また、借入れを行っていることが預金保有率の引き上げにつながっているわけではない。

第7章 農業振興アンケート調査結果の分析

7.1 調査目的

西部地域における農家及び農業関連企業の経営状況と資金需給の現状を、アンケート方式によって調査した。

7.2 調査手法

(1) 対象地域

貴州省

(2) サンプリング

1) 農家

貴陽市の花溪区、烏当区、修文県及び安順市紫雲県を選び、さらにそれぞれの区・県の10村をランダムに選んだ。各村においては収入に応じて農家を3グループに分け、それぞれのグループから1戸の農家を選び、合計120世帯の農家に対しアンケート調査を行った。

2) 企業

11社の龍頭企業に対してアンケート調査を行った。内訳は、製薬業5社、食品加工業3社、乳業2社、卸売市場経營業者1社である。

(3) 調査実施時期

2005年3月

(4) データ収集方法

選択肢質問票による訪問調査

7.3 調査結果

7.3.1 農家の基本状況

貴州は少数民族が集中する地方であり、表7-1に示すように調査対象農家の三分の一は少数民族であった。苗族、ブイ族などの少数民族の多くは自然条件が厳しい地域に生活している。世帯主の大多数は男性であり、彼らが世帯の生産活動と経営の決定権を握っていると考えられる。世帯主の学歴と収入には比例関係があり、高学歴になるほど収入は高い。これは教育程度の低さが、農業生産に必要な技術、情報、資金などの伝達、利用にマイナスに働くことを示唆している。

表 7-1 世帯主の特性

世帯主の性別	男		女	
	87.5%		12.5%	
世帯主の民族	漢族	苗族	ブイ族	その他
	65%	24.2%	10%	0.8%
世帯主の最終学歴	高卒	中卒	小学	文盲
	18.33%	47.5%	33.3%	0.8%

1戸あたりの平均可耕地は4.73 ㍊と非常に狭く、さらにそのうちの1.62 ㍊は、水稻栽培が不可能な傾斜地である。こうした傾斜地には主にトウモロコシが栽培されている。平均灌漑面積は1.84 ㍊で、農業用地の38.9%を占める。牛は主に農耕用に飼育されている。

表 7-2 農家の主な特徴

平均世帯人口(人)	4.41
平均労働人口(人)	2.68
世帯主平均年齢(歳)	41.71
1世帯あたり耕地面積(㍊)	4.73
傾斜地の畑地面積(㍊)	1.62
灌漑面積(㍊)	1.84
1世帯あたり家畜保有	
牛(頭)	1.03
うち水牛	0.53
豚(頭)	2.69
家禽(羽)	22.12

耕地は狭いながらも、栽培されている作物の種類は多い(表7-3参照)。しかし、これらの作物の多くは自家消費用と考えられる。

表 7-3 主要生産物

食糧生産量(kg)	
米(水稻)	660.3
米(陸稲)	18.0
とうもろこし	474.1
豆類	42.5
イモ類	425.8
野菜(白菜)	667.8
菜種	107.8
果樹栽培生産量(kg)	
梨	29.30
りんご	14.46

表7-4に示すように、農家の純現金収入の内訳を見ると、非農業所得が全体の61%と農業所得の39%を大きく上回る。農業所得が比較的低いのは、上に述べたように作物の多く(特に穀物)が主として自家消費用に生産されていることに加え、農家所得の非農家傾向の高まりが原因である。さらに、農業収入のなかでは牧畜業の割合が最も高く、これは貴州省における農業産業構造調整の効果が現れつつあることを示唆している。

表 7-4 2004年の収入情況 (元)

農家平均現金純収入	11,016.51
農業収入	4,296.74 (39.0%)
穀物	1,174.62
野菜・果樹	1,338.70
家畜・水産	1,821.30
非農業収入	6,719.78 (61.0%)
商売	4,358.62
出稼ぎ	2,361.16

7.3.2 龍頭企業の基本状況

表7-5は調査対象企業の経営状況を示している。

表 7-5 経営状況

平均年数(年)	8.09	平均登録資本(万元)	2,075.18
企業従業員(人)	576	平均売上高(万元)	28,916.31
企業負債額(万元)	5,265.87	各融資総額(万元)	3,648.64

7.3.3 投資と資金調達状況

(1) 農家

表 7-6 2002～2004年の投資情況 (元)

過去3年の投資総額	13,474.96	
非農業	7,060.74	52.4%
畜産業	3,370.33	25.0%
栽培業	3,043.89	22.6%
過去3年希望したが実現しなかった投資	14,098.34	
農業	9,866.94	70.0%
非農業	4,231.40	30.0%

農家が行った過去3年間(2002～2004年)の投資総額及び希望したものの実現しなかった投資額は、表7-6に示す通りである。

投資を行った農家についてみると、畜産業に投資した農家の15%が農村信用社から融資を受けたと答えている(平均利率7%、期限1年)。非農業分野では11.7%、栽培

関係ではわずか7.5%の農家しか農村信用社から融資を受けていない。過去3年間のうち、実現できなかった投資の理由を聞いたところ、40%は資金不足で、その残りは技術やマーケティング情報の欠如、道路不通などが挙げられた。

表 7-7 農家の今後の投資予定分野と額 (元)

今後3年の投資予定	29,276.04	
非農業	14,735.54	(50.3%)
農業	14,540.50	(49.7%)
今後10年の投資予定	18,061.98	
栽培業	8,148.76	(45.1%)
畜産業	5,119.83	(28.3%)
非農業	4,793.39	(26.5%)

農家の今後の投資予定分野と投資予定額は、表 7-7 に示す通りである。

このうち、将来の投資についてみると、農業関係では55%の農家が農村信用社からの貸付を希望している。条件としては、栽培・畜産周期に沿い1年から2年、利率は7%から4%に下がることを望んでいる。非農業分野に関しては、24.2%の農家が農村信用社からの貸付を希望しており、融資手続きがシンプルで、担保措置が簡単であることを期待している。

(2) 龍頭企業

過去3年間で、調査対象企業1社あたりの生産性投資の総額は4,853.36万元に達した(表 7-8 参照)。内訳を見ると、新規プロジェクトと技術改良がそれぞれ46.9%、38.6%と高い割合を占めている。資金調達方法をみると、72.7%の企業は銀行からの融資を受け、利子は平均7%、貸付期間は平均して2年であった。過去3年間で、企業が希望したが実現できなかった投資の総額は1,459.10万元であり、そのほとんどが新たなプロジェクトのためのものであった。

表 7-8 2002～2004年の投資情況

過去3年の投資総額(万元)	4,853.36	
新規プロジェクト	2,274.91	(46.9%)
技術改良	1,874.00	(38.6%)
運転資金	367.55	(7.6%)
過去3年実現できなかった投資	1,459.10	
新規プロジェクト	1,113.64	(76.3%)
技術改良	345.46	(23.7%)

将来3年間の1社あたり生産性投資計画は、総額5,049.10万元である。そのうち、新規プロジェクトの投資が圧倒的に多い。これら新規プロジェクトにかかわる投資は、農産品原料基地構築や新しい生産ラインの設立などがその主な対象である(表 7-9 参照)。

表 7-9 サンプル企業将来の投資情況

今後 3 年の投資計画(万元)	5,049.10	
新規プロジェクト	4,359.09	86.34%
技術改良	235.46	4.66%
運転資金	454.55	9%
今後 10 年の投資計画(万元)	17,063.63	
新規プロジェクト	15,836.36	92.81%
技術改良	1,227.27	7.19%

(3) 投資期待への対応

本アンケート調査によって、農家についても龍頭企業についても、希望した投資のかなりの部分が実現しなかったこと、今後新規プロジェクト等に関して旺盛な投資需要があることが明らかとなった。農村金融改革を通じて、融資ルートの拡大を図り、これらの投資期待に対応していくことが求められている。